

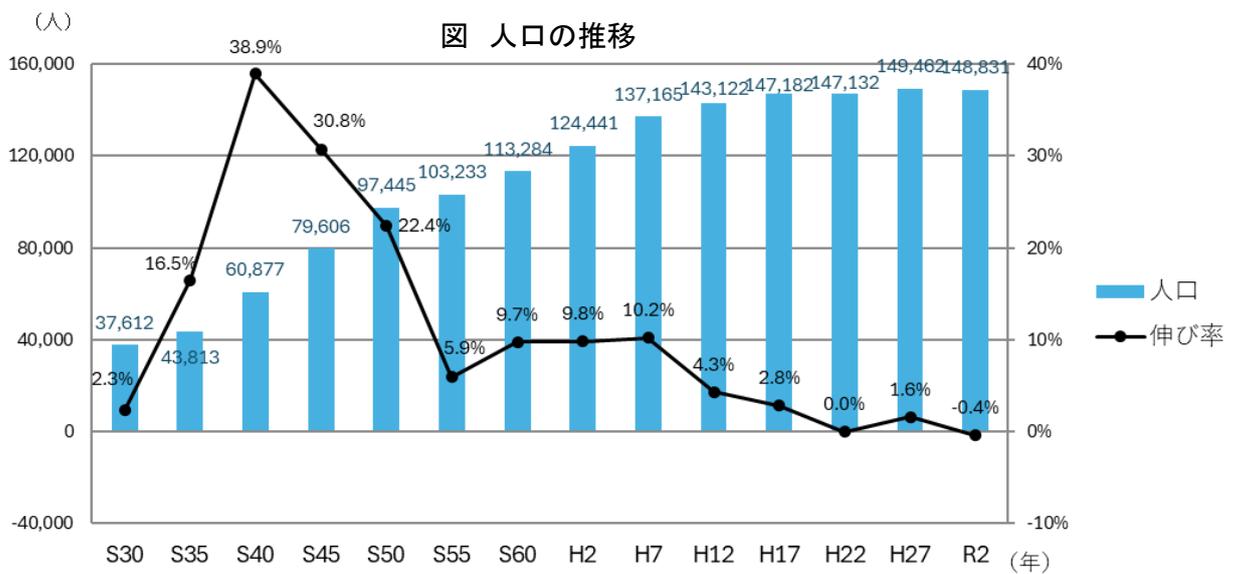
# 第2章 都市構造上の課題の分析・整理

## 2-1 人口・世帯数

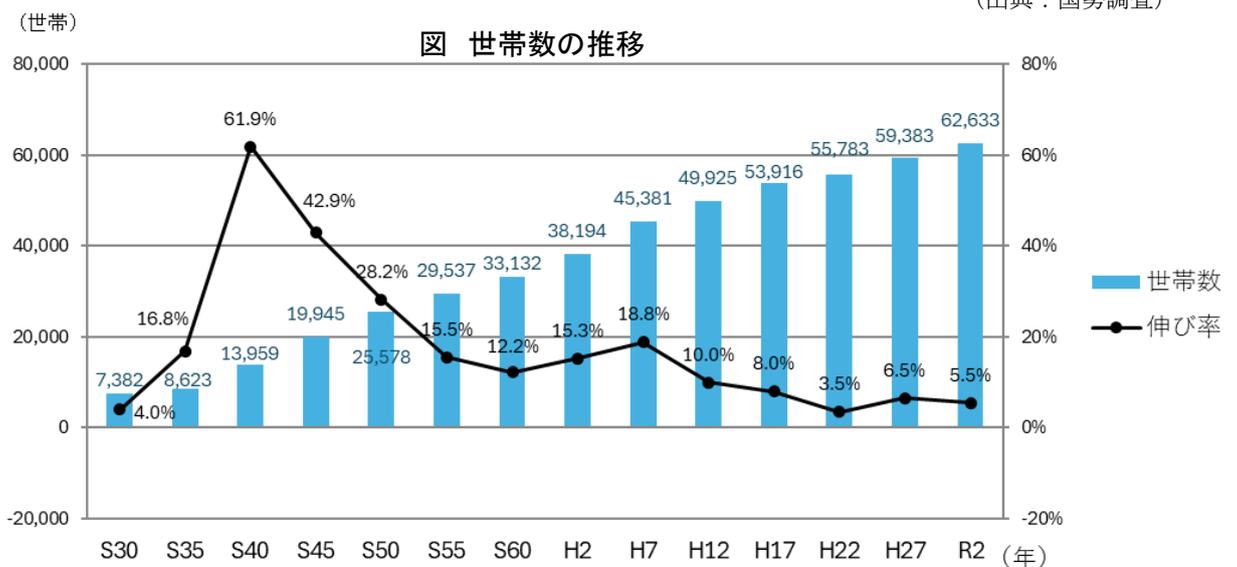
### 1 人口・世帯数の動向

#### (1) 総人口、総世帯数の動向

本市の人口、世帯数ともにほぼ一貫して増加傾向にありましたが、近年伸び率が鈍化しており、人口は令和2年（2020年）に減少に転じています。



※現在市域の人口  
(出典：国勢調査)



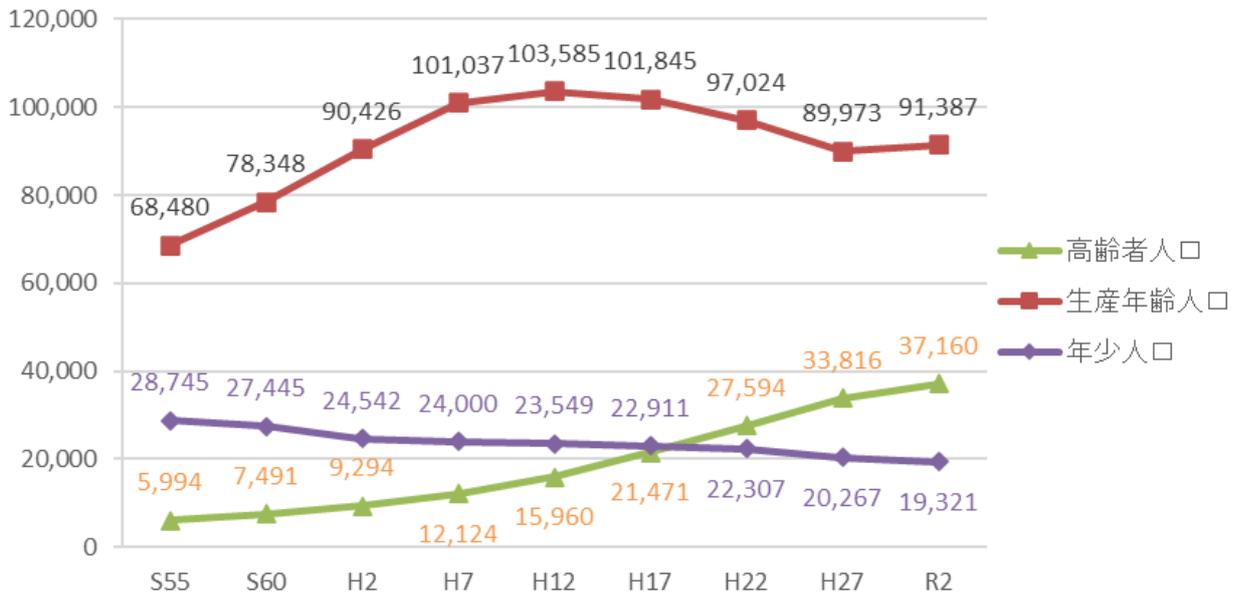
※現在市域の世帯数  
(出典：国勢調査)

## (2) 年齢階層別人口の動向

本市の人口を年齢階層別（年少人口：0歳～14歳、生産年齢人口：15歳～64歳、高齢者人口：65歳以上）にみると、年少人口は昭和55年（1980年）以降減少傾向にあり、生産年齢人口は平成12年（2000年）をピークに減少し、令和2年（2020年）に微増しているものの減少傾向にあります。

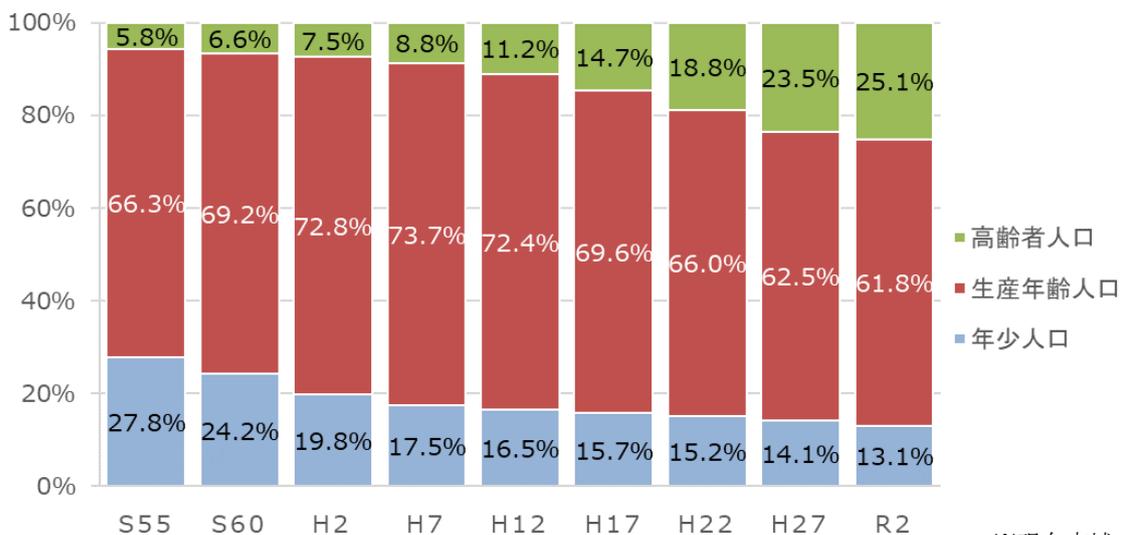
一方、高齢者人口は増加傾向にあり、高齢化率は令和2年（2020年）時点で25.1%となっています。

図 年齢階層別人口の推移



※現在市域の人口  
(出典：国勢調査)

図 年齢階層別人口割合の推移

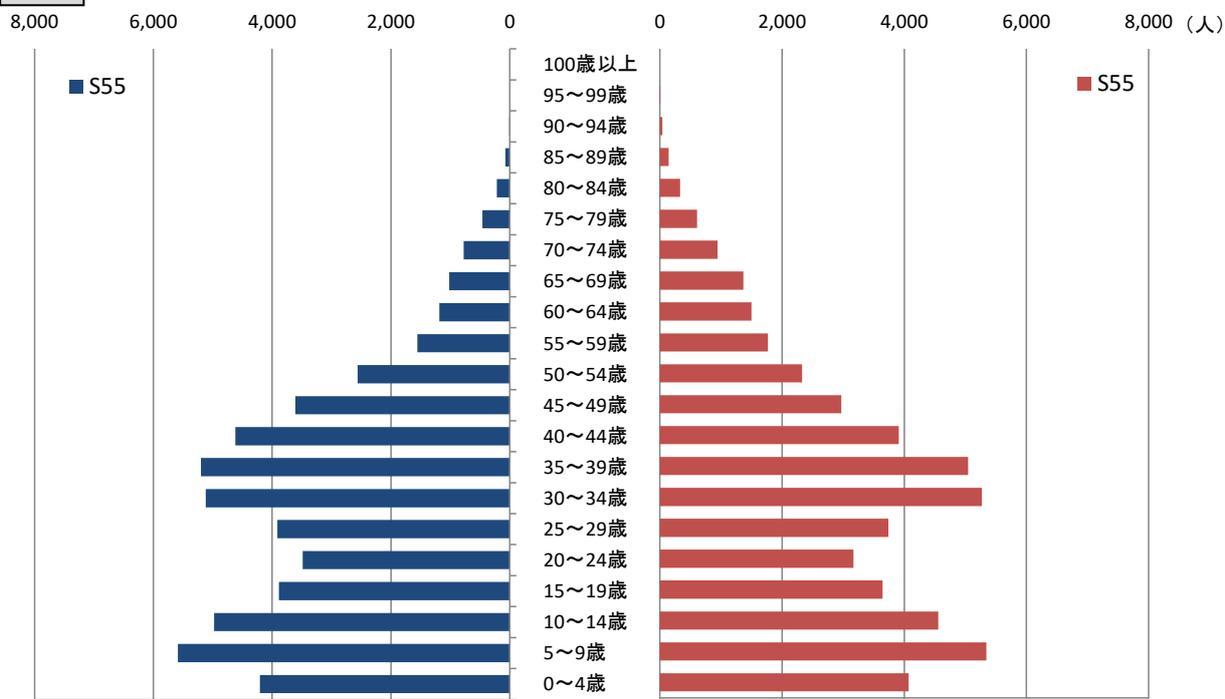


※現在市域の人口  
(出典：国勢調査)

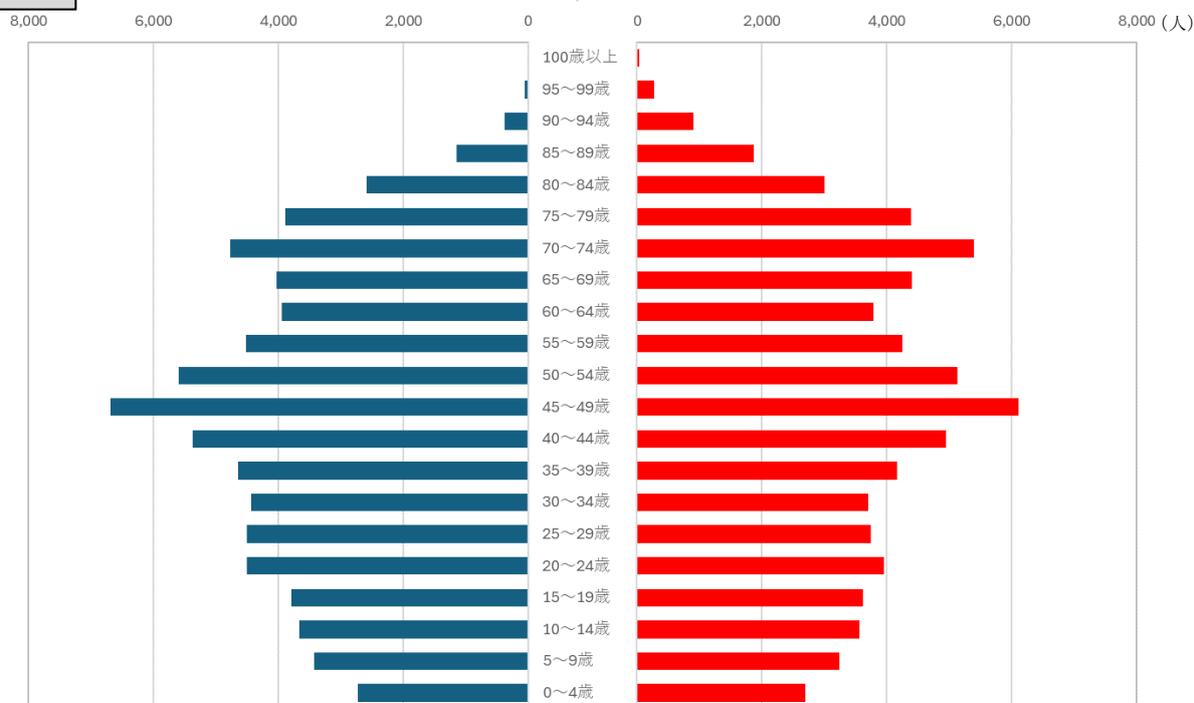
昭和55年（1980年）と令和2年（2020年）の男女別年齢5歳階級別人口を比較してみると、男女ともに年少人口が減少し高齢者人口が増加したことにより、人口ピラミッドは「ピラミッド型」から「釣鐘型」に変化しています。

S55

図 男女別年齢5歳階級別人口の推移



R2

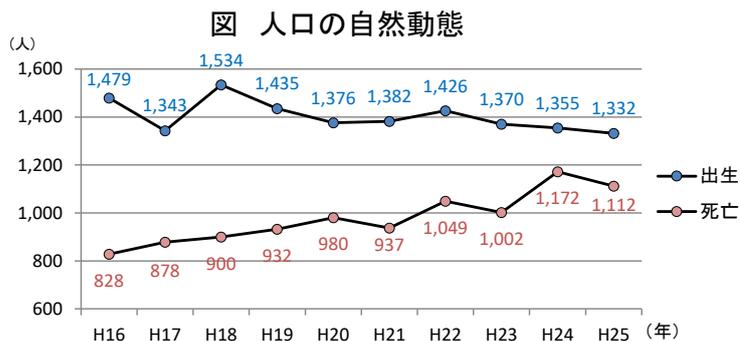


※現在市域の人口  
(出典：国勢調査)

### (3) 自然増減および社会増減の動向

平成 16 年（2004 年）以降、総じて出生数は微減傾向にあり、死亡数は総じて増加傾向にありますが、依然として出生数が死亡数を上回っているため、自然増が続いています。

また、社会増減は年により異なっており、平成 19 年（2007 年）以前は転出が 200 人以上超過する状況となっていました。近年は、転入超過と転出超過を繰り返しています。なお、年齢別では 20 歳代から 30 歳代の転出超過が顕著にみられます。



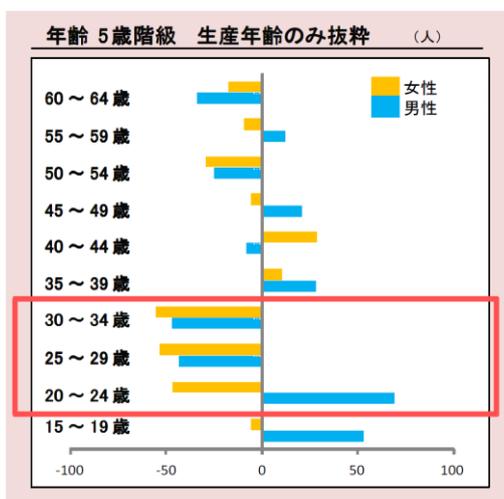
※日本人のみ

(出典：小牧市統計年鑑)



(出典：小牧市統計年鑑)

### 図 年齢階層別の転出超過数



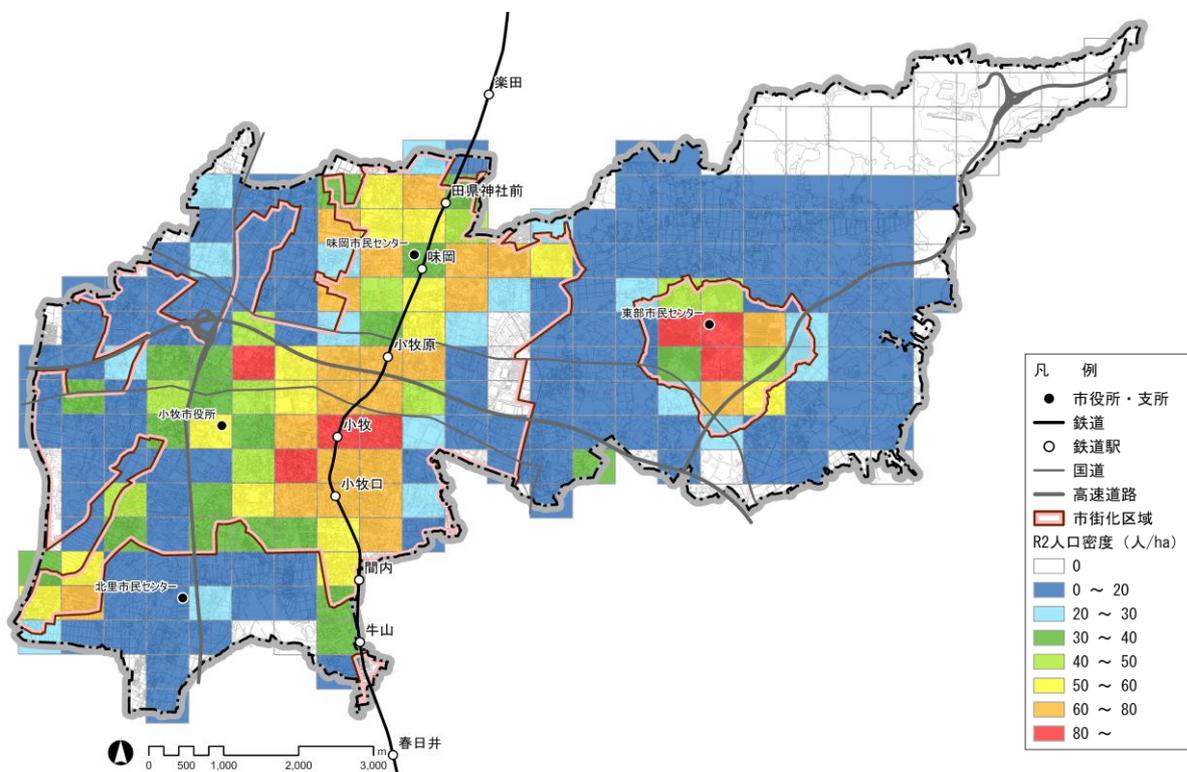
(出典：小牧市人口ビジョン)

#### (4) 地区別人口・世帯数の動向

本市の人口を地区別でみると、令和2年（2020年）時点の人口密度は、市街化区域で約44人/haとなっており、DID区域を設定する目安である40人/haを上回っています。さらに詳細にみると、小牧駅周辺や桃花台ニュータウンにおいて80人/ha以上の高密度となっています。

また、平成17年（2005年）から平成22年（2010年）にかけての人口と世帯数の増減をみると、小牧原駅、小牧駅、小牧口駅の各駅周辺のように、人口、世帯数ともに増加傾向となっている地域や桃花台ニュータウンの一部地域のように、人口は減少傾向となっているものの、世帯数は増加傾向となっている地域もみられるなど、地域によって異なった傾向がみられます。

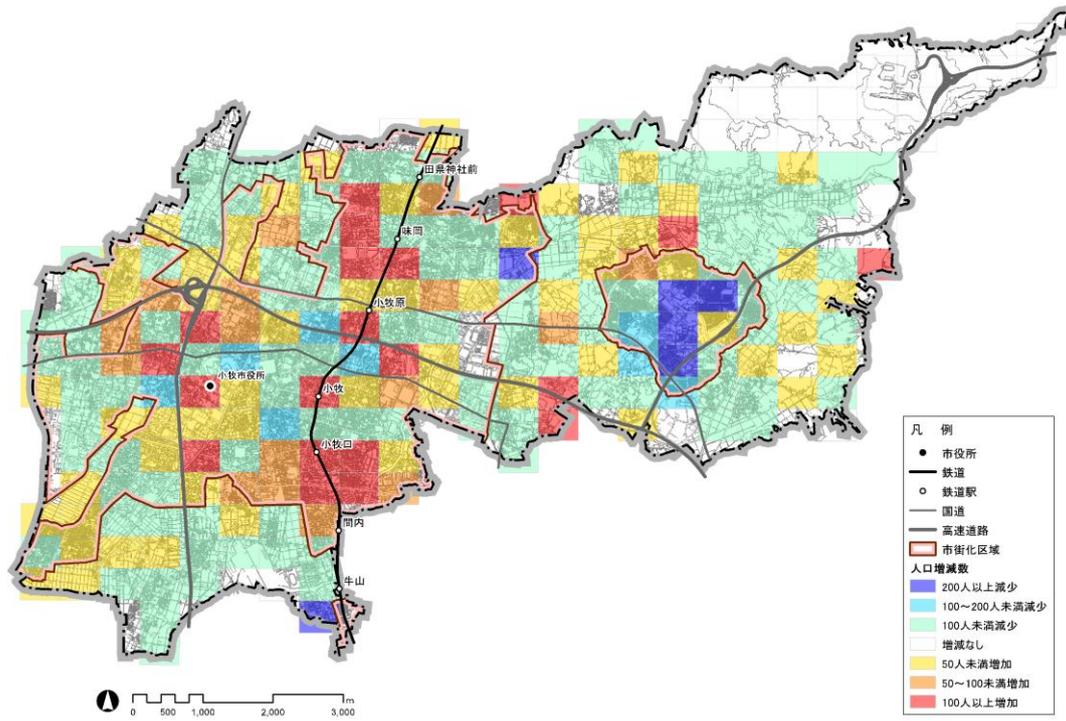
図 地区別の人口密度(R2)



(出典：令和2年（2020年）国勢調査)

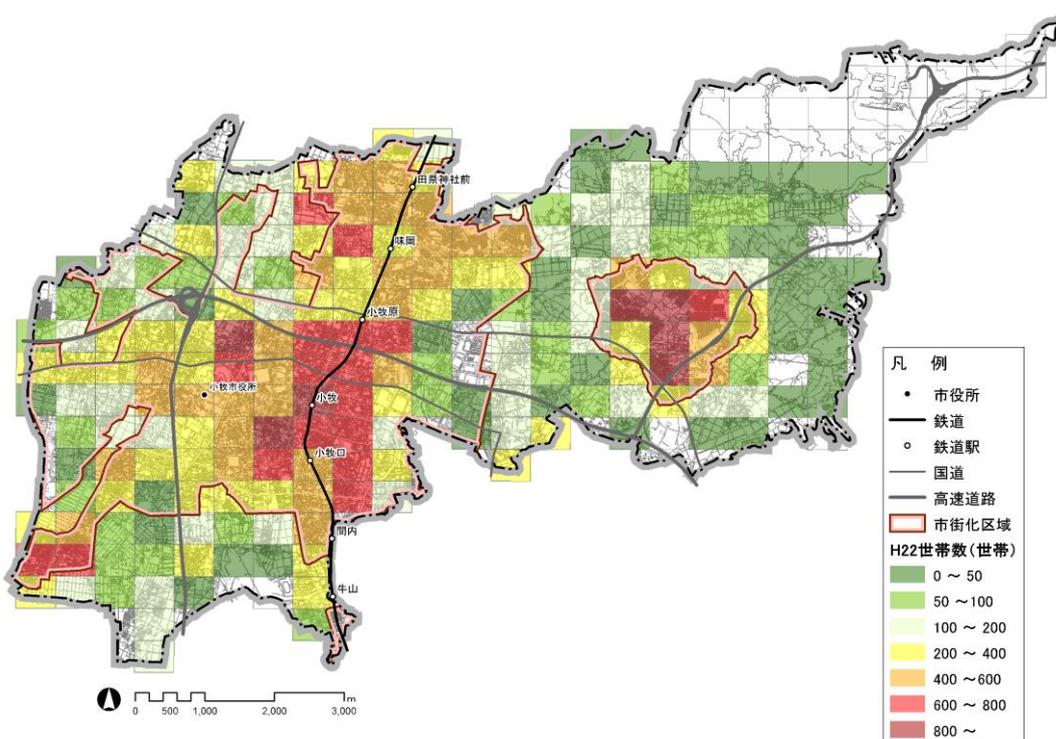
※地域別人口・世帯数の動向を分析するにあたっては、国勢調査等の統計データを作成する際に用いられる地域メッシュ統計（緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目（メッシュ）の区域に分けて、それぞれの区域に関する統計データを編成したものであり、地域メッシュ相互間の事象の計量的比較が容易などの利点がある。）のうち、本市においてより詳細な分析が可能な2分の1地域メッシュ（以下「500mメッシュ」という。）を採用します。

図 地区別の人口増減(H17~H22)



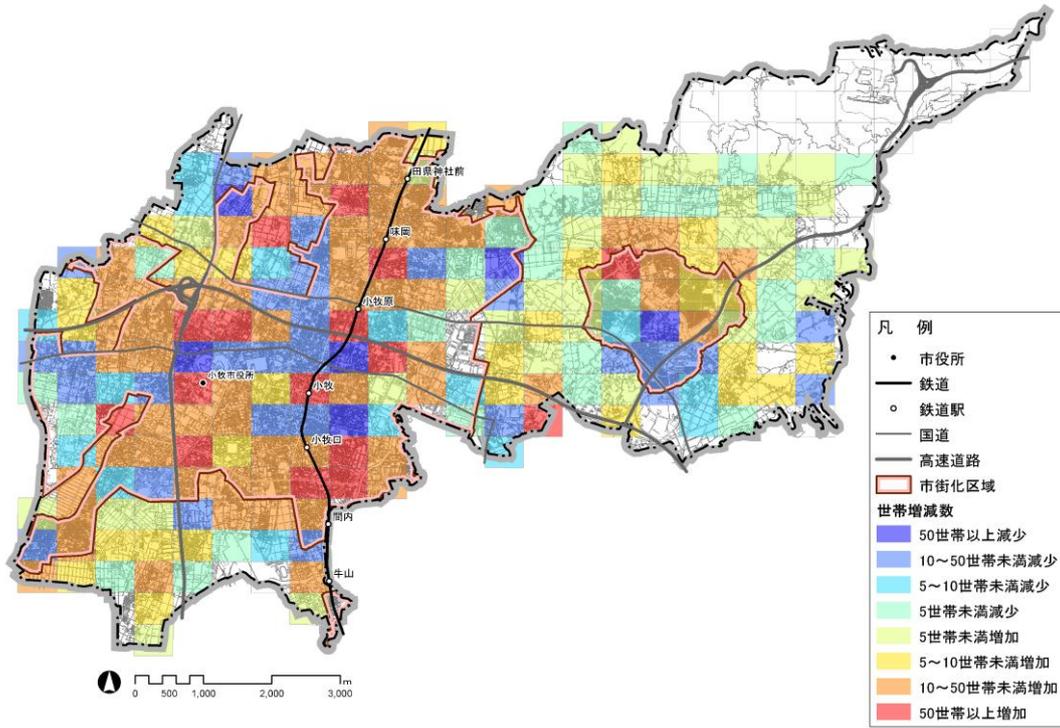
(出典：国勢調査)

図 地区別の世帯数(H22)



(出典：平成 22 年 (2010 年) 国勢調査)

図 地区別の世帯数増減(H17~H22)



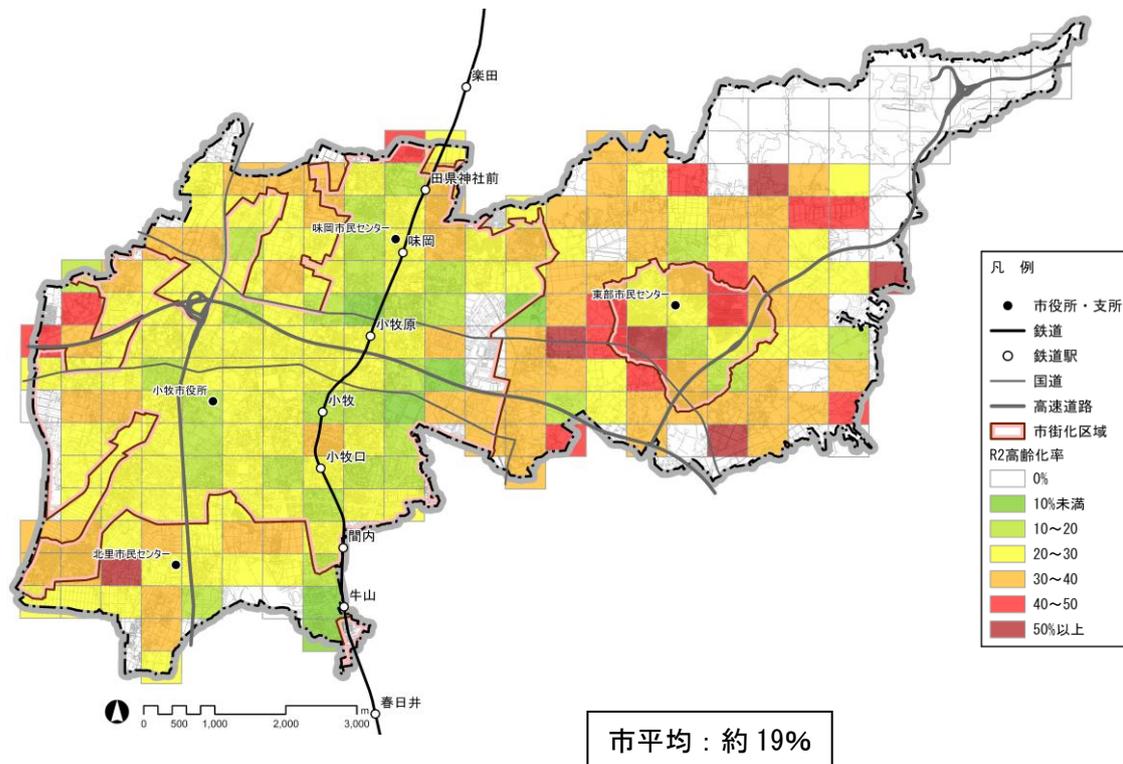
(出典：国勢調査)

## (5) 高齢化の動向

本市の高齢者人口を地区別にみると、令和2年（2020年）時点の高齢化率は、市域東部など市全体の平均（約19%）を上回る地域もみられます。

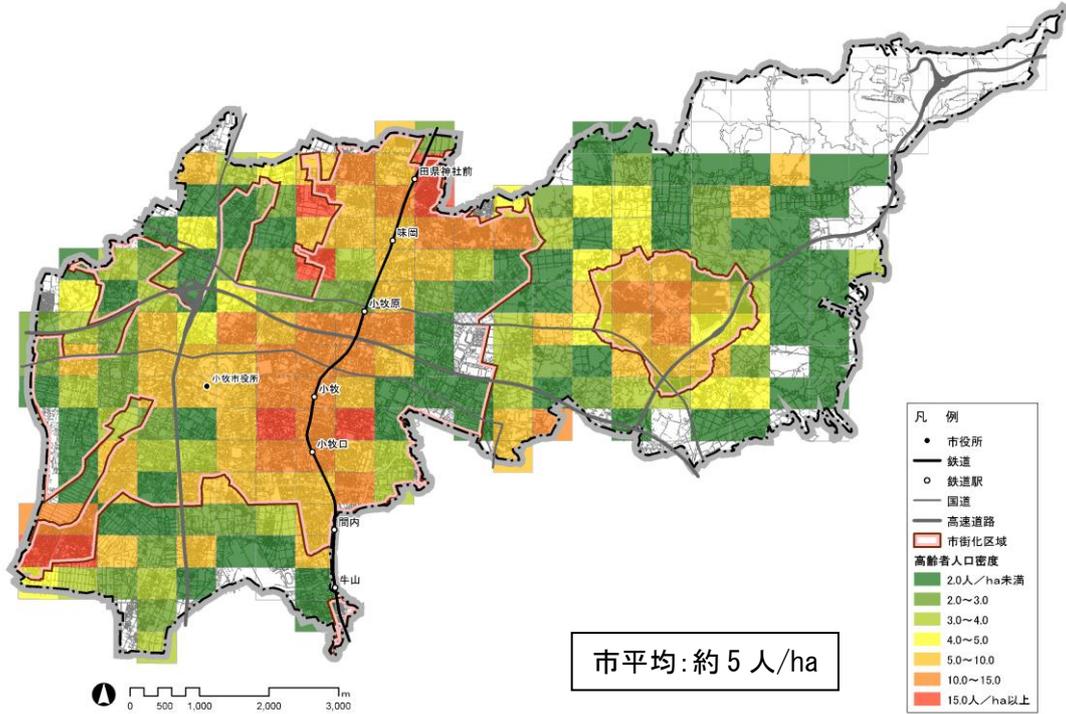
また、桃ヶ丘地区や大山地区等では顕著に高齢化率が増加しており、その他の地区においても局所的に高齢化率が増加していることから、高齢化の進展がみられます。

図 地区別の高齢化率(R2)



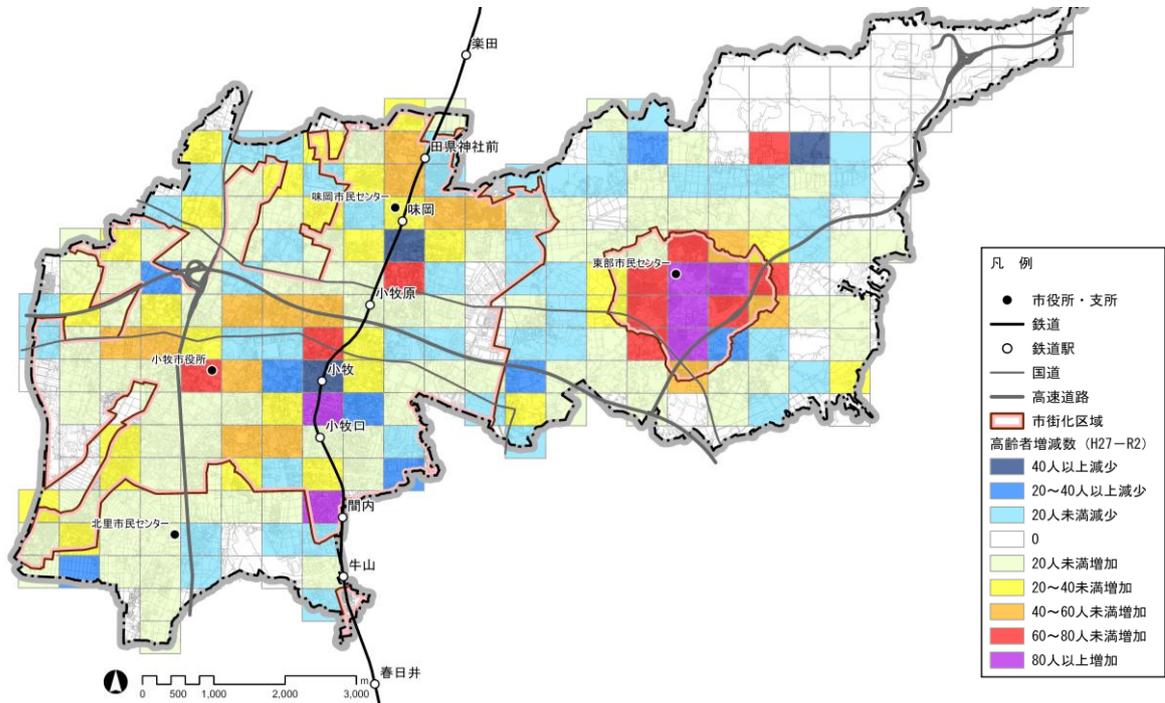
(出典：令和2年（2020年）国勢調査)

図 地区別の高齢者人口密度(H22)



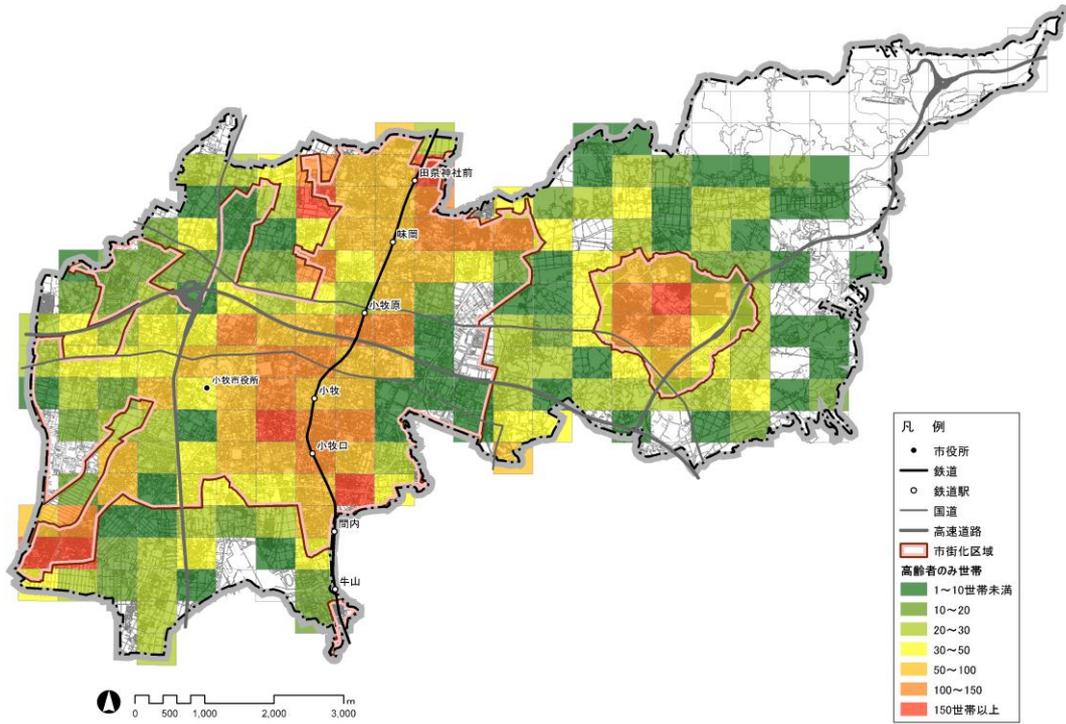
(出典：平成 22 年 (2010 年) 国勢調査)

図 地区別の高齢者人口増減(H27～R2)



(出典：令和 2 年 (2020 年) 国勢調査)

図 地区別の高齢者のみ世帯数(H22)



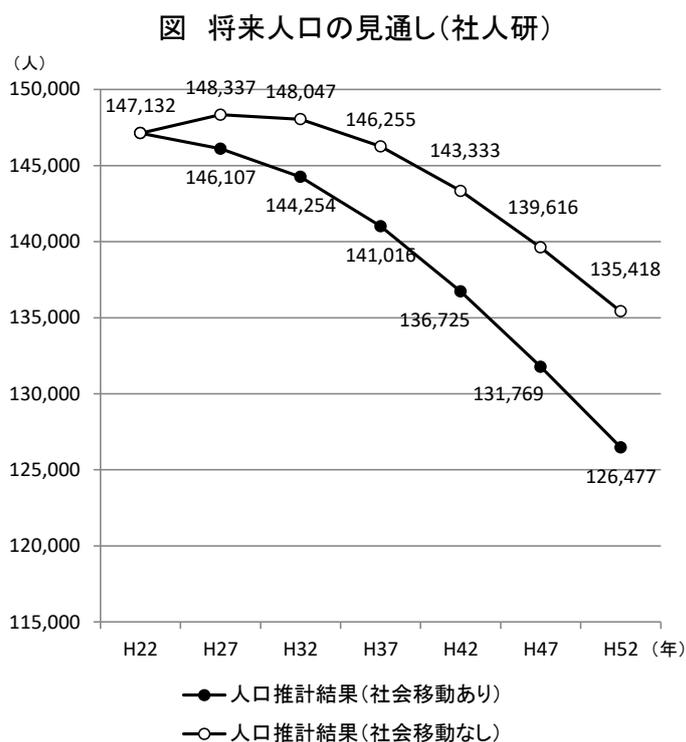
(出典：平成 22 年 (2010 年) 国勢調査)

## 2 人口の将来見通し

### (1) 社人研における将来人口見通し

社人研では、平成 22 年（2010 年）の国勢調査をもとに、平成 22 年（2010 年）10 月 1 日から平成 52 年（2040 年）10 月 1 日までの 30 年間の将来人口を 5 年ごとに推計しています。

この推計結果によると、本市の人口は、平成 22 年（2010 年）以降減少を続けることが見込まれています。また、推計結果を年齢階層別にみると、年少人口及び生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加することが見込まれています。



(出典：日本の地域別将来推計人口（平成 25 年（2013 年）3 月推計）)

※社会移動あり：平成 17 年（2005 年）から平成 22 年（2010 年）の社会移動（転入・転出）率が定率で縮小すると仮定して、コーホート要因法<sup>※</sup>により推計。

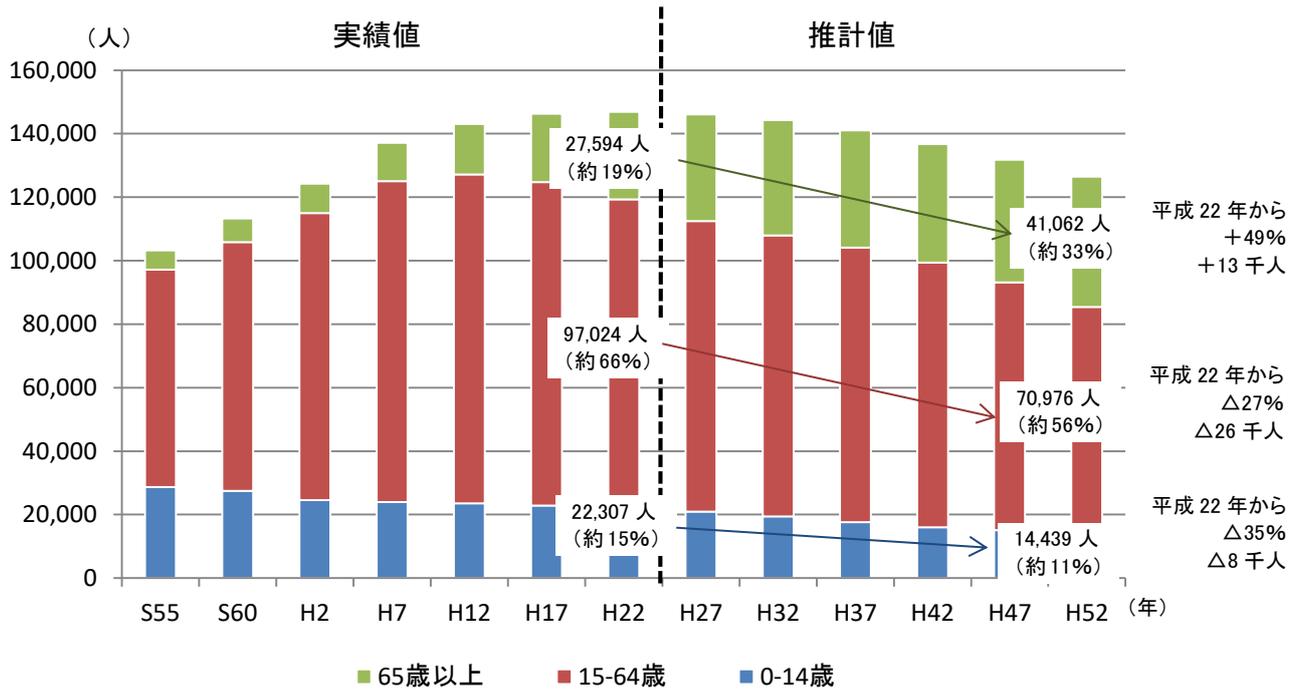
※社会移動なし：転入・転出がつかう（＝社会移動なし（封鎖））と仮定して、コーホート要因法により推計。

※コーホート要因法：地域の将来人口を予測する際に、特定の社会的集団（＝コーホート：通常は年齢階層別男女別人口）ごとに人口予測を行う方法（コーホート法）で、この各コーホートの人口を地域の人口の将来自然増減要因（出生、死亡）と将来社会増減要因（転入・転出）とに分けて推計する方法。

【参考】総人口については、平成 27 年（2015 年）10 月実施の国勢調査により平成 27 年（2015 年）の速報値が公表されているが、確定値及びその詳細については、平成 28 年（2016 年）10 月以降の公表となっています。また、過去の傾向から社人研推計の公表時期は国勢調査の公表から約 3 年を要しています。

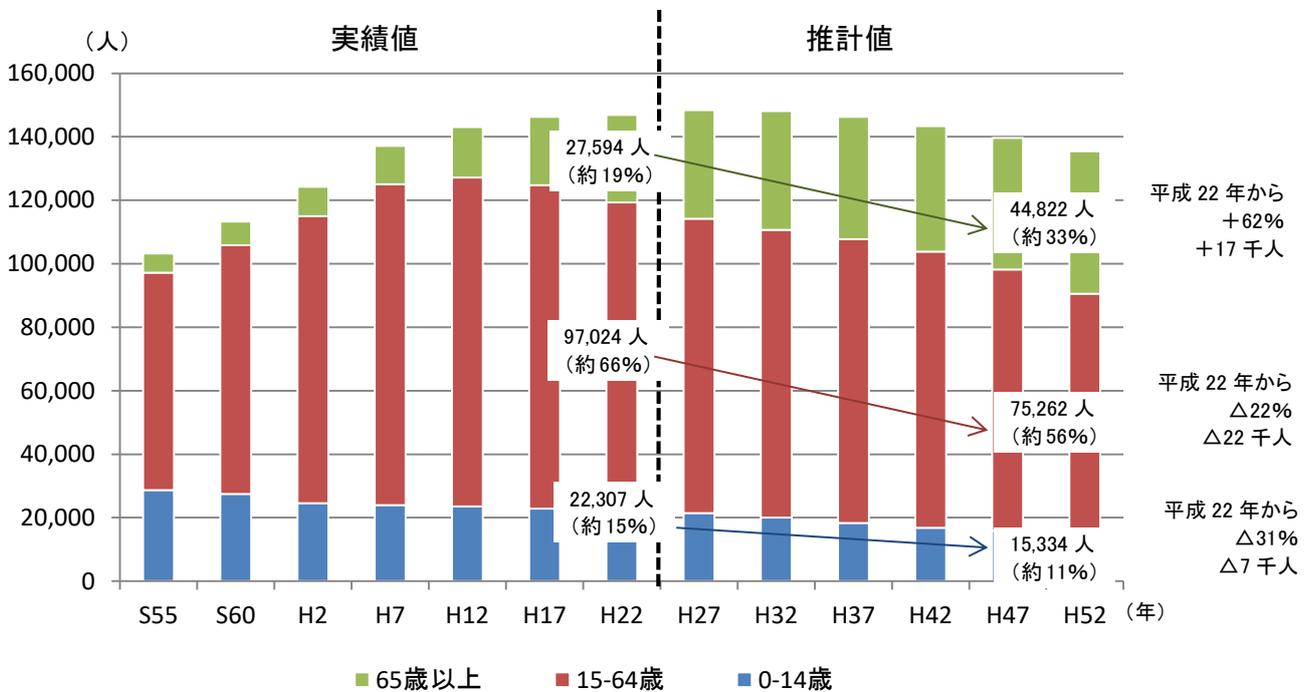
そのため、本計画における将来人口推計では、平成 22 年（2010 年）の国勢調査結果及び平成 25 年（2013 年）3 月の社人研推計結果を用いています。

図 年齢階層別将来人口の見通し(社人研 ※社会移動あり)



(出典: 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計))

図 年齢階層別将来人口の見通し(社人研 ※社会移動なし)

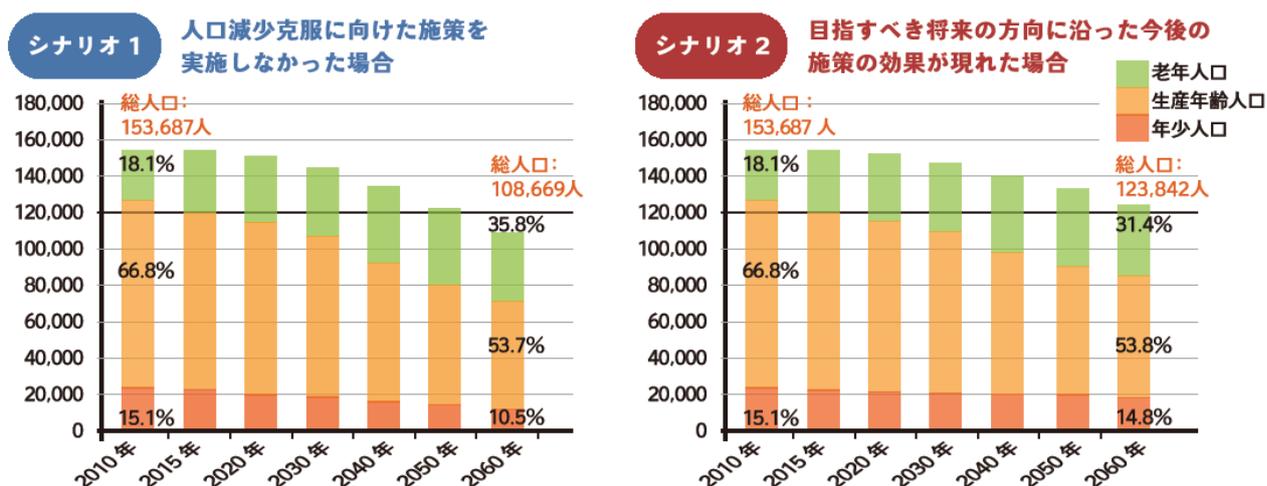


(出典: 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計))

## (2)人口ビジョンにおける将来人口の見通し

本市では、社人研による推計とは別に平成28年(2016年)2月策定の小牧市人口ビジョン(以下「人口ビジョン」という。)において、平成22年(2010年)10月1日から平成72年(2060年)10月1日まで50年間の将来人口を2つのシナリオ※に基づき5年ごとに推計しています。この推計結果においても、平成22年(2010年)以降、人口減少及び少子高齢化が見込まれています。

図 将来人口の見通し(人口ビジョン)



(出典：小牧市人口ビジョン、「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略ハンドブック」)

※2つのシナリオ

【シナリオ1】…人口減少克服に向けた施策を実施しなかった場合。

(以下の前提における推計)

前提1：小牧市住民基本台帳の数値(平成22年(2010年)10月1日現在の男女別年齢5歳階級人口)をもとに推計。

前提2：諸変数(合計特殊出生率、純移動率等)は社人研の推計に準拠し、平成27年(2015年)の人口は平成27年(2015年)10月1日現在の実績値を採用。

【シナリオ2】…目指すべき将来の方向に沿った今後の施策の効果が現れた場合。

(シナリオ1に、以下の仮定を加えた推計)

仮定：合計特殊出生率が、1.55(平成22年(2010年))、1.80(平成42年(2030年))、2.07(平成52年(2040年)–平成72年(2060年))と段階的に向上。

※合計特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

### (3)本計画で採用する推計

都市計画運用指針では、人口等の将来の見通しは、立地適正化計画の内容に大きな影響を及ぼすことから、社人研が公表している将来推計人口の値を採用すべきであり、仮に市町村が独自の推計を行うとしても、社人研の将来推計人口の値を参酌すべきであるとされています。

本計画は、人口減少下においても持続可能な都市経営を実現していくためのものであることから、より堅調な推計値を採用し検討を行うものとします。

本市では、「(1) 社人研における将来見通し」と独自の推計として「(2) 人口ビジョンにおける将来見通し」を行っていますが、人口ビジョンの推計では、推計の基準となる平成 22 年（2010 年）時点の数値に小牧市住民基本台帳を採用していることから、国勢調査結果を採用している社人研の推計と約 6,500 人の差が生じています。（人口ビジョン：153,687 人、社人研：147,132 人）

そのため、本計画における人口等の将来見通しについては、より堅調な推計結果となっている社人研推計を採用します。

なお、社人研推計では、「社会移動なし」の場合における推計も公表していますが、前述のとおりより堅調な推計結果である「社会移動あり」の場合を採用します。

#### (4)人口減少段階の分析

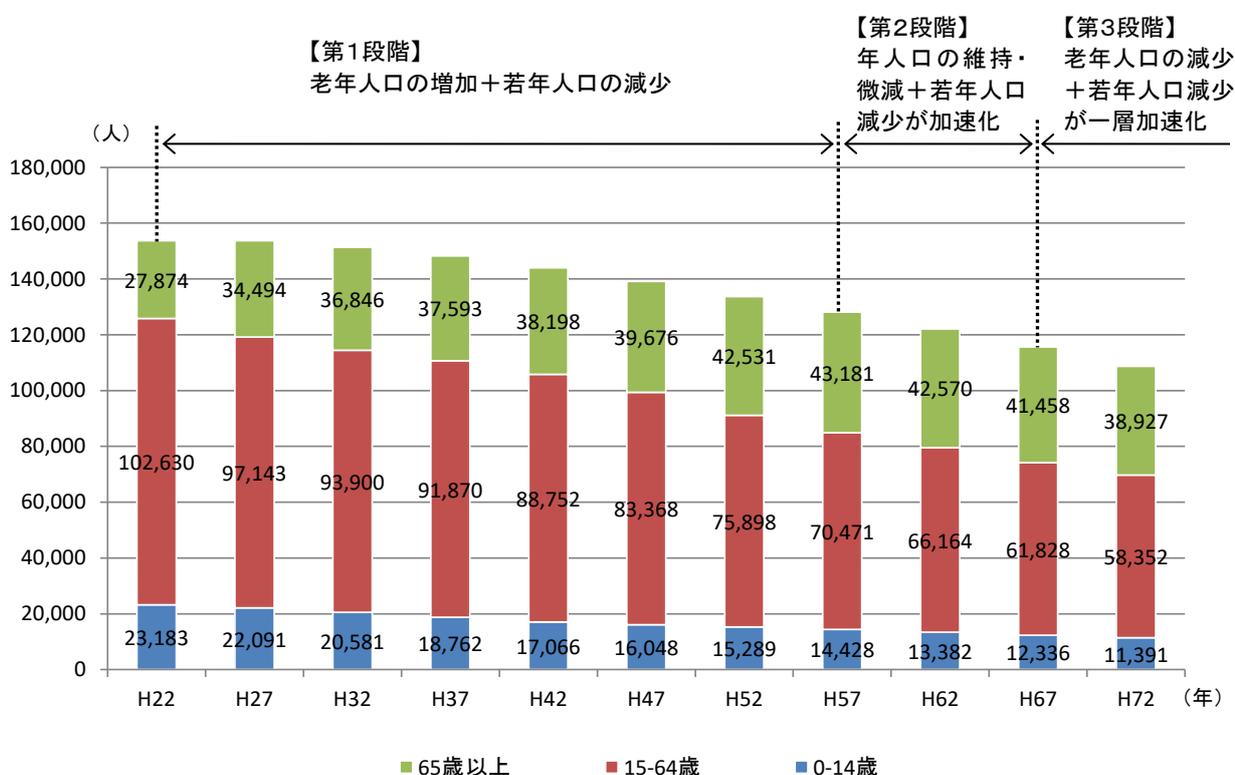
人口減少は、次の3つのプロセスを経て進行すると言われています。

- 第1段階 : 老年人口の増加+若年人口の減少
- 第2段階 : 老年人口の維持・微減+若年人口減少が加速化
- 第3段階 : 老年人口の減少+若年人口減少が一層加速化

本市の年齢階層別人口の推移を当てはめると、人口増加局面は終わり、人口減少の第1段階に入っています。

人口ビジョンの推計によると、今後、平成57年(2045年)頃には第2段階に入り、平成67年(2055年)頃には第3段階まで進行する見込みとなっています。

図 将来人口の見通し(人口ビジョン:シナリオ1)



(出典：小牧市人口ビジョン)

## (5) 地区別の将来人口の見通し

ここでは、社人研推計（社会移動あり）により、地区別に総人口、高齢者人口、年少人口を算出し、地区別の人口密度等を整理します。

なお、算出にあたっては、「(4) 地域別人口・世帯数の動向」と同様に国勢調査の 500 mメッシュを採用しますが、より現実的に将来見通しを把握するため、同調査における小地域単位（町丁字別）の人口も算出しています。

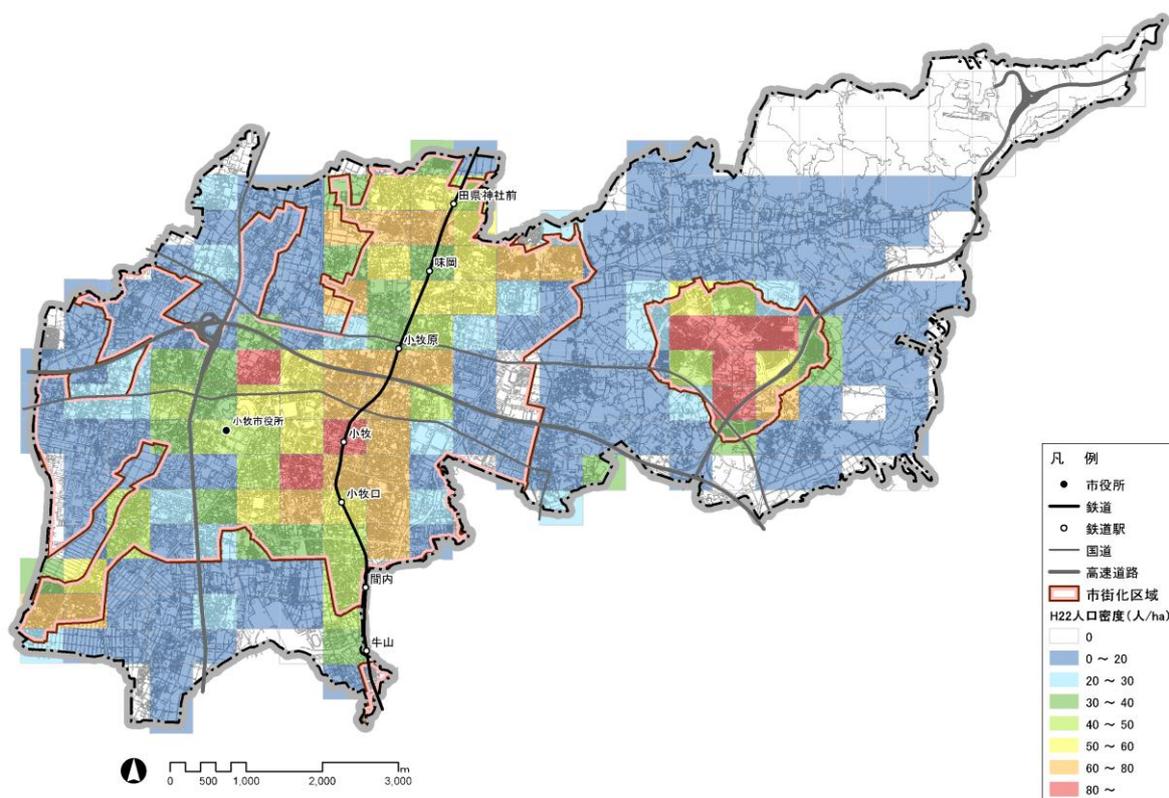
### ① 市街化区域における地区別人口密度の将来見通し

令和 22 年（2040 年）時点の人口密度は、平成 22 年（2010 年）時点と比較すると、多くの地域において人口密度の減少がみられ、特に大字小牧、藤島二丁目で 30 人/ha 以上密度の低下が見込まれています。

(参考) 人口密度の目安

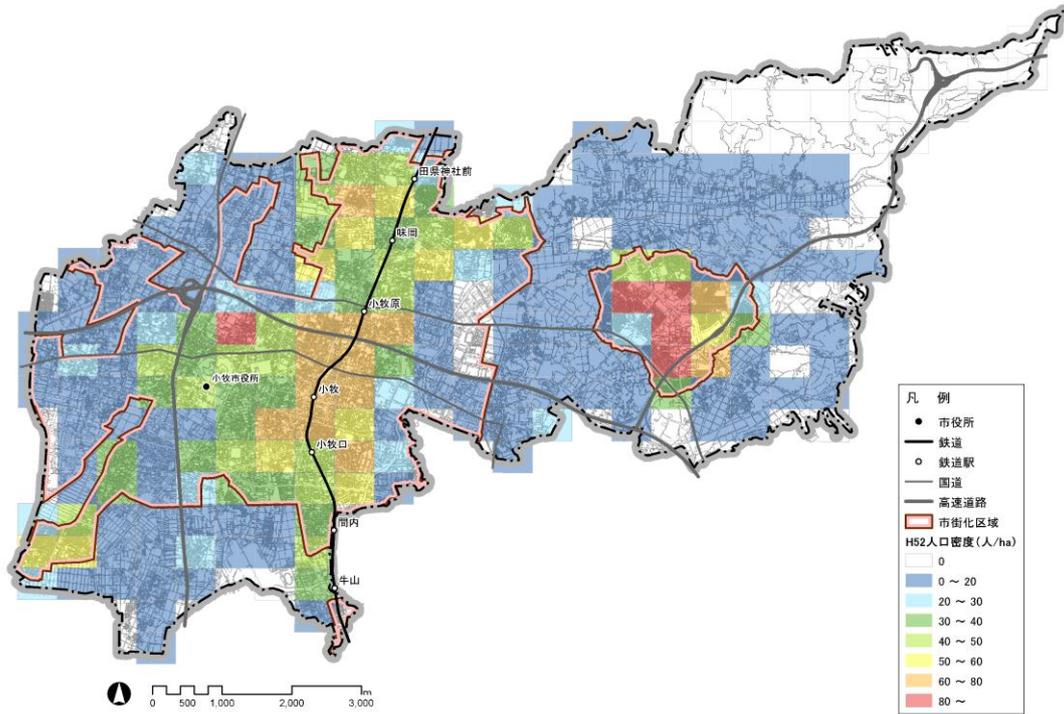
国勢調査では、都市的地域の特質を明らかにする統計上の地域単位として、昭和 35 年（1960 年）調査から人口集中地区が設定されており、人口集中地区の人口密度は、原則として 40 人/ha 以上とされています。

図 地区別の人口密度(H22)



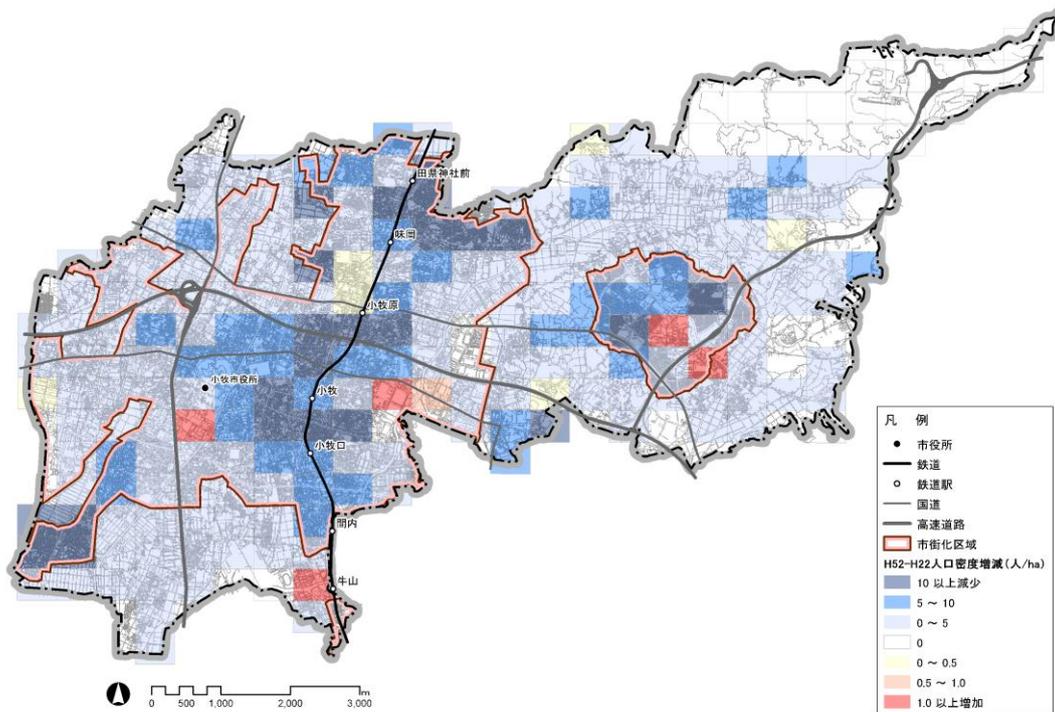
(出典：平成 22 年（2010 年）国勢調査)

図 地区別の人口密度(R22)



※コーホート要因法（社会移動あり）により独自推計

図 地区別の人口密度の増減(H22~R22)



※コーホート要因法（社会移動あり）により独自推計

表 町丁字別人口密度

小地域名	地区面積 (ha)	H22 人口密度 (人/ha)	H52 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 人口密度 増減 (人/ha)	H22年少 人口密度 (人/ha)	H52年少 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 年少 人口密度 増減 (人/ha)	H22生産 年齢 人口密度 (人/ha)	H52生産 年齢 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 生産年齢 人口密度 増減 (人/ha)	H22高齢者 人口密度 (人/ha)	H52高齢者 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 高齢者 人口密度 増減 (人/ha)
大字南外山	52.8	36.2	36.2	0.0	9.8	4.6	-5.3	22.2	21.7	-0.4	4.2	9.9	5.7
大字北外山	119.1	55.7	46.4	-9.3	8.3	5.4	-2.9	34.6	25.9	-8.7	12.8	15.1	2.3
桜井本町	4.8	112.4	110.9	-1.5	22.4	13.4	-9.0	75.3	63.5	-11.7	14.7	34.0	19.3
掛割町	6.2	67.4	64.6	-2.8	12.5	8.0	-4.5	42.4	37.8	-4.5	12.5	18.7	6.2
若草町	13.2	51.4	43.5	-7.9	7.0	5.1	-1.9	33.2	24.0	-9.2	11.3	14.5	3.2
大字大山	4.8	58.1	49.3	-8.8	11.4	4.9	-6.5	34.7	26.3	-8.4	12.0	18.1	6.1
大字北外山入鹿新田	0.9	59.6	61.7	2.1	10.6	6.4	-4.3	39.4	31.9	-7.4	9.6	23.4	13.8
東新町	5.4	67.9	57.6	-10.3	7.2	6.1	-1.1	48.9	30.8	-18.1	11.8	20.7	8.9
緑町	0.8	45.6	24.1	-21.5	2.5	0.0	-2.5	24.1	12.7	-11.4	19.0	10.1	-8.9
小牧原1丁目	21.6	13.4	10.1	-3.3	1.7	1.0	-0.7	8.0	5.0	-3.0	3.7	4.1	0.4
小牧原2丁目	20.0	61.0	63.4	2.4	15.5	7.6	-7.9	39.9	38.6	-1.3	5.7	17.2	11.6
小牧原3丁目	13.6	26.0	29.6	3.7	6.1	3.9	-2.2	18.9	17.4	-1.5	1.0	8.3	7.4
小牧原4丁目	15.9	3.7	3.3	-0.4	0.5	0.4	-0.1	2.5	2.0	-0.5	0.8	1.0	0.3
大字小牧原新田	96.5	42.3	36.8	-5.4	6.4	4.1	-2.3	28.5	20.7	-7.7	7.4	11.9	4.5
大字小牧	3.6	147.8	115.4	-32.4	12.9	11.2	-1.7	103.3	57.5	-45.8	31.6	46.4	14.8
山北町	5.0	65.6	54.4	-11.2	8.2	5.2	-3.0	43.2	31.4	-11.8	14.2	17.8	3.6
曙町	5.2	60.4	51.4	-9.0	8.2	5.4	-2.9	39.8	28.7	-11.1	12.4	17.4	5.0
間々本町	19.2	73.3	66.3	-7.1	12.6	7.3	-5.3	50.1	38.3	-11.7	10.7	20.6	10.0
村中新町	6.3	6.2	6.2	0.0	0.5	1.0	0.5	5.0	3.8	-1.1	0.8	1.4	0.6
弥生町	10.1	21.0	19.4	-1.6	2.7	2.3	-0.4	14.7	10.8	-4.0	3.6	6.3	2.8
西島町	7.8	42.1	35.0	-7.1	5.7	3.6	-2.1	27.9	19.2	-8.8	8.5	12.4	3.9
大字舟津	85.4	24.9	22.5	-2.3	3.8	2.7	-1.1	17.3	12.3	-5.0	3.8	7.6	3.8
大字三ツ淵	171.7	16.4	11.8	-4.6	1.9	1.3	-0.7	9.7	6.2	-3.6	4.8	4.4	-0.4
大字三ツ淵原新田	24.8	6.5	5.7	-0.7	1.3	0.5	-0.8	4.1	3.2	-0.9	1.1	2.0	0.9
大字西之島	100.8	14.5	12.4	-2.1	2.3	1.4	-1.0	9.7	6.9	-2.8	2.5	4.1	1.7
大字村中	116.2	10.8	8.6	-2.2	1.5	0.9	-0.6	6.9	4.7	-2.2	2.5	3.0	0.5
大字入鹿出新田	94.3	12.4	9.8	-2.6	1.4	1.0	-0.4	8.4	5.3	-3.1	2.7	3.5	0.8
大字河内屋新田	58.1	13.7	11.0	-2.7	1.7	1.1	-0.6	9.0	6.2	-2.8	3.0	3.6	0.7
大字横内	67.4	8.4	7.5	-0.9	1.2	0.8	-0.4	6.0	4.2	-1.8	1.2	2.5	1.3
大字間々原新田	93.3	25.3	23.1	-2.2	4.2	2.7	-1.5	17.5	13.3	-4.2	3.6	7.1	3.5
大字間々	10.3	63.1	68.7	5.6	15.1	8.4	-6.7	44.8	40.1	-4.6	3.2	20.0	16.8
安田町	10.7	76.6	60.9	-15.7	11.5	6.2	-5.3	49.8	33.4	-16.3	15.3	21.3	6.0
堀の内1丁目	24.7	4.3	3.9	-0.4	0.7	0.5	-0.2	2.6	1.9	-0.7	0.9	1.5	0.6
堀の内2丁目	10.8	43.5	37.2	-6.3	6.0	4.0	-2.0	28.6	21.6	-7.0	9.0	11.7	2.8
堀の内3丁目	11.3	17.0	15.2	-1.8	1.7	1.9	0.2	12.1	7.8	-4.3	3.2	5.5	2.3
堀の内4丁目	14.6	27.2	29.3	2.1	3.8	3.2	-0.6	21.9	17.7	-4.2	1.5	8.4	6.9
堀の内5丁目	9.4	57.7	64.1	6.4	11.9	7.2	-4.7	42.7	42.6	-0.1	3.2	14.4	11.2
元町1丁目	3.4	35.1	22.2	-12.9	1.8	1.8	0.0	22.2	9.6	-12.6	11.1	10.8	-0.3
元町2丁目	5.6	46.8	36.1	-10.7	4.3	3.9	-0.4	29.0	17.8	-11.2	13.5	14.2	0.7
元町3丁目	7.9	7.6	6.0	-1.6	0.9	0.8	-0.1	4.7	3.3	-1.4	2.0	1.9	-0.1
元町4丁目	10.4	5.6	4.6	-1.0	0.3	0.4	0.1	4.3	1.9	-2.4	1.0	2.3	1.4
新町1丁目	19.0	58.2	49.9	-8.3	7.8	5.9	-1.9	38.9	26.7	-12.2	11.6	17.3	5.7
新町2丁目	12.9	73.2	67.6	-5.6	12.5	8.0	-4.5	50.0	37.4	-12.6	10.8	22.2	11.5
新町3丁目	14.5	89.0	79.8	-9.2	14.7	10.1	-4.6	59.3	42.5	-16.9	15.0	27.3	12.3
小牧1丁目	26.7	61.2	52.4	-8.8	9.7	6.1	-3.6	39.6	28.6	-11.0	11.9	17.7	5.7
小牧2丁目	17.0	66.4	53.1	-13.3	8.0	5.8	-2.3	44.2	28.1	-16.2	14.1	19.3	5.1
小牧3丁目	10.1	58.3	54.5	-3.8	12.6	6.6	-5.9	36.6	28.9	-7.7	9.1	19.0	9.9
小牧4丁目	19.5	88.9	74.0	-14.9	13.3	8.0	-5.3	56.7	39.5	-17.2	18.9	26.5	7.6
小牧5丁目	20.5	58.1	46.6	-11.5	7.3	5.4	-1.9	36.9	25.0	-12.0	13.9	16.3	2.4
大字東田中	142.4	30.3	26.6	-3.7	4.9	3.1	-1.8	19.9	14.7	-5.2	5.5	8.8	3.3
大字二重堀	84.6	44.4	39.8	-4.6	6.8	4.3	-2.5	31.2	22.7	-8.5	6.3	12.8	6.5
大字文津	43.6	31.7	28.1	-3.6	5.1	3.3	-1.8	20.4	16.7	-3.7	6.2	8.2	1.9
大字小松寺	59.5	64.6	55.7	-8.9	11.9	6.4	-5.4	40.9	30.7	-10.2	11.8	18.6	6.8
大字本庄	166.6	31.6	26.9	-4.7	5.7	3.1	-2.6	20.3	14.5	-5.8	5.6	9.3	3.7
大字岩崎	105.2	59.0	52.3	-6.7	9.5	6.0	-3.6	38.5	31.0	-7.6	10.9	15.4	4.4
大字岩崎原新田	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大字久保一色	118.1	48.9	37.4	-11.5	6.5	4.1	-2.4	29.4	20.1	-9.3	13.0	13.2	0.2
田県町	7.7	31.7	25.3	-6.4	3.9	2.5	-1.4	20.7	13.7	-7.0	7.1	9.3	2.2
久保本町	9.5	68.3	51.5	-16.8	6.4	5.1	-1.4	47.6	27.0	-20.6	14.3	19.4	5.2
久保新町	8.4	37.3	34.2	-3.1	6.9	4.0	-3.0	23.2	20.6	-2.6	7.2	9.6	2.4
久保一色東	16.6	6.4	4.3	-2.1	0.7	0.4	-0.3	3.6	2.1	-1.4	2.2	1.8	-0.4
護原	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

小地域名	地区面積 (ha)	H22 人口密度 (人/ha)	H52 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 人口密度 増減 (人/ha)	H22年少 人口密度 (人/ha)	H52年少 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 年少 人口密度 増減 (人/ha)	H22生産 年齢 人口密度 (人/ha)	H52生産 年齢 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 生産年齢 人口密度 増減 (人/ha)	H22高齢者 人口密度 (人/ha)	H52高齢者 人口密度 (人/ha)	(H52-H22) 高齢者 人口密度 増減 (人/ha)
久保一色南1丁目	6.6	48.7	42.0	-6.7	7.8	5.0	-2.8	30.4	22.7	-7.6	10.5	14.4	3.8
久保一色南2丁目	14.6	87.5	81.9	-5.6	13.4	9.0	-4.5	63.8	47.9	-15.9	10.3	25.0	14.8
岩崎原1丁目	11.9	28.5	22.1	-6.4	4.6	2.3	-2.4	16.6	10.6	-6.0	7.3	9.2	1.9
岩崎原2丁目	18.1	16.9	12.9	-4.0	1.7	1.6	-0.2	10.8	6.2	-4.5	4.4	5.2	0.8
岩崎原3丁目	18.3	18.8	10.3	-8.5	1.7	0.9	-0.8	8.5	5.3	-3.2	8.6	4.1	-4.5
岩崎1丁目	14.1	5.6	4.3	-1.3	0.7	0.4	-0.3	3.2	2.1	-1.1	1.6	1.7	0.1
岩崎5丁目	21.0	41.2	30.0	-11.3	4.3	3.1	-1.2	26.1	15.3	-10.8	10.8	11.5	0.7
寺西	10.7	1.2	0.9	-0.4	0.1	0.0	-0.1	0.9	0.7	-0.3	0.2	0.3	0.1
多気東町	15.2	3.1	2.8	-0.3	0.7	0.4	-0.3	1.8	1.6	-0.1	0.7	0.8	0.1
多気西町	26.0	14.5	10.7	-3.8	1.5	1.1	-0.4	9.2	5.5	-3.7	3.9	4.2	0.3
多気南町	32.0	12.3	9.7	-2.6	1.5	0.9	-0.6	8.3	4.9	-3.4	2.5	3.9	1.4
多気北町	30.3	14.2	10.9	-3.3	1.9	1.3	-0.6	8.9	5.8	-3.1	3.5	3.9	0.4
多気中町	31.9	10.3	8.2	-2.2	1.2	1.0	-0.2	6.5	4.4	-2.2	2.6	2.9	0.2
大字小木	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
藤島町	82.8	36.6	29.3	-7.3	5.3	3.3	-2.0	23.1	16.1	-7.1	8.1	9.9	1.8
藤島1丁目	7.7	73.4	44.2	-29.2	7.3	5.2	-2.1	33.2	20.4	-12.9	32.9	18.6	-14.3
藤島2丁目	8.8	87.7	50.1	-37.7	8.9	5.4	-3.5	37.2	23.8	-13.4	41.6	20.8	-20.8
小木南1丁目	12.2	2.9	2.9	0.0	0.3	0.5	0.2	1.9	1.7	-0.2	0.7	0.7	0.0
小木南2丁目	9.8	13.5	2.6	-11.0	0.1	0.0	-0.1	2.2	1.2	-1.0	11.2	1.3	-9.9
小木南3丁目	11.3	82.1	60.3	-21.8	9.7	6.4	-3.3	48.1	30.9	-17.2	24.3	23.0	-1.3
小木西1丁目	11.8	3.3	3.5	0.2	0.3	0.5	0.3	2.8	1.6	-1.2	0.3	1.4	1.2
小木西2丁目	25.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小木西3丁目	7.0	3.9	2.6	-1.3	0.6	0.0	-0.6	2.3	1.4	-0.9	1.0	1.0	0.0
下小針中島1丁目	24.7	1.8	1.3	-0.4	0.2	0.0	-0.2	1.2	0.8	-0.4	0.4	0.6	0.2
下小針中島2丁目	22.0	7.5	5.7	-1.8	0.7	0.6	-0.1	4.7	2.6	-2.1	2.0	2.4	0.4
下小針中島3丁目	27.1	5.6	4.4	-1.2	0.7	0.4	-0.3	3.6	2.2	-1.4	1.3	1.8	0.5
下小針天神1丁目	17.0	15.6	13.3	-2.4	2.4	1.3	-1.1	10.3	7.4	-2.9	3.0	4.6	1.6
下小針天神2丁目	12.2	4.1	4.0	-0.1	0.5	0.5	0.0	3.0	2.1	-1.0	0.6	1.6	1.0
下小針天神3丁目	14.5	37.6	30.5	-7.1	5.0	3.3	-1.7	23.6	15.9	-7.7	9.0	11.3	2.3
常普請1丁目	18.2	47.9	40.2	-7.8	6.7	4.6	-2.1	31.2	21.5	-9.7	10.1	14.1	4.0
常普請2丁目	19.3	41.2	35.9	-5.3	5.8	4.1	-1.8	27.8	19.3	-8.5	7.6	12.5	4.9
常普請3丁目	14.5	42.8	40.8	-2.0	7.5	4.8	-2.8	30.0	22.2	-7.9	5.2	13.8	8.6
外堀1丁目	17.7	40.2	35.5	-4.6	5.3	3.7	-1.6	29.1	19.9	-9.2	5.8	11.9	6.2
外堀2丁目	15.5	50.7	45.7	-5.0	7.3	4.9	-2.4	35.0	26.8	-8.2	8.5	14.0	5.5
外堀3丁目	13.8	43.7	37.2	-6.5	6.3	3.9	-2.5	29.4	20.6	-8.8	8.0	12.7	4.7
外堀4丁目	5.8	2.1	1.7	-0.3	0.2	0.0	-0.2	1.4	1.0	-0.3	0.5	0.9	0.4
郷中1丁目	17.7	41.2	40.6	-0.6	9.9	5.4	-4.5	26.2	22.6	-3.6	5.2	12.6	7.4
郷中2丁目	19.5	30.5	31.0	0.5	6.3	3.7	-2.5	21.1	18.7	-2.4	3.2	8.5	5.3
桜井	2.3	57.3	50.2	-7.0	6.2	6.6	0.4	39.2	28.6	-10.6	11.9	15.0	3.1
小木1丁目	7.4	20.8	19.5	-1.2	3.3	1.6	-1.6	13.6	10.7	-2.8	3.9	7.2	3.3
小木2丁目	20.4	49.8	39.9	-9.9	6.7	4.2	-2.5	31.9	22.3	-9.6	11.3	13.5	2.2
小木3丁目	14.9	50.9	40.8	-10.1	7.7	4.2	-3.6	31.5	22.3	-9.2	11.7	14.4	2.7
小木4丁目	9.1	60.9	56.6	-4.3	11.3	6.5	-4.8	40.8	32.3	-8.5	8.9	17.8	8.9
小木5丁目	11.7	60.2	49.2	-11.0	7.1	4.9	-2.2	41.2	27.8	-13.4	11.9	16.5	4.6
小木東1丁目	16.9	15.1	12.9	-2.1	1.4	1.2	-0.2	11.3	6.9	-4.4	2.3	4.8	2.5
小木東2丁目	23.1	5.5	4.9	-0.7	0.7	0.5	-0.2	4.1	2.2	-1.9	0.7	2.1	1.3
小木東3丁目	12.8	3.8	3.6	-0.2	0.4	0.5	0.1	2.8	1.7	-1.1	0.6	1.4	0.8
大字大山	503.4	1.3	0.7	-0.6	0.1	0.1	0.0	0.6	0.3	-0.3	0.6	0.3	-0.3
大字野口	360.2	2.5	1.7	-0.8	0.3	0.1	-0.1	1.5	0.8	-0.6	0.7	0.7	0.0
大字林	146.3	7.8	6.3	-1.5	1.2	0.7	-0.5	4.8	3.4	-1.3	1.8	2.1	0.4
大字池之内	188.1	12.2	9.7	-2.6	1.8	1.1	-0.7	7.4	5.2	-2.2	3.0	3.4	0.3
大字上末	271.5	6.6	4.8	-1.8	0.8	0.6	-0.3	3.8	2.6	-1.3	2.0	1.7	-0.3
長治町	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
郷西町	12.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大字下末	142.8	9.1	7.2	-1.9	1.2	0.8	-0.4	5.7	3.8	-1.9	2.2	2.6	0.4
大字大草	697.3	3.0	2.3	-0.7	0.3	0.3	0.0	1.9	1.2	-0.7	0.8	0.8	0.0
桃ヶ丘1丁目	15.5	64.3	44.2	-20.1	3.2	4.2	0.9	47.2	22.1	-25.1	13.9	17.9	4.0
桃ヶ丘2丁目	12.6	27.0	18.2	-8.9	2.3	1.6	-0.7	18.0	9.0	-9.0	6.7	7.5	0.8
桃ヶ丘3丁目	18.3	46.5	31.4	-15.1	3.2	2.9	-0.3	32.5	16.1	-16.5	10.8	12.5	1.6
古雅1丁目	8.5	98.6	107.3	8.7	27.4	13.2	-14.2	66.5	57.1	-9.4	4.7	36.9	32.2
古雅2丁目	7.8	126.0	115.6	-10.4	24.4	14.2	-10.2	83.8	66.4	-17.4	17.8	35.0	17.3
古雅3丁目	19.5	46.5	37.2	-9.3	7.6	4.3	-3.2	28.9	20.8	-8.1	10.1	12.0	2.0
古雅4丁目	17.5	60.1	48.3	-11.8	8.0	5.7	-2.2	40.2	25.2	-15.0	12.0	17.5	5.5

小地域名	地区面積 (ha)	H22人口密度 (人/ha)	H52人口密度 (人/ha)	(H52-H22)人口密度増減 (人/ha)	H22年少人口密度 (人/ha)	H52年少人口密度 (人/ha)	(H52-H22)年少人口密度増減 (人/ha)	H22生産年齢人口密度 (人/ha)	H52生産年齢人口密度 (人/ha)	(H52-H22)生産年齢人口密度増減 (人/ha)	H22高齢者人口密度 (人/ha)	H52高齢者人口密度 (人/ha)	(H52-H22)高齢者人口密度増減 (人/ha)
篠岡1丁目	14.6	133.5	121.6	-12.0	19.7	14.1	-5.6	96.0	67.3	-28.7	17.8	40.2	22.4
篠岡2丁目	13.8	34.1	32.6	-1.5	6.0	4.3	-1.7	23.4	18.7	-4.7	4.7	9.7	4.9
篠岡3丁目	16.6	64.9	57.2	-7.7	9.8	6.9	-2.9	47.0	30.4	-16.7	8.1	19.9	11.8
光ヶ丘1丁目	12.1	143.3	128.5	-14.8	12.7	14.07	1.4	118.4	71.1	-47.3	12.3	43.4	31.1
光ヶ丘2丁目	13.8	89.2	73.5	-15.7	6.0	7.4	1.4	74.3	38.5	-35.7	9.0	27.6	18.6
光ヶ丘3丁目	23.0	42.3	36.5	-5.8	3.6	4.1	0.5	33.6	19.8	-13.8	5.1	12.7	7.5
光ヶ丘4丁目	14.8	66.6	59.7	-6.9	7.6	6.9	-0.7	51.7	33.1	-18.6	7.3	19.7	12.4
光ヶ丘5丁目	14.0	95.9	103.8	8.0	27.1	13.8	-13.3	61.9	62.6	0.7	6.9	27.3	20.4
光ヶ丘6丁目	9.6	40.7	33.9	-6.8	3.0	3.4	0.4	32.7	18.5	-14.2	4.9	12.0	7.1
城山1丁目	11.0	147.6	150.4	2.8	33.8	18.1	-15.7	102.9	81.9	-21.0	10.9	50.4	39.5
城山2丁目	19.6	123.7	136.1	12.4	28.1	18.6	-9.5	90.3	76.8	-13.6	5.2	40.7	35.5
城山3丁目	16.2	92.7	93.5	0.8	18.3	11.9	-6.4	66.8	52.8	-14.0	7.6	28.8	21.2
城山4丁目	18.4	54.7	52.5	-2.2	5.8	7.2	1.5	43.1	29.0	-14.2	5.8	16.3	10.5
城山5丁目	24.3	81.8	71.5	-10.3	9.2	8.3	-0.9	62.6	38.6	-24.1	9.9	24.6	14.7
中央1丁目	18.2	68.3	63.9	-4.4	9.4	6.9	-2.4	50.5	35.0	-15.5	8.5	21.9	13.5
中央2丁目	15.9	78.9	70.1	-8.9	11.4	8.1	-3.3	52.8	39.6	-13.2	14.7	22.4	7.7
中央3丁目	13.4	65.2	60.1	-5.1	10.9	6.6	-4.3	45.9	34.0	-11.9	8.4	19.5	11.1
中央4丁目	10.6	61.5	57.5	-4.0	9.0	6.2	-2.8	45.8	33.0	-12.8	6.7	18.4	11.6
中央5丁目	15.8	81.4	77.2	-4.3	16.4	9.8	-6.5	51.5	42.4	-9.0	13.6	24.9	11.3
中央6丁目	10.6	63.5	49.0	-14.5	8.3	5.1	-3.2	37.6	24.9	-12.7	17.6	19.0	1.4
川西1丁目	12.6	5.3	5.8	0.5	1.2	0.6	-0.6	3.9	3.7	-0.2	0.2	1.6	1.4
川西2丁目	6.5	2.6	1.7	-0.9	0.0	0.0	0.0	2.3	0.5	-1.9	0.3	1.2	0.9
川西3丁目	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新小木1丁目	20.7	1.9	2.0	0.2	0.2	0.3	0.2	1.7	1.1	-0.6	0.0	0.6	0.6
新小木2丁目	16.4	0.6	0.4	-0.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	-0.6	0.0	0.4	0.4
新小木3丁目	14.9	2.8	2.2	-0.6	0.1	0.0	-0.1	2.5	1.1	-1.4	0.2	1.2	1.0
新小木4丁目	15.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高根1丁目	24.2	4.1	3.1	-1.0	0.2	0.4	0.2	2.7	1.5	-1.2	1.2	1.2	0.1
高根2丁目	35.0	11.4	9.3	-2.1	1.7	1.0	-0.7	7.2	5.0	-2.1	2.6	3.2	0.6
高根3丁目	42.2	10.1	7.7	-2.4	1.6	0.7	-0.9	5.9	4.1	-1.8	2.7	2.9	0.2
大字南外山	77.7	5.2	5.3	0.0	0.7	0.4	-0.3	4.2	4.1	-0.1	0.3	0.8	0.5
春日寺2丁目	9.7	46.7	35.7	-11.0	6.3	3.7	-2.6	27.6	19.2	-8.4	12.8	12.8	0.0
春日寺3丁目	7.4	35.3	22.0	-13.3	2.3	1.8	-0.5	20.5	9.7	-10.8	12.5	10.5	-2.0
市之久田1丁目	26.4	16.9	13.3	-3.6	2.6	1.4	-1.1	10.6	6.8	-3.7	3.8	5.0	1.3
市之久田2丁目	7.6	14.4	12.9	-1.6	3.9	1.5	-2.4	7.3	6.9	-0.4	3.3	4.4	1.1
応時1丁目	10.8	62.6	62.8	0.2	15.8	8.0	-7.8	38.6	36.9	-1.8	8.3	17.9	9.6
応時2丁目	14.8	31.6	33.3	1.7	6.8	3.9	-2.8	22.0	21.1	-0.9	2.8	8.3	5.5
応時3丁目	7.6	110.6	108.3	-2.3	20.2	14.2	-6.1	73.0	63.1	-9.9	17.3	31.1	13.8
応時4丁目	5.2	63.3	50.7	-12.6	9.6	5.4	-4.2	36.1	28.3	-7.8	17.7	17.0	-0.6
東1丁目	15.5	13.7	14.1	0.4	2.0	1.6	-0.4	10.5	7.8	-2.7	1.2	4.7	3.5
東2丁目	8.8	87.3	66.0	-21.3	10.1	6.5	-3.6	53.1	37.5	-15.6	24.0	22.0	-2.1
東3丁目	23.4	12.0	13.2	1.2	1.8	1.2	-0.6	10.0	10.5	0.5	0.2	1.5	1.3
東4丁目	15.0	14.1	13.4	-0.7	2.2	1.5	-0.7	9.9	7.5	-2.3	2.1	4.3	2.3
小針1丁目	20.7	13.2	9.5	-3.7	1.4	0.8	-0.5	8.3	4.3	-4.0	3.5	4.3	0.8
小針2丁目	28.4	9.3	7.2	-2.1	1.2	0.8	-0.4	5.7	3.8	-2.0	2.4	2.6	0.2

 :人口密度の目安(40人/ha)を上回る地区

※令和22年(2040年)の社人研推計結果(社会移動あり・社会移動なしの人口比率)を用いて、社人研推計と同一条件で町丁字別にコーホート要因法(封鎖)により独自推計した結果を補正

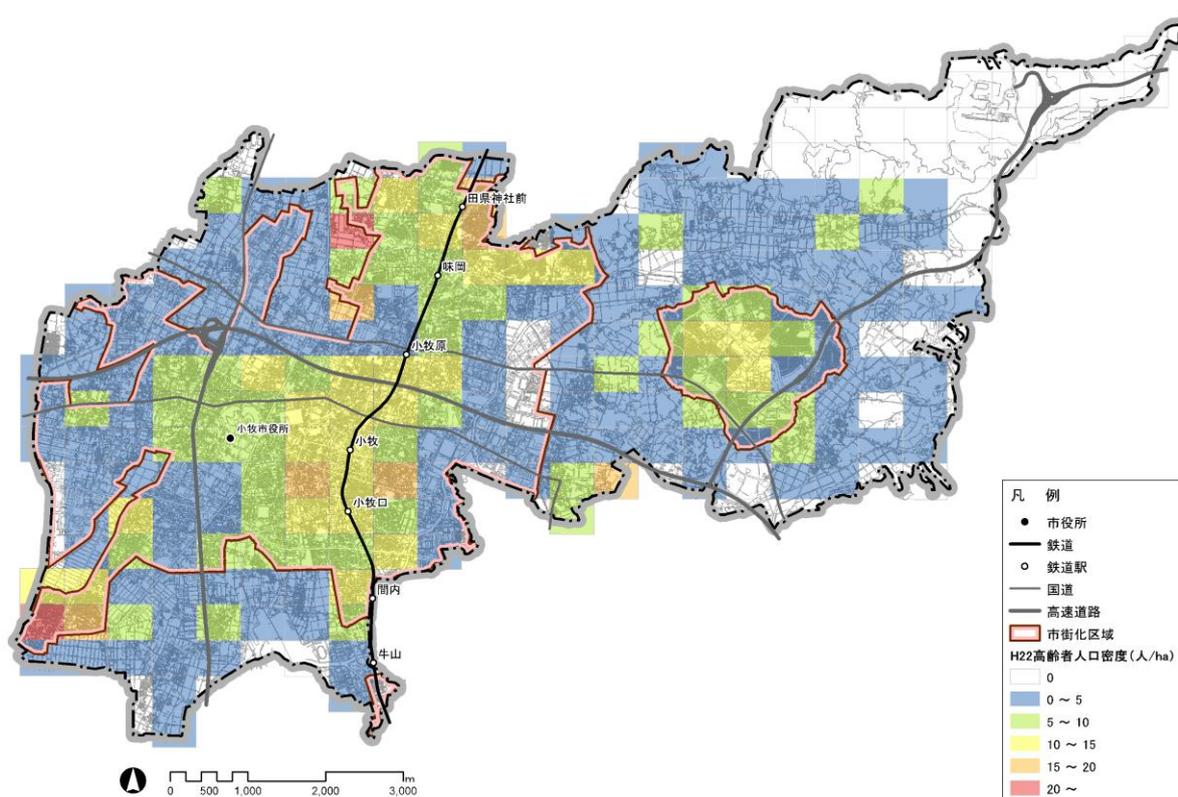
※町丁字別の人口は面積按分により算出

## ② 地区別の高齢者人口の見通し

令和 22 年（2040 年）の高齢者人口密度は、平成 22 年（2010 年）時点と比較すると、多くの地域において高齢者人口密度の増加がみられ、特に古雅一丁目、光ヶ丘一丁目、城山一丁目及び城山二丁目で 30 人/ha 以上密度の増加が見込まれています。

また、令和 22 年（2040 年）時点の高齢化率は、平成 22 年（2010 年）と比較すると、多くの地域で高齢化率の上昇がみられ、市街化区域では、30%から 40%となる地域が多く、市街化調整区域の一部では、40%以上となっています。

図 地区別の高齢者人口密度(H22)



(出典：平成 22 年（2010 年）国勢調査)

図 地区別の高齢者人口密度(R22)

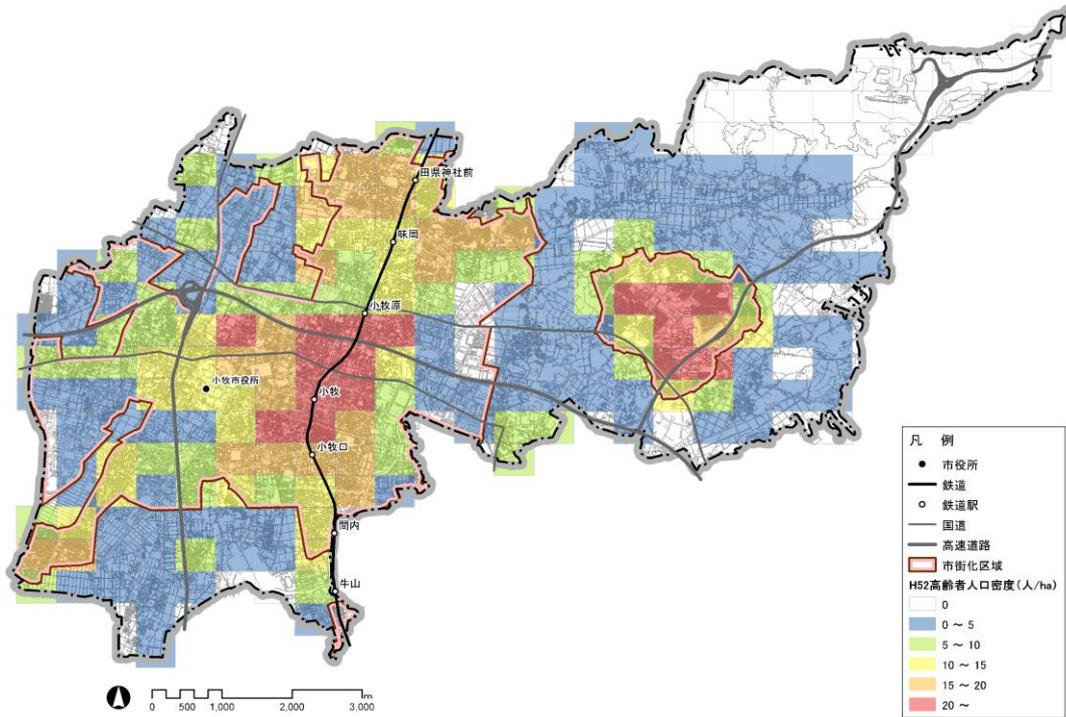
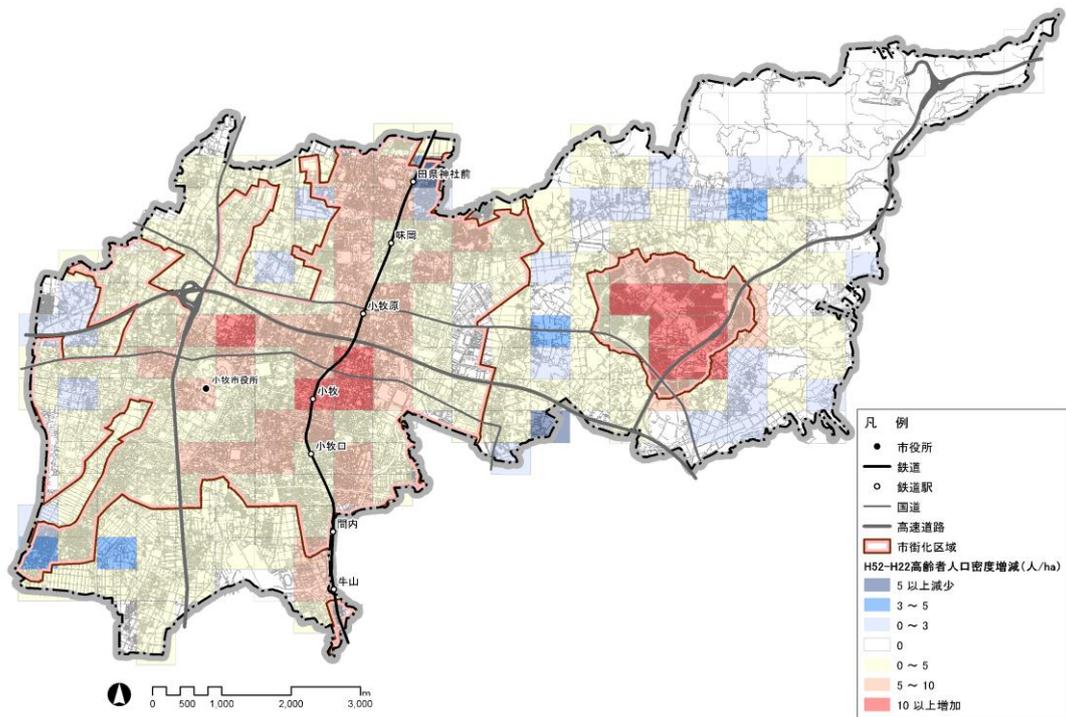
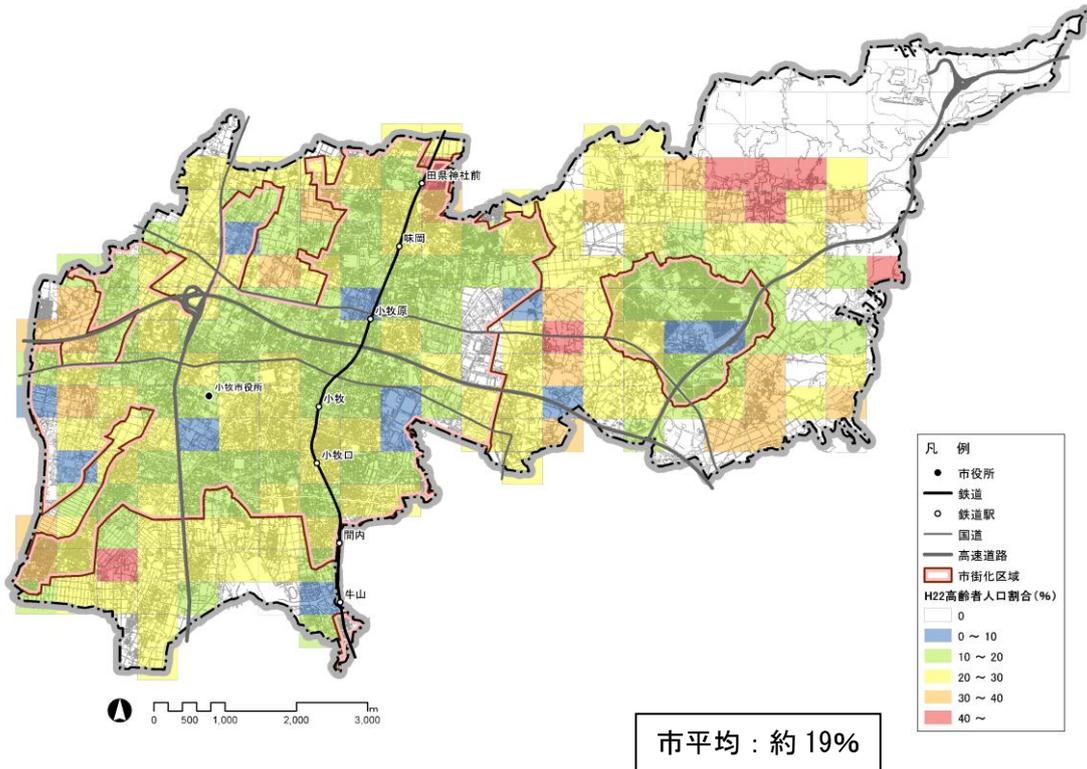


図 地区別の高齢者人口密度の増減(H22~R22)



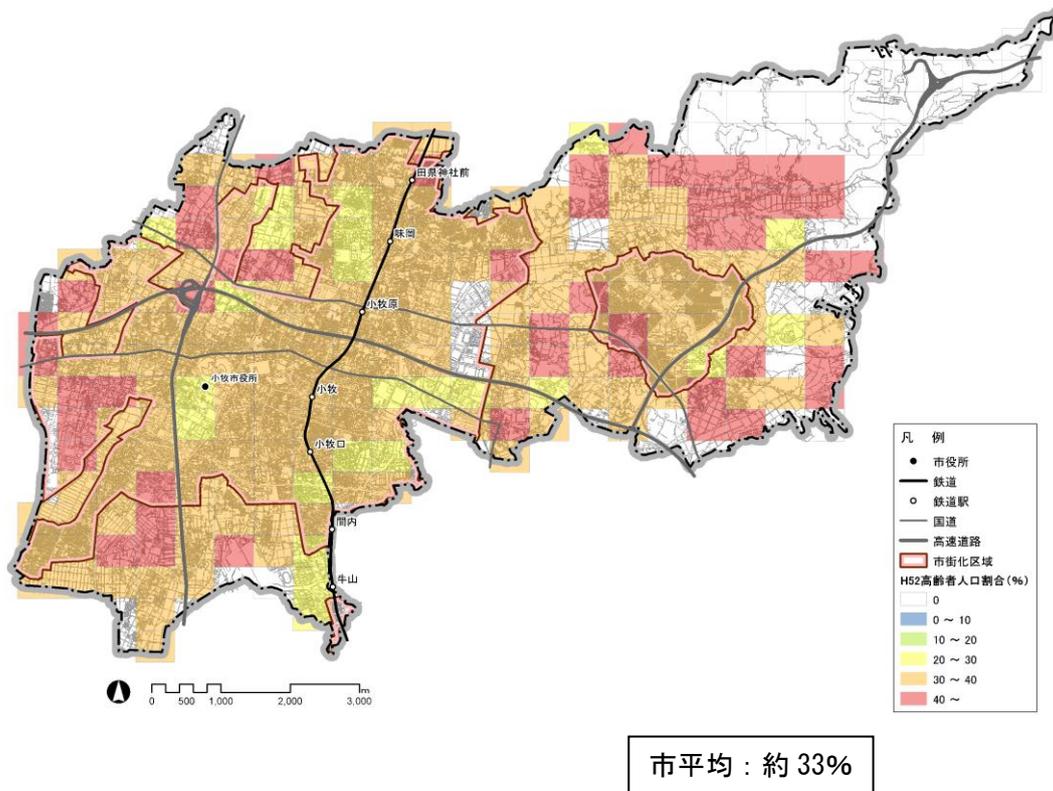
※コーホート要因法（社会移動あり）により独自推計

図 地区別の高齢化率(H22)



(出典：平成22年(2010年)国勢調査)

図 地区別の高齢化率(R22)

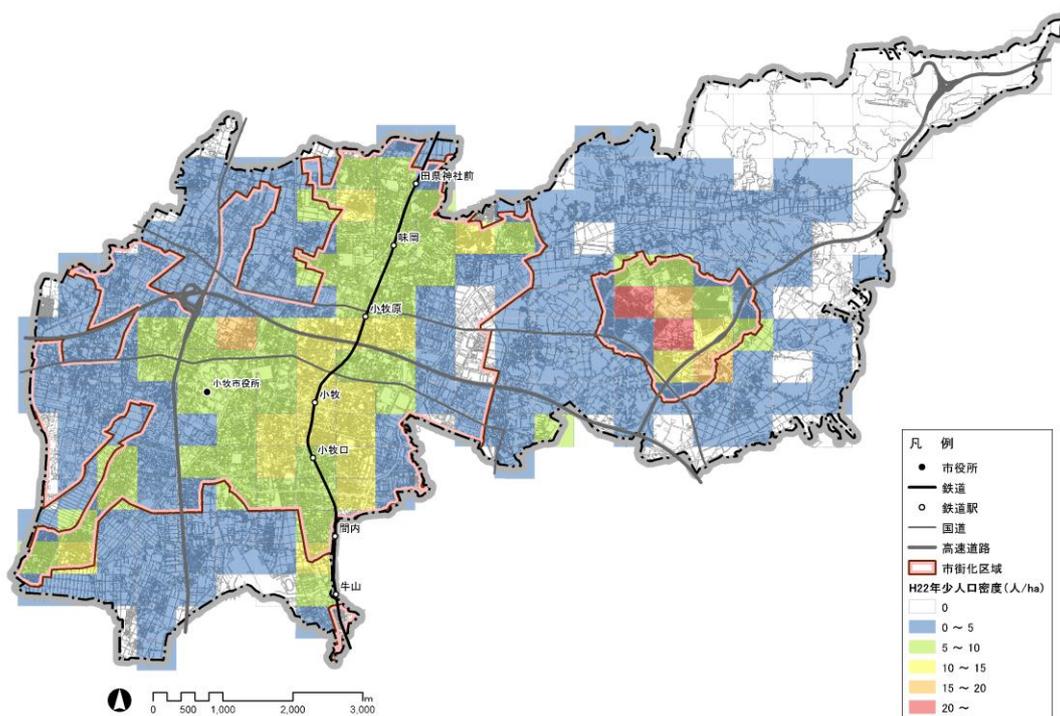


### ③地区別の年少人口の見通し

令和 22 年（2040 年）の年少人口密度は、平成 22 年（2010 年）時点と比較すると、多くの地域において年少人口密度の減少がみられ、特に古雅一丁目、古雅二丁目、光ヶ丘五丁目及び城山一丁目で 10 人/ha 以上密度の減少が見込まれています。

また、令和 22 年（2040 年）の年少人口割合は、平成 22 年（2010 年）と比較すると、多くの地域で年少人口割合の低下がみられ、市街化区域では、10～15%となる地域が多く、市街化調整区域では、5%～15%となることが見込まれています。

図 地区別の年少人口密度(H22)



(出典：平成 22 年（2010 年）国勢調査)

図 地区別の年少人口密度(R22)

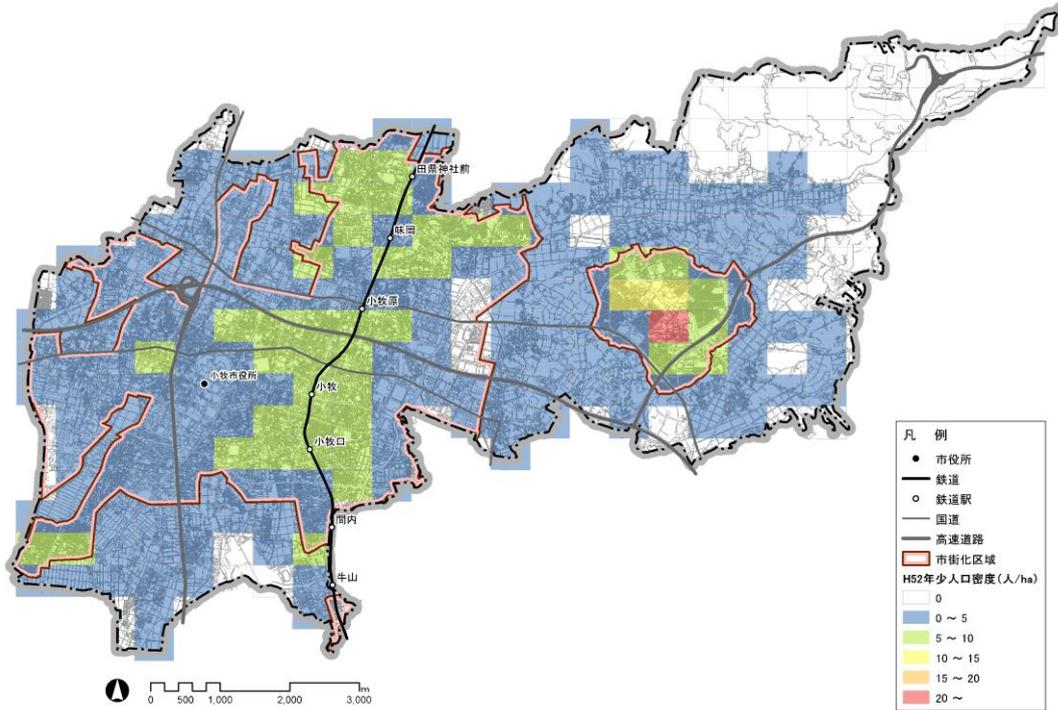
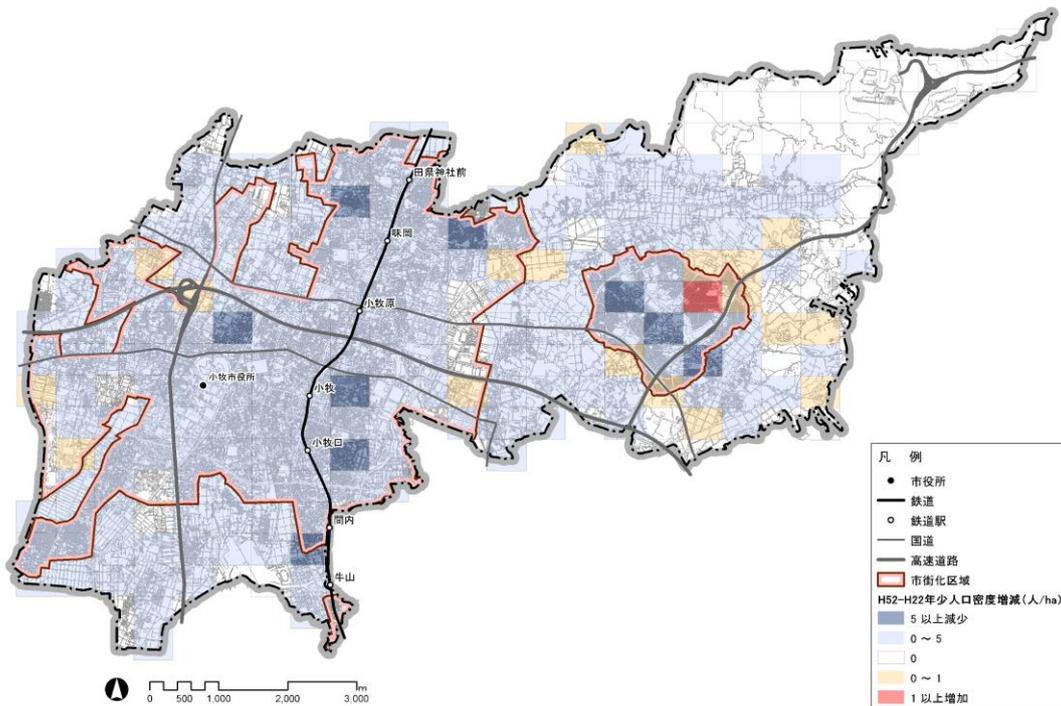
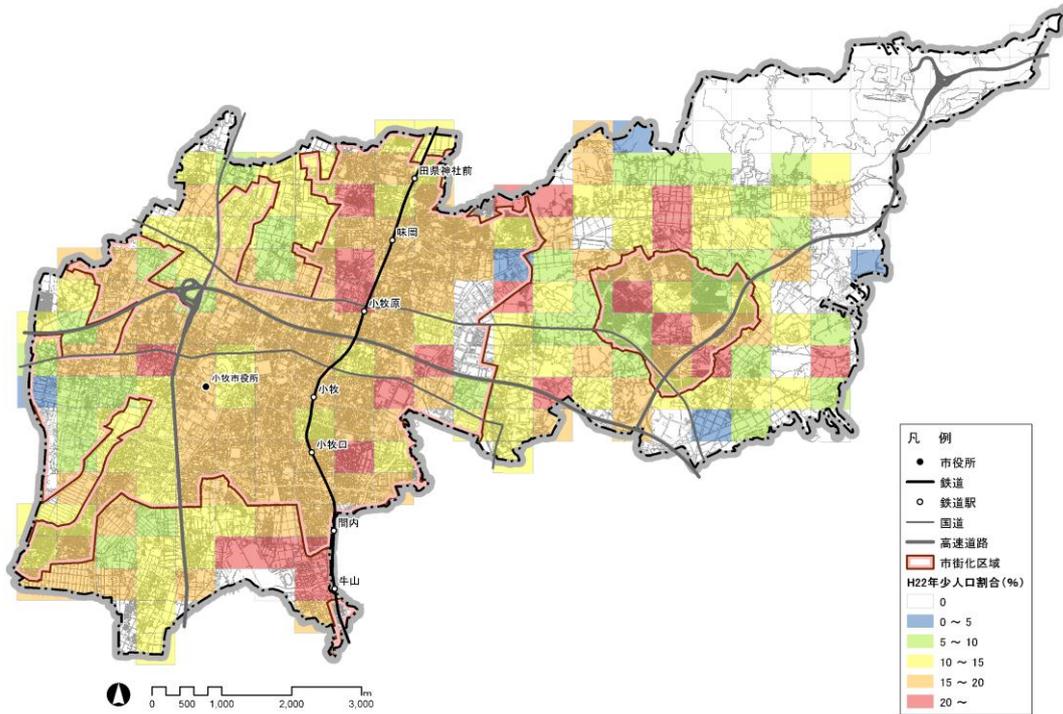


図 地区別の年少人口密度の増減(H22~R22)



※コーホート要因法（社会移動あり）により独自推計

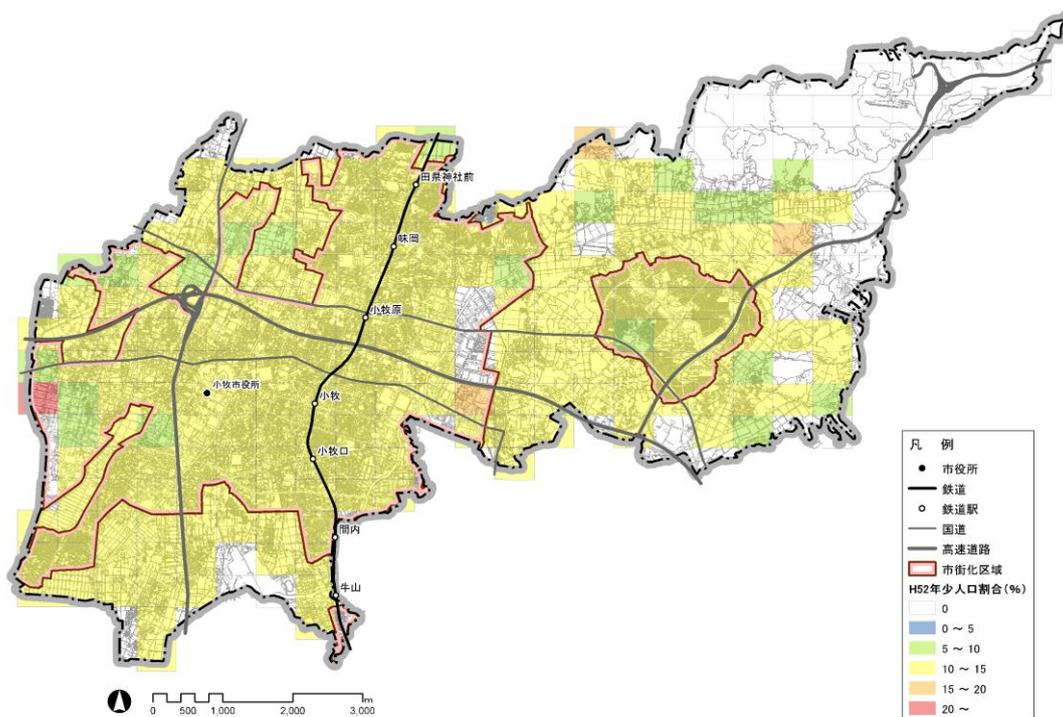
図 地区別の年少人口割合 (H22)



市平均：約 15%

(出典：平成 22 年 (2010 年) 国勢調査)

図 地区別の年少人口割合 (R22)



市平均：約 11%

## 2-2 土地利用

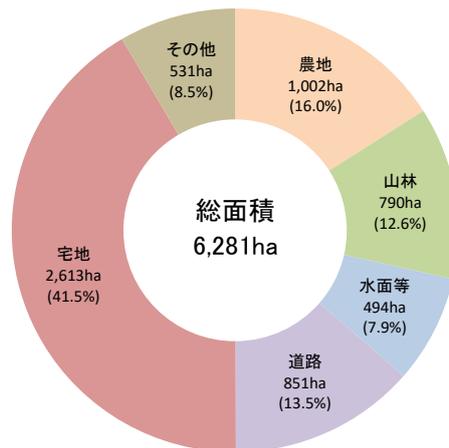
### 1 土地利用状況

土地利用現況は、市域面積 6,281ha のうち宅地が約 41.5%を占め、次いで農地が約 16.0%となっています。また、長期スパン（昭和 51 年（1976 年）と平成 21 年（2009 年））で土地利用の動向をみると、都市的な土地利用を示す「建物用地<sup>※1</sup>」が市街化区域に隣接する市街化調整区域まで拡大しています。なお、近年では、土地利用に大きな変化はみられないものの、市街化区域内の都市的低・未利用地<sup>※2</sup>が減少傾向にあることから、都市的な土地利用が進んでいます。

※1 建物用地：国土数値情報における総描建物（建物が密集していて個々の区別がつきにくい場所ではこれを総描して表示した建物）、独立建物、住宅団地及び建物類似の構造物（倉庫など）。

※2 都市的低・未利用地：都市計画基礎調査の土地利用現況における、農地（田・畑）、山林、未利用地（平面駐車場、建物跡地等、都市的状況の未利用地）、その他の空地（改築工事中の土地、ゴルフ場）の用途に使われている土地のこと。

図 土地利用現況面積及び割合（H25）



※総面積は現在の市域面積に補正

（出典：平成 25 年（2013 年）都市計画基礎調査）

表 地域別都市的低・未利用地の推移

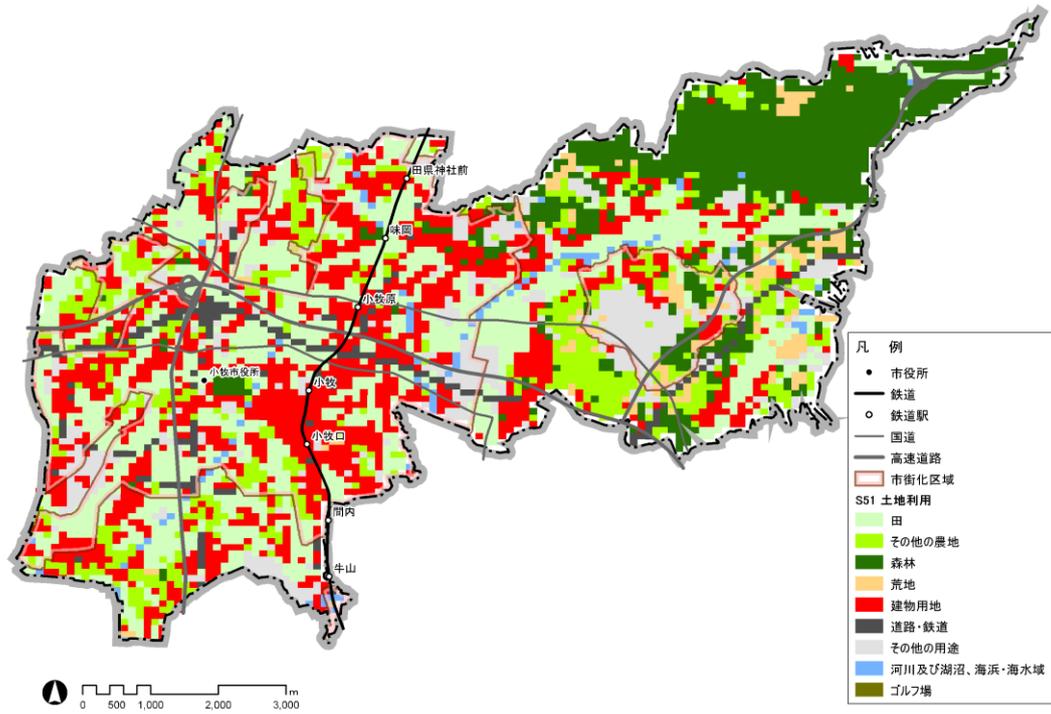
（単位：ha）

地域区分	H19年度			H25年度			都市的 低・未利用地 面積増減
	都市的 低・未利用地	地区面積	割合	都市的 低・未利用地	地区面積	割合	
小牧地区	250	1,939	13%	197	1,939	10%	-52
味岡地区	117	795	15%	98	795	12%	-19
篠岡地区	22	2,745	1%	17	2,745	1%	-5
北里地区	28	802	3%	25	802	3%	-3
市全域	417	6,281	7%	338	6,281	5%	-79

※市全域面積は現在の市域面積に補正

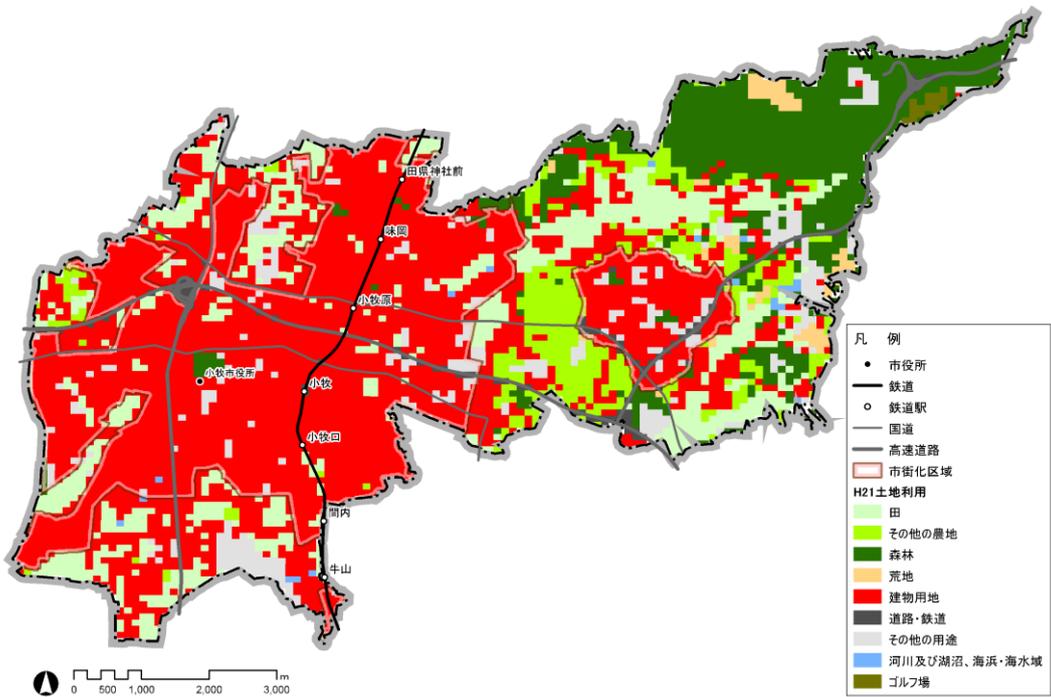
（出典：都市計画基礎調査）

図 土地利用現況(S51)



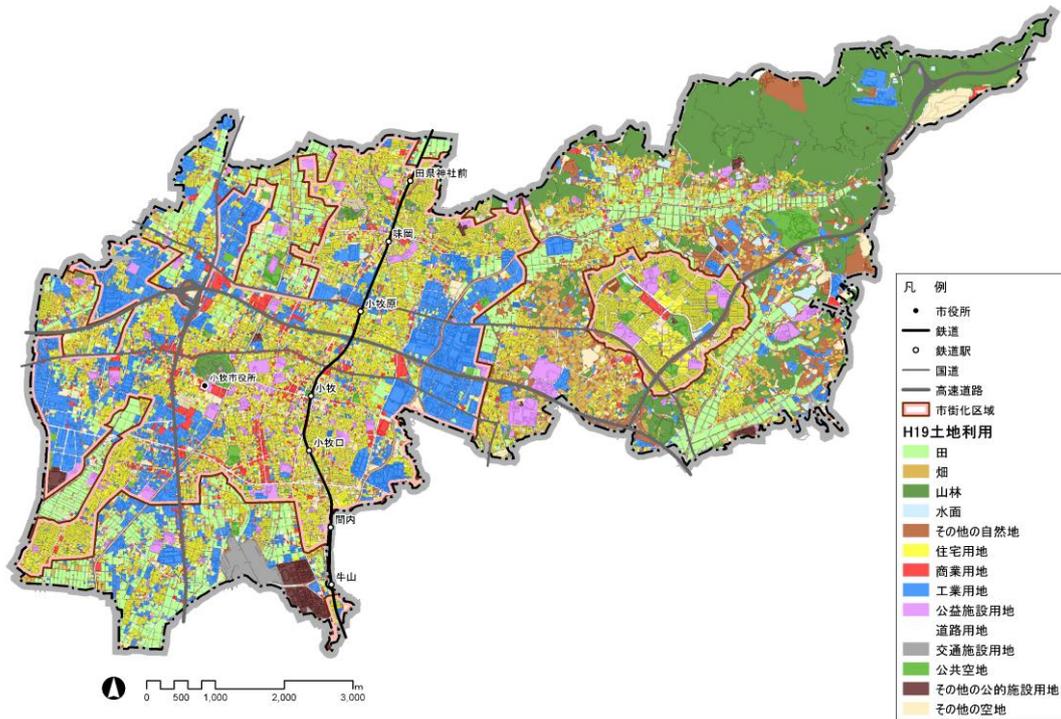
(出典：国土数値情報)

図 土地利用現況(H22)



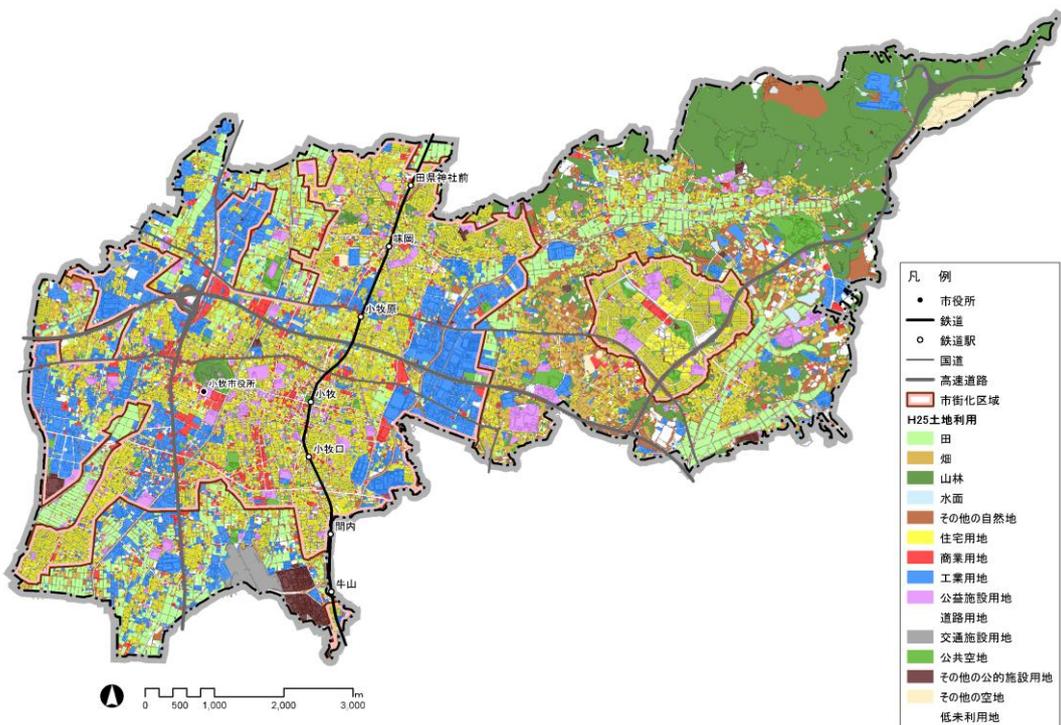
(出典：国土数値情報)

図 土地利用現況(H19)



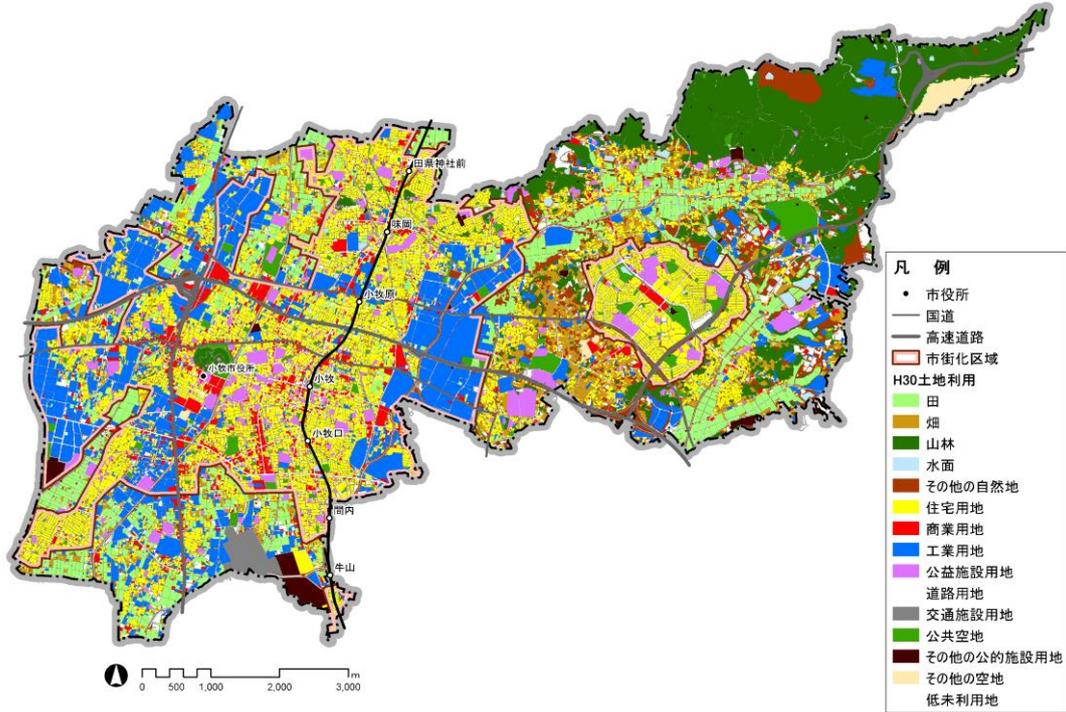
(出典：平成 19 年 (2007 年) 都市計画基礎調査)

図 土地利用現況(H25)



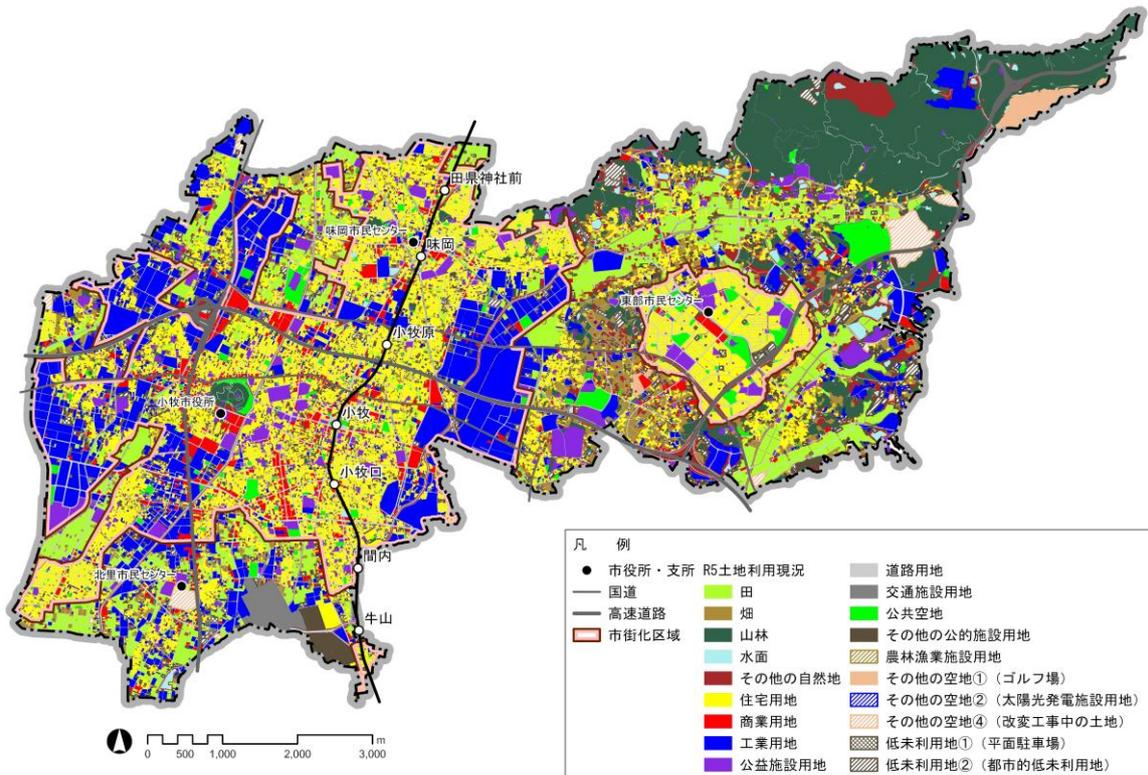
(出典：平成 25 年 (2013 年) 都市計画基礎調査)

図 土地利用現況(H30)



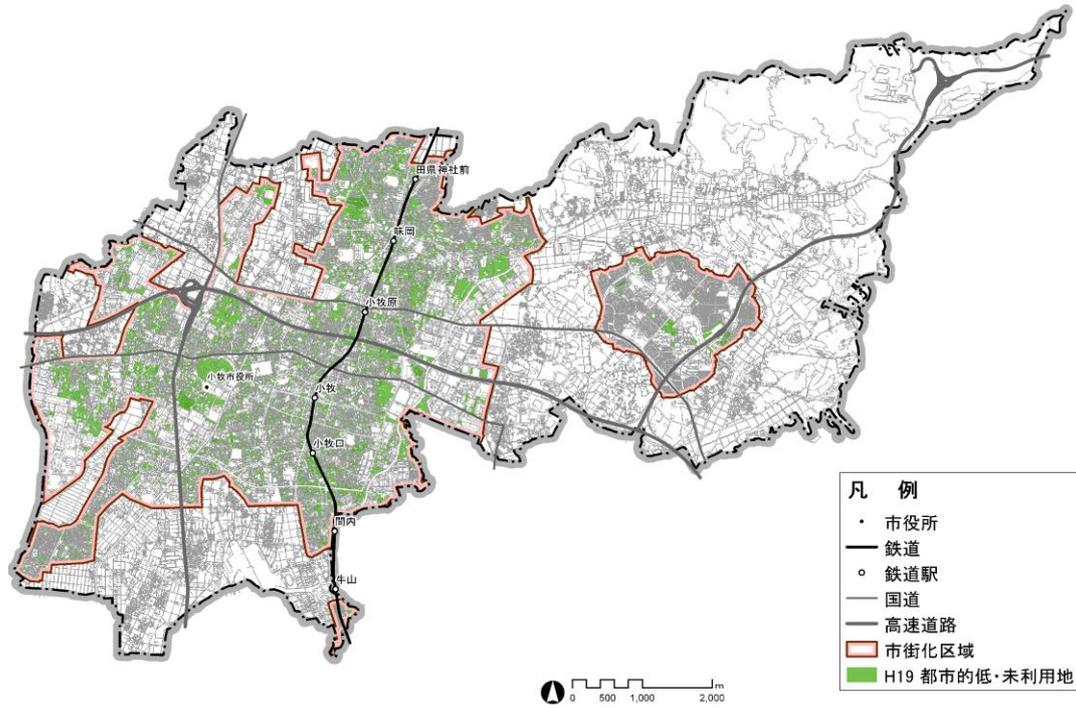
(出典：平成 30 年 (2018 年) 都市計画基礎調査)

図 土地利用現況(R5)



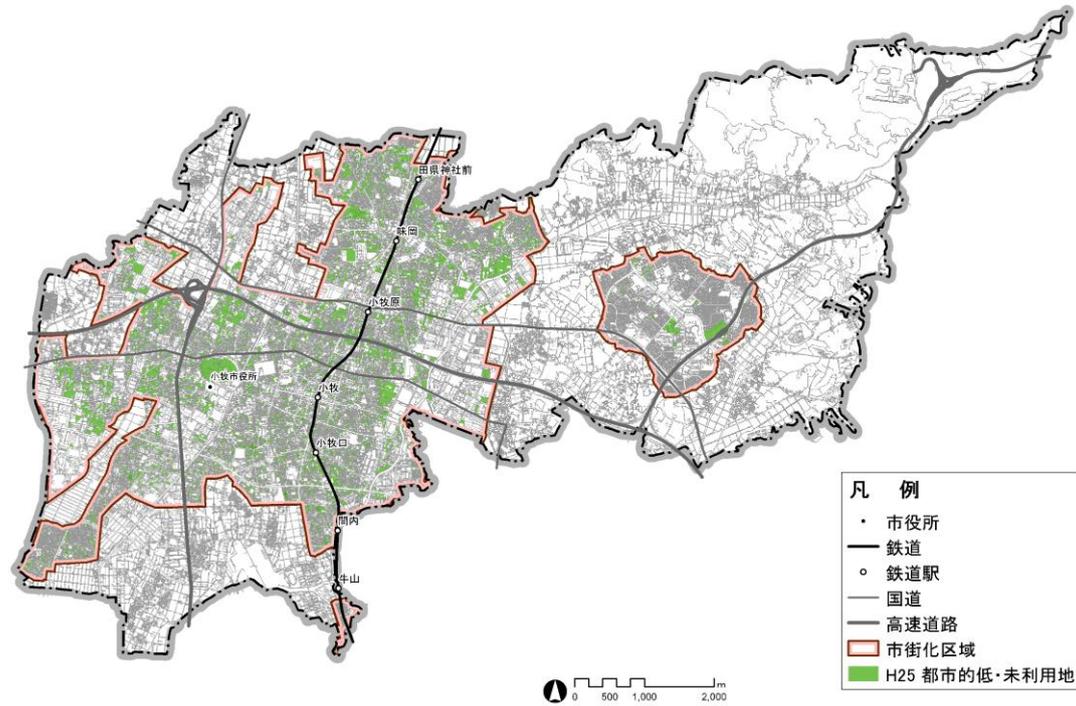
(出典：令和 5 年 (2023 年) 都市計画基礎調査)

図 都市的低・未利用地の分布(H19)



(出典：平成 19 年 (2007 年) 都市計画基礎調査)

図 都市的低・未利用地の分布(H25)

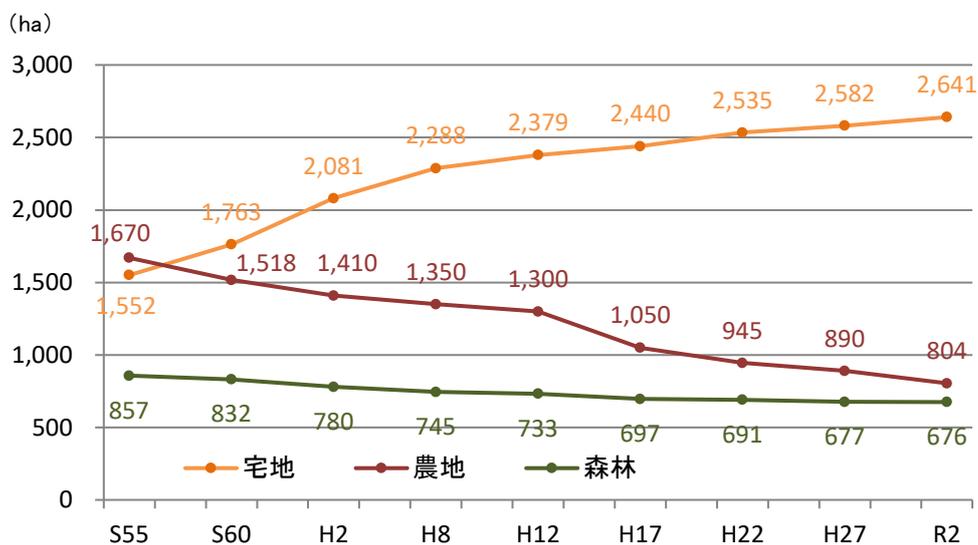


(出典：平成 25 年 (2013 年) 都市計画基礎調査)

## 2 農地・森林面積の動向

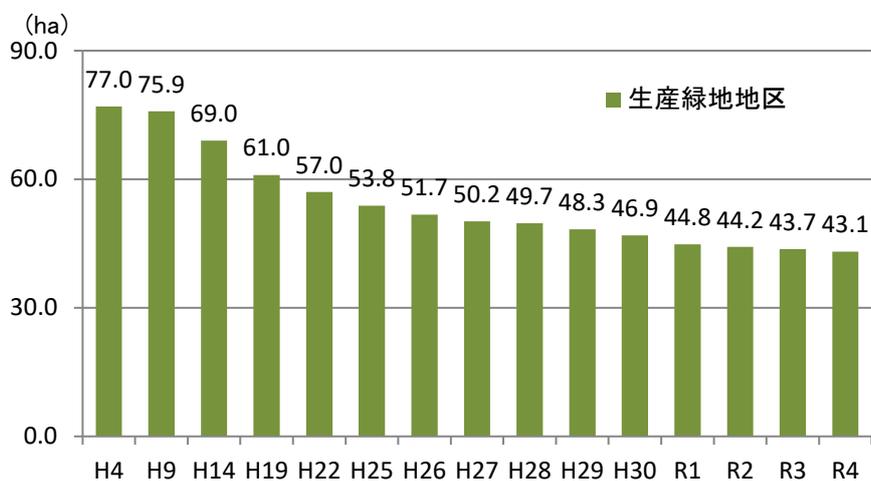
農地及び森林は、昭和55年（1980年）以降宅地の増加に伴い、減少傾向となっています。また、生産緑地地区も、当初の指定が行われた平成4年（1992年）以降減少傾向となっています。

図 農地・森林面積の推移



(出典：土地に関する統計年報)

図 生産緑地地区面積の推移



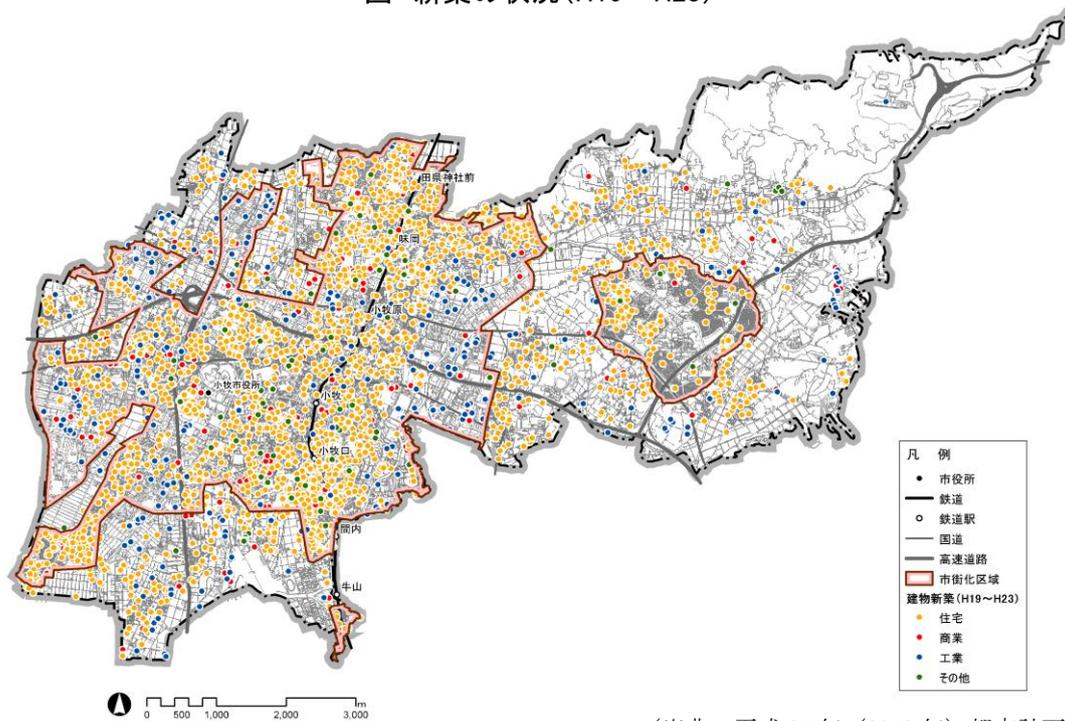
(出典：小牧市)

### 3 建物利用状況

#### (1) 建物新築状況

平成 19 年（2007 年）から平成 23 年（2011 年）における建物の新築状況を見ると、市街化区域の至るところで新築が見られるほか、市街化調整区域においても新築が見られます。

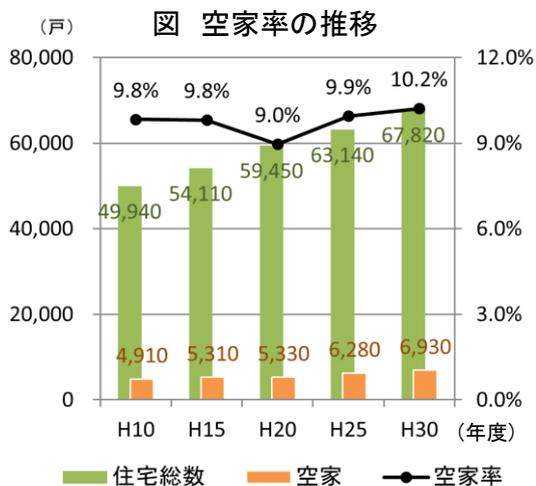
図 新築の状況(H19～H23)



(出典：平成 24 年（2012 年）都市計画基礎調査)

#### (2) 空き家状況

空き家の件数は住宅総数の増加に比例して増加傾向にあります。

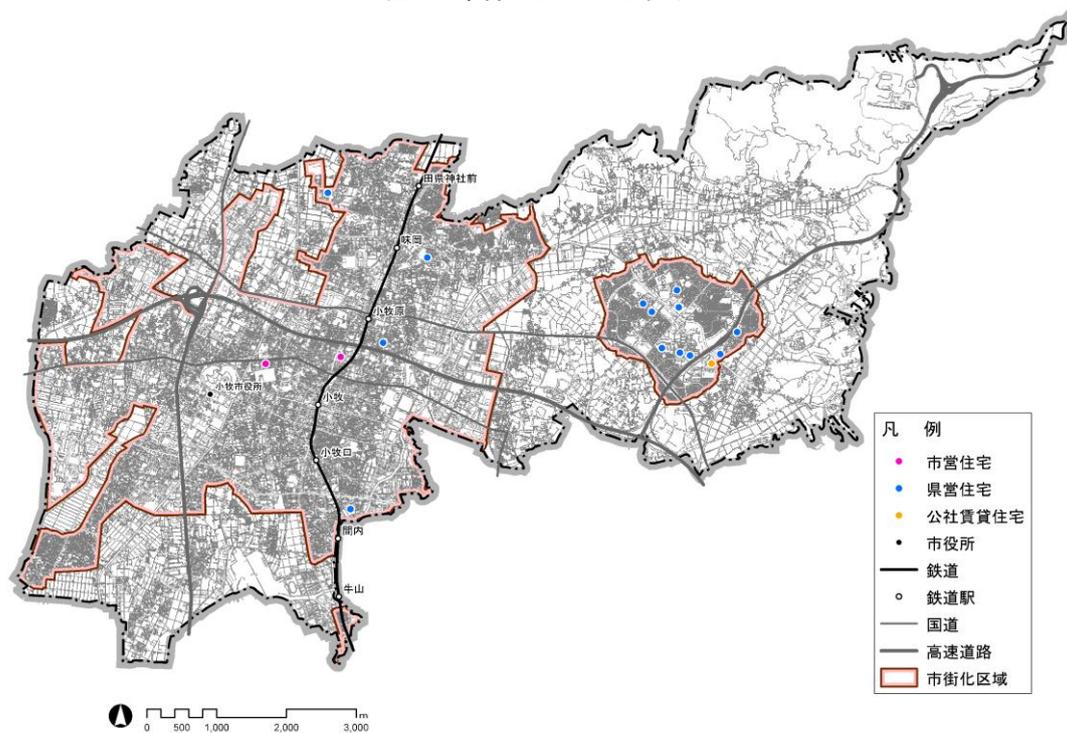


(出典：住宅・土地統計調査)

### (3) 公的賃貸住宅の立地状況

公的賃貸住宅（市営住宅、県営住宅、公社賃貸住宅）は、桃花台ニュータウンなどに立地しています。

図 公営住宅の立地状況



(出典：小牧市)

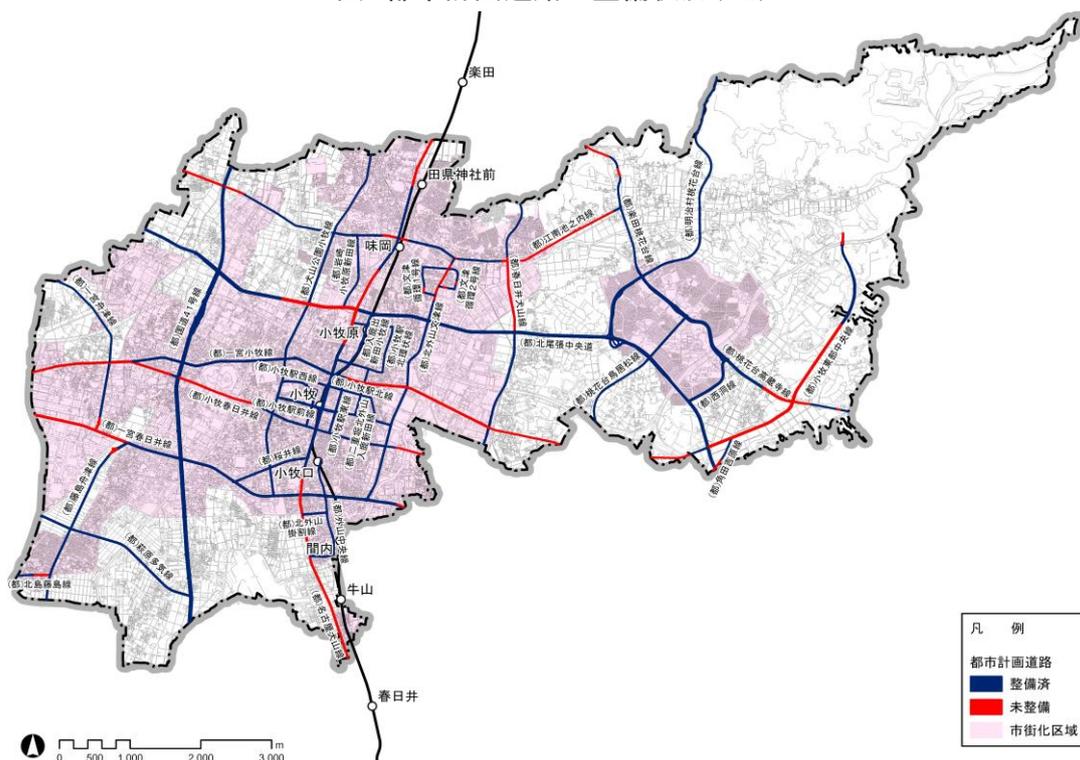
## 2-3 都市交通

### 1 交通系都市施設の状況

#### (1) 都市計画道路の整備状況

本市の都市計画道路のうち、自動車専用道路、区画街路及び歩行者専用道路を除く幹線道路の計画決定延長は約 102km となっており、整備率は、平成 30 年（2018 年）4 月現在で 76.3%（概成済を含むと 91.5%）となっています。

図 都市計画道路の整備状況(R2)



※自動車専用道路、区画街路及び歩行者専用道路を除く幹線道路

(出典：小牧市)

## (2) 駐車場、駐輪場の整備状況

本市の市営自動車駐車場（以下「市営駐車場」という。）は、小牧駅周辺や小牧山北の5箇所で整備されています。

市営駐車場の利用状況をみると、平成22年度以降の年間駐車台数は、ラピオ地下で減少傾向にありますが、その他の市営駐車場は増加傾向にあります。

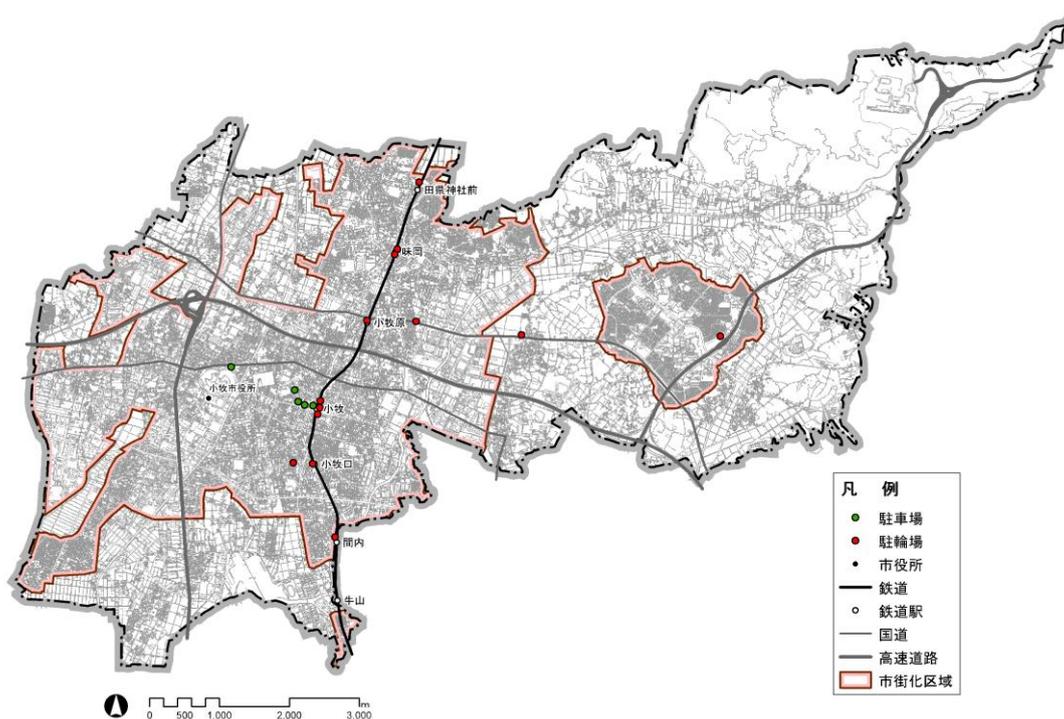
また、自転車等駐輪場（以下「駐輪場」という。）は、各駅周辺で9箇所、主要なバス停周辺で4箇所の整備がされています。

駐輪場の利用状況をみると、小牧駅の駐車台数※が最も多く、次いで、味岡駅、小牧口駅となっています。平成27年度の利用率（駐車台数/収容台数）は、間内駅で100%を上回っており、駐輪場が不足する状況にあります。（間内駅については、平成28年度に駐輪場の整備を行いました。）

駅周辺における駐輪場駐車台数の増減率（平成22年（2010年）時点の駐車台数を100%とした場合の比率）をみると、味岡駅、間内駅では増加傾向にありますが、その他の駅では減少しています。特に、田県神社前駅での減少が大きくなっています。

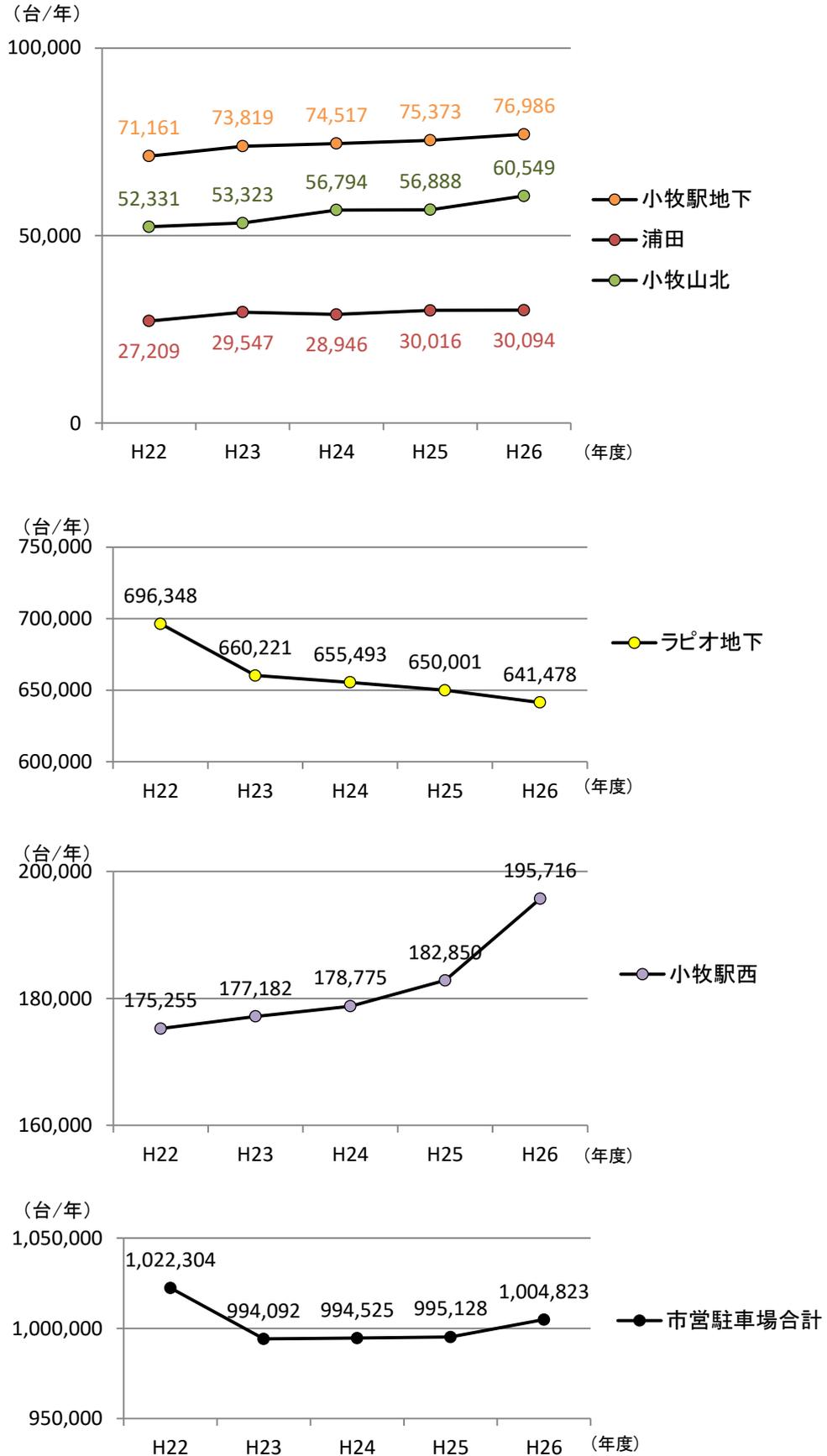
※駐車台数：駐輪場内の駐車台数と路上等への放置台数の合計。

図 市営駐車場及び市営駐輪場の立地状況



(出典：小牧市)

図 市営駐車場の年間駐車台数の推移



(出典：小牧市)

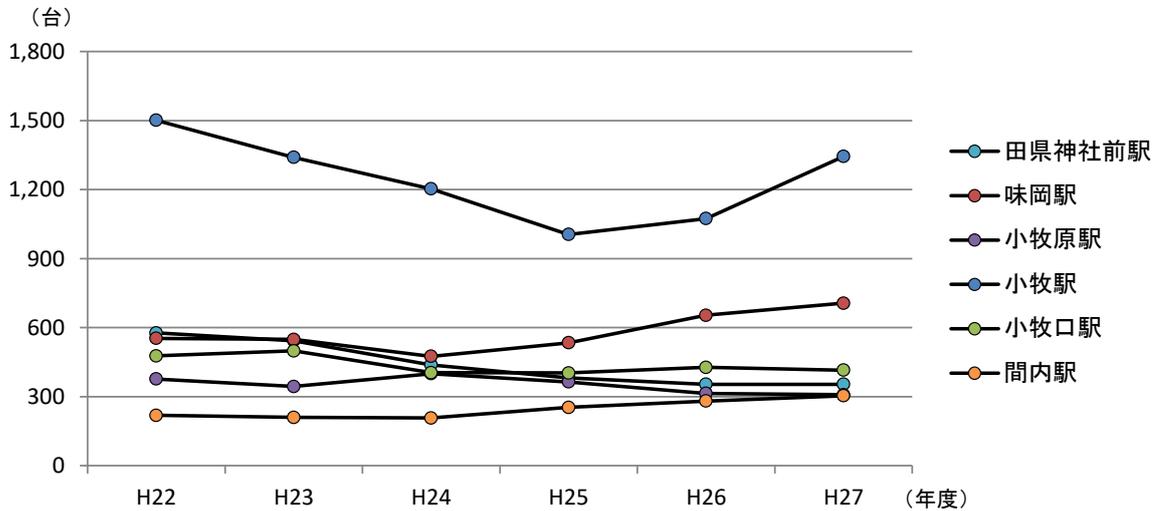
表 市営駐車場の利用状況

(単位:台)

		H22	H23	H24	H25	H26	H26-22 増減数
年度 合計	小牧駅地下	71,161	73,819	74,517	75,373	76,986	5,825
	ラピオ	696,348	660,221	655,493	650,001	641,478	▲ 54,870
	駅西	175,255	177,182	178,775	182,850	195,716	20,461
	浦田	27,209	29,547	28,946	30,016	30,094	2,885
	小牧山北	52,331	53,323	56,794	56,888	60,549	8,218
	合計	1,022,304	994,092	994,525	995,128	1,004,823	▲ 17,481

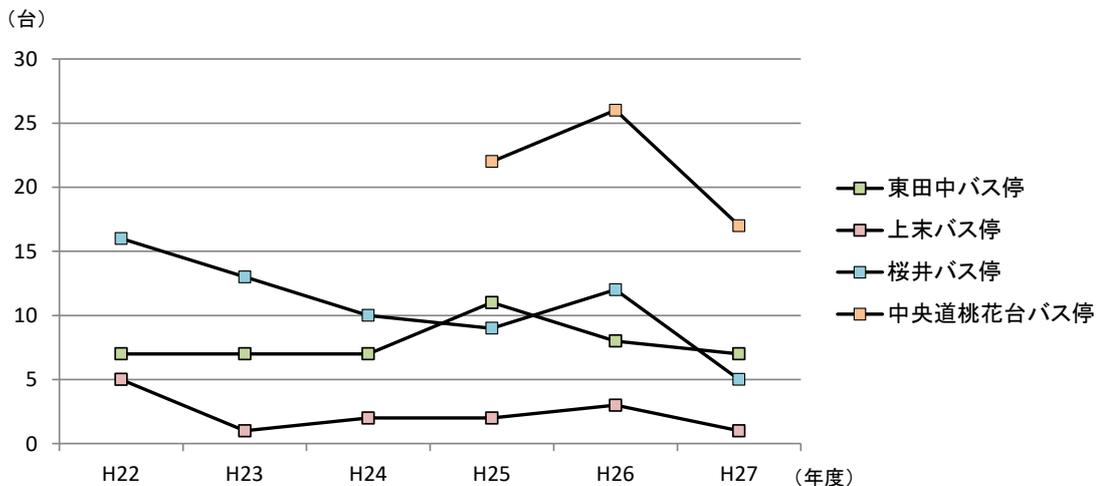
(出典:小牧市)

図 駅周辺駐輪場の駐車台数(路上等への放置台数含む)の推移



(出典:小牧市)

図 バス停周辺駐輪場の駐車台数(路上等への放置台数含む)の推移



(出典:小牧市)

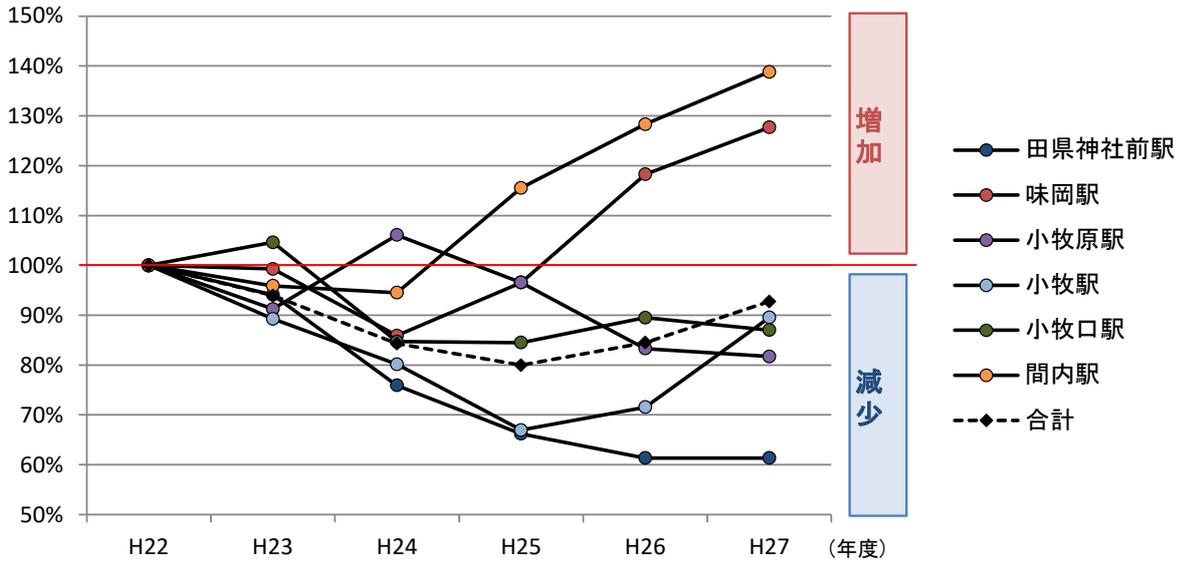
表 駐輪場の利用状況

(単位：台)

	駐車台数(路上等への放置台数含む)						H27 収容能力	H27 利用率
	H22	H23	H24	H25	H26	H27		
田県神社前駅	577	543	438	382	354	354	658	54%
味岡駅	553	549	475	534	654	706	783	90%
小牧原駅	377	344	400	364	314	308	371	83%
小牧駅	1,501	1,340	1,203	1,005	1,074	1,344	1,574	85%
小牧口駅	477	499	404	403	427	415	502	83%
間内駅	219	210	207	253	281	304	152	200%
東田中バス停	7	7	7	11	8	7	78	9%
上末バス停	5	1	2	2	3	1	65	2%
桜井バス停	16	13	10	9	12	5	58	9%
中央道桃花台 バス停	-	-	-	22	26	17	25	68%
合計	3,732	3,506	3,146	2,985	3,153	3,461	4,266	81%

(出典：小牧市)

図 駅周辺駐輪場駐車台数(路上等への放置台数含む)の増減率



(出典：小牧市)

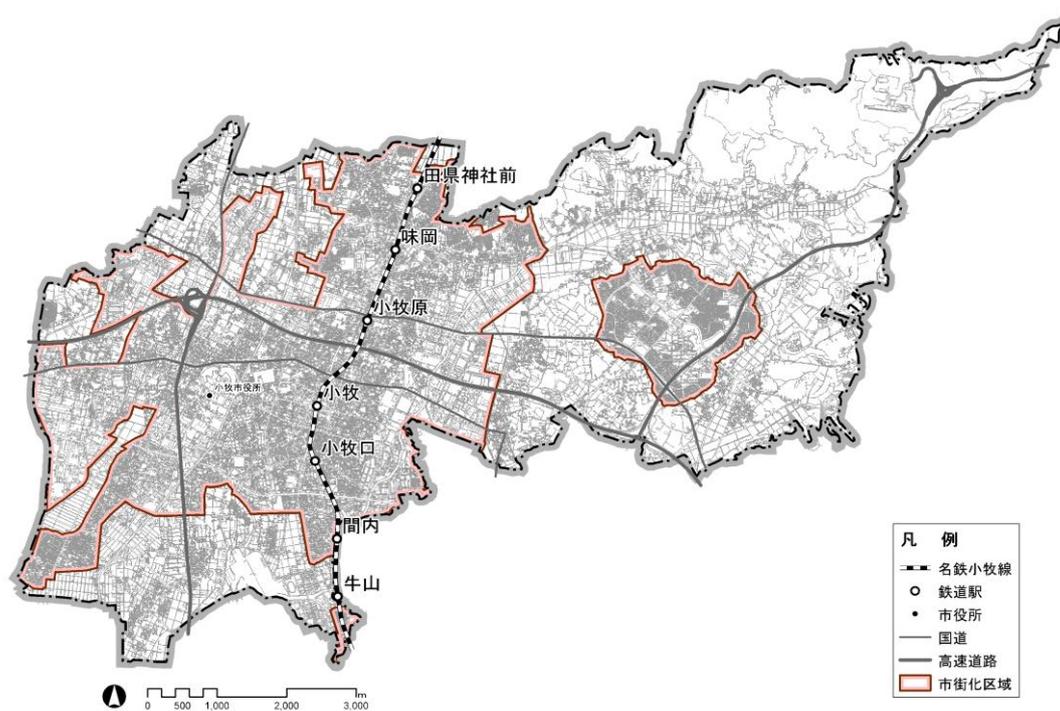
## 2 公共交通の状況

### (1) 鉄道

本市では、名鉄小牧線が市域中央部を南北方向に縦断しており、市内には小牧駅をはじめ6駅※、市境に近接して牛山駅が設置されています。

※間内駅は、ホームは春日井市ですが、駅前広場は本市に立地しているため、市内の駅にカウントしています。

図 鉄道網図

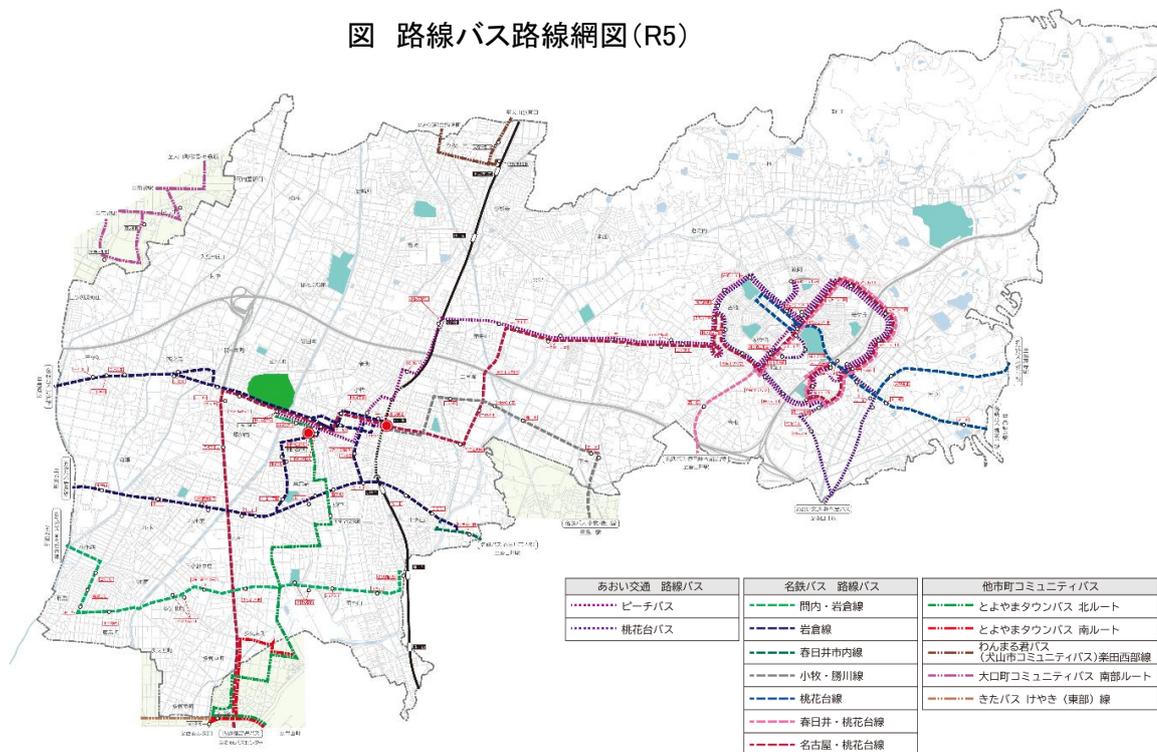


(出典：国土数値情報)

## (2)バス

本市では、民間事業者による路線バス、近距離高速バスや市のコミュニティバスであるこまき巡回バス「こまくる」が運行されています。また、本市に隣接する市町のコミュニティバスである犬山市の「わん丸君バス」と豊山町の「とよやまタウンバス」が運行されています。

図 路線バス路線網図(R5)



(出典：小牧市公共交通マップ)

図 こまき巡回バスコース図(R5)



(出典：小牧市資料 (こまき巡回バスコース図))

### (3) 運行事業者

鉄道は名古屋鉄道㈱の1社、バスのうち、路線バスはあおい交通㈱、名鉄バス㈱の2社、タクシー（市内に営業所がある事業者）はあおい交通㈱、小牧タクシー㈱、名鉄西部交通㈱の3社が運行しています。なお、名鉄バス㈱は、本市と隣接する春日井市や岩倉市等を結ぶ路線のほか、名古屋都心部とを結ぶ近距離高速バスも運行しています。さらに、中央道桃花台バス停に停車する高速バスとして、名鉄バス㈱、東濃鉄道㈱、JRバス東海㈱、JRバス関東㈱が路線を運行しています。

表 運行事業者

交通種別	公共交通の名称		交通事業者
鉄道	名鉄小牧線		名古屋鉄道㈱
バス	路線バス	ピーチバス 桃花台バス	あおい交通㈱
		上記以外の路線バス	名鉄バス㈱
	高速バス	近距離高速バス	東濃鉄道㈱ 名鉄バス㈱
		中央道桃花台バス停停車路線	JR東海バス㈱ JRバス関東㈱ 名鉄バス㈱
	コミュニティバス	こまき巡回バス 犬山市コミュニティバス とよやまタウンバス	小牧市（あおい交通㈱に運行委託） 犬山市（あおい交通㈱に運行委託） 豊山町（あおい交通㈱に運行委託）
タクシー※			あおい交通㈱ 小牧タクシー㈱ 名鉄西部交通㈱

※市内に営業所がある事業者

### 3 公共交通のサービス水準と利用状況

#### (1) 鉄道

名鉄小牧線は小牧駅の北側区間が単線、南側区間は複線であるため、小牧駅を境にサービス水準に差があり、小牧駅におけるピーク時（平日）の運行本数は、1時間あたり上飯田線方面が8本、犬山方面が4本となっています。また、名鉄小牧線は名古屋市営地下鉄上飯田線と直通運転をしており、小牧駅と平安通駅間は約16分で結ばれています。

表 鉄道のサービス水準

路線名	現行サービス水準(平日)		
	1日あたり 運行本数	ピーク時 1時間あたり 運行本数	運行時間
名鉄小牧線(犬山方面)	74	4	5:30 ~ 0:26
名鉄小牧線(上飯田方面)	94	8	5:32 ~ 0:23

※平成28年（2016年）4月1日現在

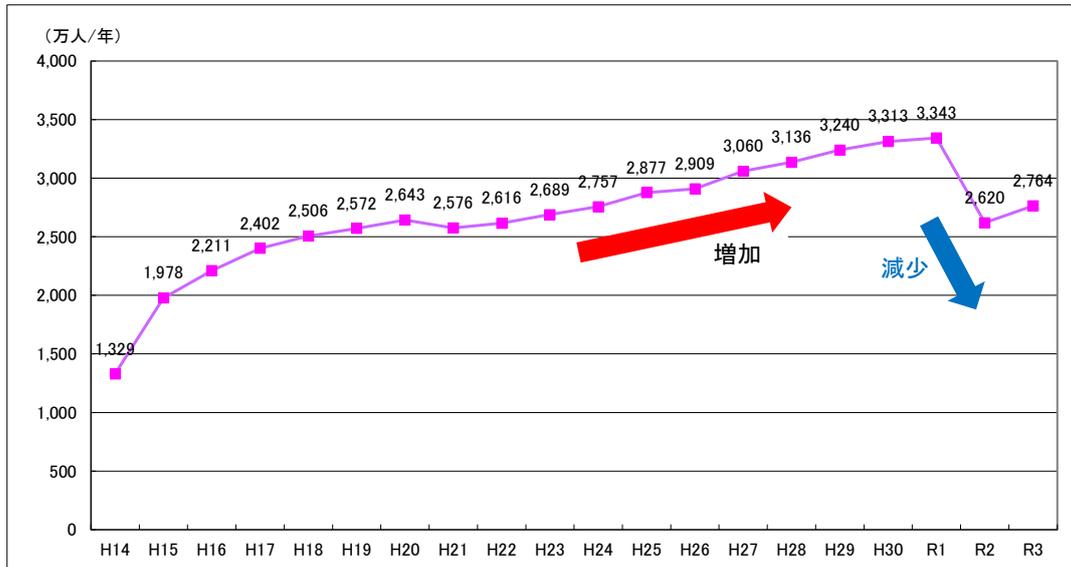
※ピーク時は平日の1日の運行のうち、1時間あたりの運行本数が最も多い時間帯。

※ピーク時1時間あたりの運行本数は小牧駅の値。

名鉄小牧線の乗降客数は、名古屋市営地下鉄上飯田線と相互直通運転を開始した平成15年度（2003年度）に大きく伸びた以降増加傾向となっていました。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度（2020年度）に大きく減少しています。

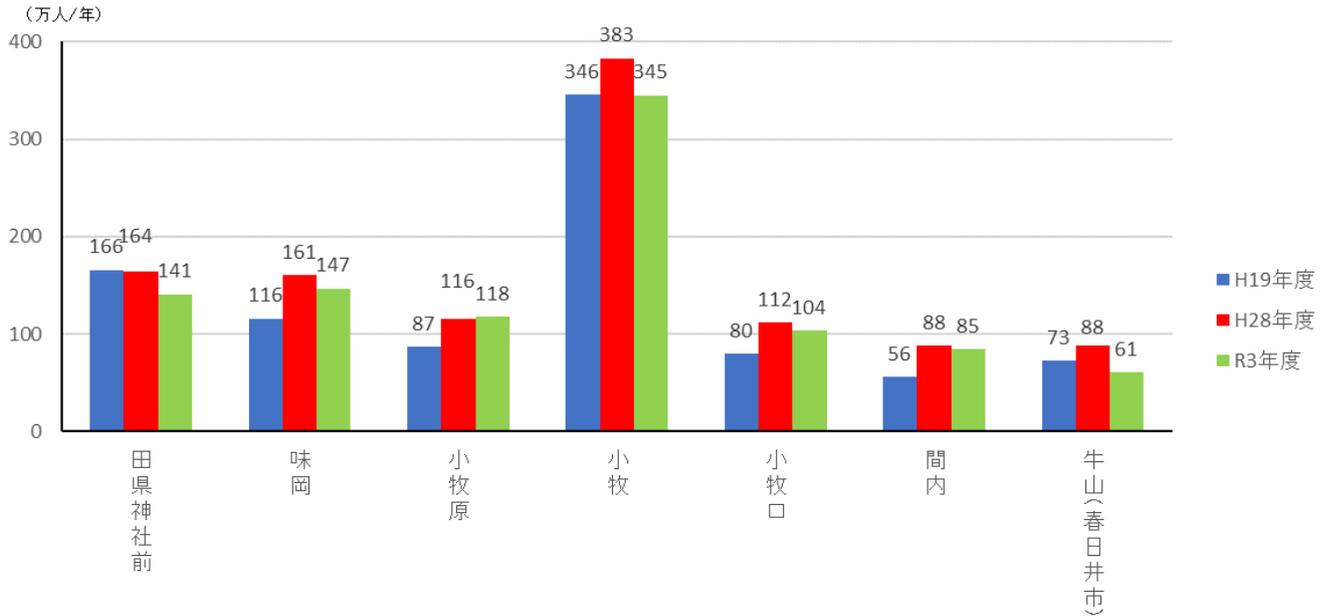
駅別の利用者数を見ると、市内では小牧駅が最も多く、令和3年度（2021年度）は約345万人/年となっています。また、田県神社前駅を除く各駅で平成19年度（2007年度）から平成28年度（2016年度）にかけて利用者数が増加していました。

図 名鉄小牧線乗降客数の推移



(出典：名古屋鉄道株式会社)

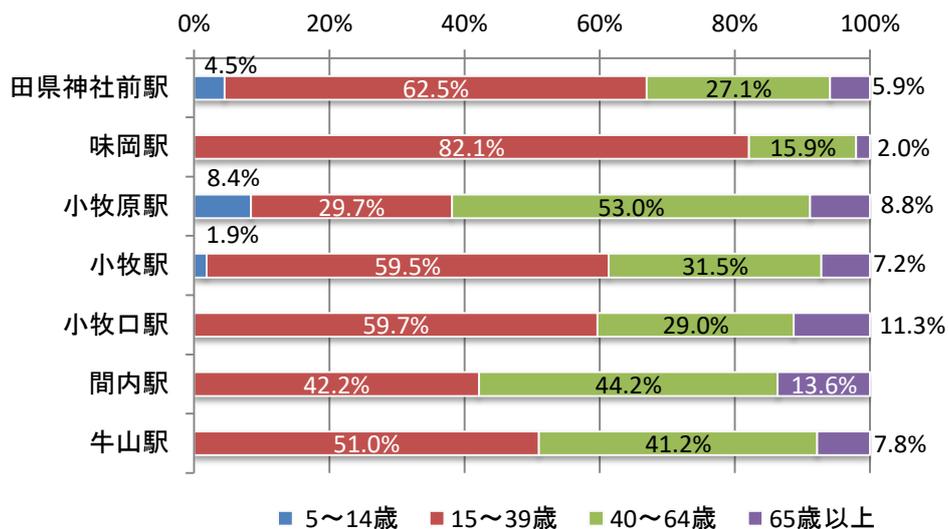
図 駅別乗降客数の推移



(出典：小牧市)

市内6駅及び牛山駅の乗降客数がどのような世代構成になっているかを、第5回中京都市圏パーソントリップ調査からみると、どの駅も生産年齢人口が80%以上となっています。また、田県神社前駅、小牧原駅、小牧駅で年少人口の構成比が多くなっているほか、間内駅、小牧口駅では、高齢者人口の構成比が多くなっています。

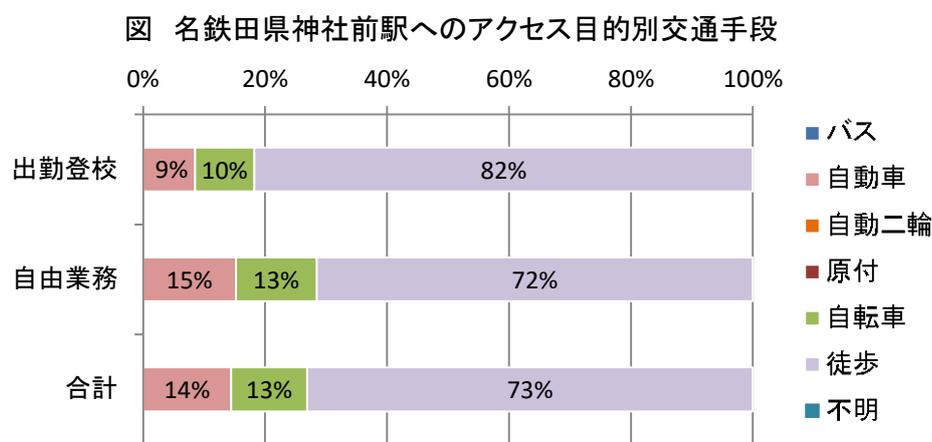
図 駅の利用世代



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

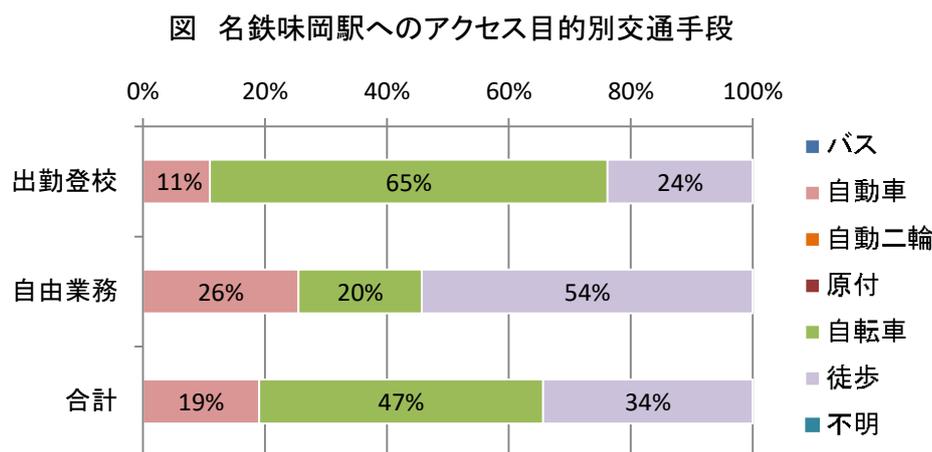
市内6駅及び牛山駅の利用者（乗車側：電車に乗ろうとする人）が、どのような交通手段で駅を利用しているのかを、第5回中京都市圏パーソントリップ調査から目的別（パーソントリップ調査では、トリップ目的を「出勤」「登校」「自由」「業務」「帰宅」「不明」の計6カテゴリで調査していますが、「帰宅」は「出勤」等の裏返しであることから、ここでは「出勤」「登校」「自由」「業務」の4カテゴリを抽出しています。）にしてみると、田県神社前駅、小牧原駅、間内駅及び牛山駅では「徒歩」の割合が約7～8割と高くなっています。

これ以外の味岡駅、小牧駅及び小牧口駅では、「徒歩」以外の交通手段も使われており、特に味岡駅は「自動車」と「自転車」を合わせた割合が7割近くを占めており、広範囲から利用されていることがうかがえます。



※合計には「帰宅」目的の移動を含む。（以下、同様）

（出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査）



（出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査）

図 名鉄小牧原駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 名鉄小牧駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 名鉄小牧口駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 名鉄間内駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 名鉄牛山駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

本市の主要駅である小牧駅と近隣市町の主要駅（JR 春日井駅、JR 勝川駅、名鉄岩倉駅）を比較すると、小牧駅は他の主要駅に比べ、「徒歩」の利用割合が高いものの、他の主要駅と同様に交通手段の結節点としての機能を果たしていることがわかります。

図 JR 春日井駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 JR 勝川駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 名鉄岩倉駅へのアクセス目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

## (2)バス

本市で運行されている路線バスのうち大半の路線は、1日あたりの運行本数が10本以上となっており、「都市構造の評価に関するハンドブック」（平成26年（2014年）8月、国土交通省都市局都市計画課）において「基幹的公共交通路線」として定義されている片道30本/日以上運行頻度の路線（ただし、ここでは市内の移動として利用できない「近距離高速バス」は除く。）も5路線あります。

また、先に掲げた路線バス路線網図より、小牧駅を經由もしくは起終点とする路線バス（近距離高速バスを除く）は6路線ありますが、これらの路線の1日あたり運行本数は計204本あり、市内外から小牧駅へのバスによるアクセスが優れていることがわかります。

なお、こまき巡回バスについては、利用者の利便性を高めるため、平成27年（2015年）4月と平成28年（2016年）4月に、路線や運行本数等の見直しを行い、サービス水準の向上を図っています。

表 バスのサービス水準

■：片道30本/日以上または小牧駅を經由もしくは起終点とする路線バス

種別	路線名		現行サービス水準（平日）			
			1日あたり 運行本数	ピーク時 1時間あたり 運行本数	運行時間	
路線バス	名鉄バス	間内・岩倉線	12	1	7:00 ~ 21:44	
		岩倉線	桜井経由 ※1	30	3	5:50 ~ 23:07
			小牧市民病院前経由	27	2	6:50 ~ 21:24
			小牧市役所前経由	23	2	6:40 ~ 21:52
		春日井市内線	51	4	6:06 ~ 23:17	
		小牧・勝川線	17	2	6:12 ~ 22:05	
		桃花台線 ※2	25	3	6:17 ~ 22:39	
		春日井・桃花台線 ※3	48	8	5:46 ~ 0:34	
	桃山線	7	1	5:48 ~ 22:07		
	交 あ お い 通	ピーチバス	56	5	5:35 ~ 23:55	
		桃花台バス ※4	31	8	5:47 ~ 22:47	
	高 近 速 距 離	名古屋・桃花台線 ※5	22	4	6:04 ~ 0:34	
		桃花台バス停(中央道)発着路線 ※6	40	11	6:49 ~ 23:50	
こ ま き 巡 回 バ ス	⑪西部右まわりコース	10	1	7:54 ~ 18:59		
	⑫西部左まわりコース	10	1	7:28 ~ 18:26		
	⑬南部北里右まわりコース	10	1	6:40 ~ 18:29		
	⑭南部北里左まわりコース	10	1	6:30 ~ 18:31		
	⑮パークアリーナ小牧・市役所コース	10	1	7:39 ~ 20:04		
	⑯小牧・味噌西コース	10	1	7:02 ~ 20:23		
	⑰小牧・味噌中コース	10	1	7:36 ~ 20:48		
	⑱北部東部右まわりコース	11	1	7:00 ~ 19:06		
	⑲北部東部左まわりコース	11	1	7:02 ~ 19:33		
	51 三ツ淵・舟津コース	10	1	7:46 ~ 18:49		
	52 河内屋・横内コース	11	1	7:42 ~ 18:54		
	53 春日寺・間内コース	9	1	7:43 ~ 18:40		

種別	路線名	現行サービス水準（平日）		
		1日あたり 運行本数	ピーク時 1時間あたり 運行本数	運行時間
巡回バス こまき	54 多気・小針コース	9	1	7:55 ～ 18:17
	55 田県・岩崎原コース	17	2	7:18 ～ 19:45
	56 上末・池之内南コース	12	1	7:20 ～ 19:12
	57 林・池之内コース	12	1	6:57 ～ 19:35
	58 小牧ヶ丘・野口南コース	13	2	7:00 ～ 19:34
	59 中央道桃花台コース	13	1	6:37 ～ 19:57
	60 高根南・城山コース	13	1	6:46 ～ 19:48

(注) 路線バスは平成 27 年（2015 年）4 月 1 日現在、こまき巡回バスは平成 28 年（2016 年）4 月 1 日現在のサービス水準を記載。

(注) 1 日あたり運行本数は片道の運行本数であり、上下線で運行本数が異なる場合はその平均（小数点第 1 位四捨五入）を記載。

(注) ピーク時 1 時間あたりの運行本数は片道の運行本数であり、始発バス停発車時間（始発バス停が複数ある場合は全ての始発バス停で最も本数の多い時間）を基準として算出。（※ただし、桃花台バスは、春日井駅前到着時刻を基準として、桃花台バス停（中央道）発着路線は、桃花台バス停発車時間を基準として算出）

(注) 運行時間は、始発便の始発バス停発車時間（上下線のうち始発時間が早いほう）～最終便の終着バス停到着時間（上下線のうち到着時間が遅いほう）を記載。（※ただし、桃花台バス停（中央道）発着路線は、桃花台バス停の発着時間を記載。）

※1：住友理工前発着（片道 1 本ずつ）を含む。

※2：中央台経由（片道 2 本ずつ）を含む。

※3：深夜バス（春日井駅発桃花台東行き 2 本）を含む。

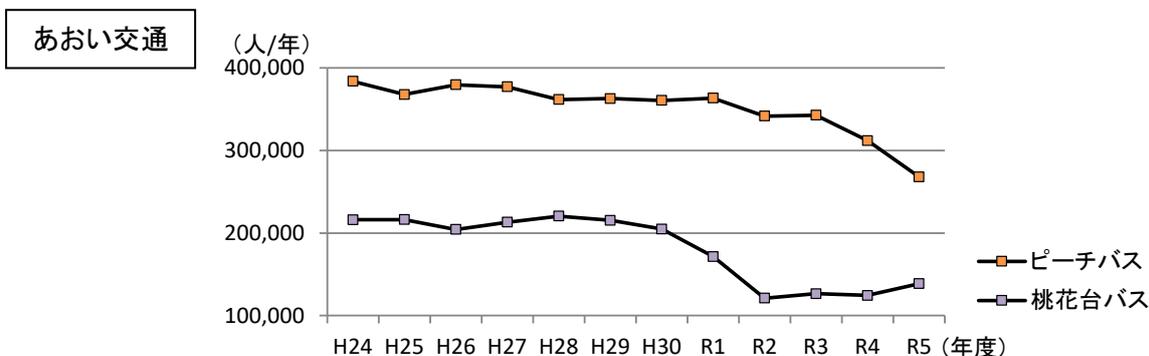
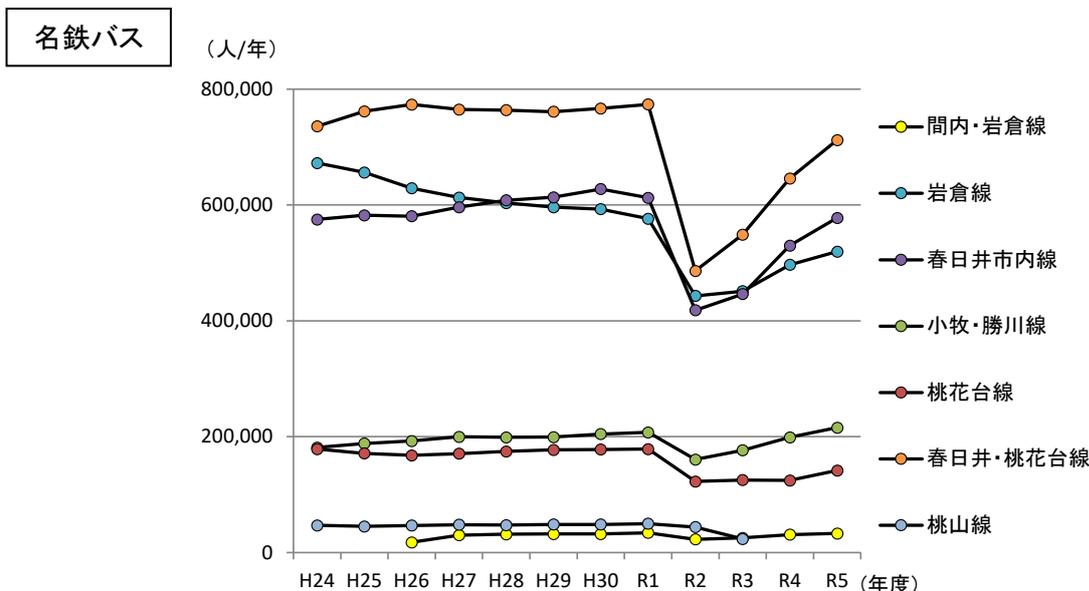
※4：全系統（朝 A・B・C・D、昼西回り・東回り、夜 A・B）をまとめて記載しており、市内各バス停における運行本数はいずれも 30 本/日以下である。

※5：明治村発着（片道 1 本ずつ）、深夜バス（名鉄バスセンター発桃花台東行き 1 本）を含む。

※6：全系統（名古屋・多治見線（深夜バス（名鉄バスセンター発桂ヶ丘一丁目行き 1 本）を含む）、西可児線、可児市役所線）をまとめて記載。

主な路線バスの利用者数は、平成 24 年度（2012 年度）～令和 5 年度（2023 年度）にかけて、春日井市内線、小牧・勝川線で増加しています。一方、その他の路線では、減少傾向にあります。令和 2 年度（2020 年度）にはほとんどのバス路線で、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が大幅に減少しましたが、その後回復傾向にあります。

図 主な路線バスの利用者数推移



(単位:人)

		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R5-24増減数
名鉄バス	間内・岩倉線	-	-	17,466	29,903	31,427	32,013	32,050	33,902	22,685	25,177	30,776	32,927	-
	岩倉線	672,404	656,112	628,759	612,774	603,435	596,112	592,783	576,276	443,018	451,069	496,818	519,564	▲ 152,840
	春日井市内線	574,938	582,112	580,648	596,187	608,013	613,336	627,393	612,387	418,225	446,131	529,964	577,572	2,634
	小牧・勝川線	181,321	188,220	192,460	199,839	198,724	199,309	204,497	207,399	160,586	176,531	198,802	215,599	34,278
	桃花台線	178,538	171,178	167,709	170,539	174,484	177,227	177,794	178,495	122,719	125,011	124,409	141,607	▲ 36,931
	春日井・桃花台線	735,810	761,642	773,452	764,719	763,768	761,050	766,547	773,657	486,030	548,734	645,662	712,045	▲ 23,765
	桃山線	46,923	45,121	46,687	47,866	47,317	48,403	48,335	49,796	43,931	23,382			▲ 46,923
あおい交通	ピーチバス	383,831	367,782	379,563	377,101	361,715	362,901	360,677	363,377	341,581	342,641	312,026	268,031	▲ 115,800
	桃花台バス	216,098	216,250	204,397	213,046	220,515	215,465	204,850	171,466	121,136	126,615	124,409	138,669	▲ 77,429

※名鉄バス桃山線は令和 4 年度から廃止

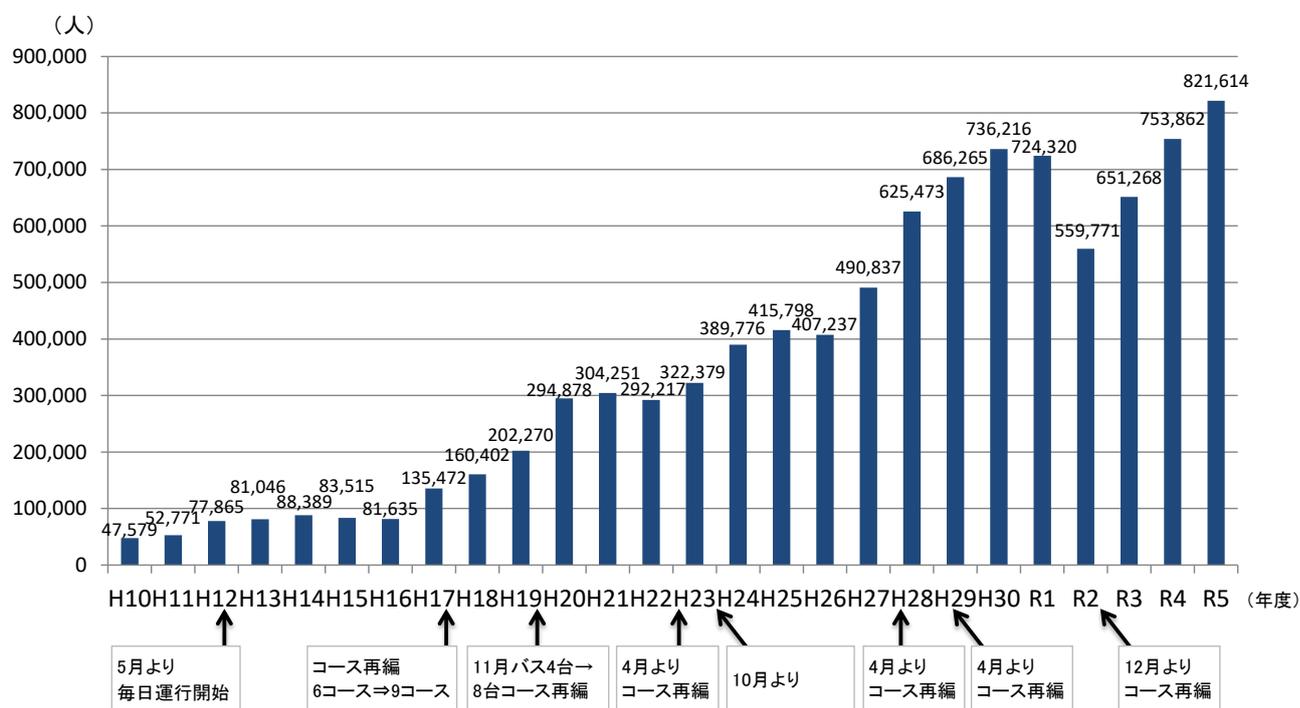
(出典: 小牧市)

こまき巡回バスの利用者数は、路線の拡大や運行頻度の増加等のサービス水準の向上に伴い、増加傾向にあります。

特に、65歳以上の料金を無料にした平成23年度（2011年度）以降は、利用者が大きく増加しています。特に、平成23年度（2011年度）以降は、65歳以上の料金無料化やコース再編により利用者が大きく増加しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度（2020年度）に利用者数が大幅に減少しましたが、その後回復し、令和4年度（2022年度）は減少前の水準以上となり、令和5年度（2023年度）には過去最大となっています。

図 こまき巡回バスの利用者数推移



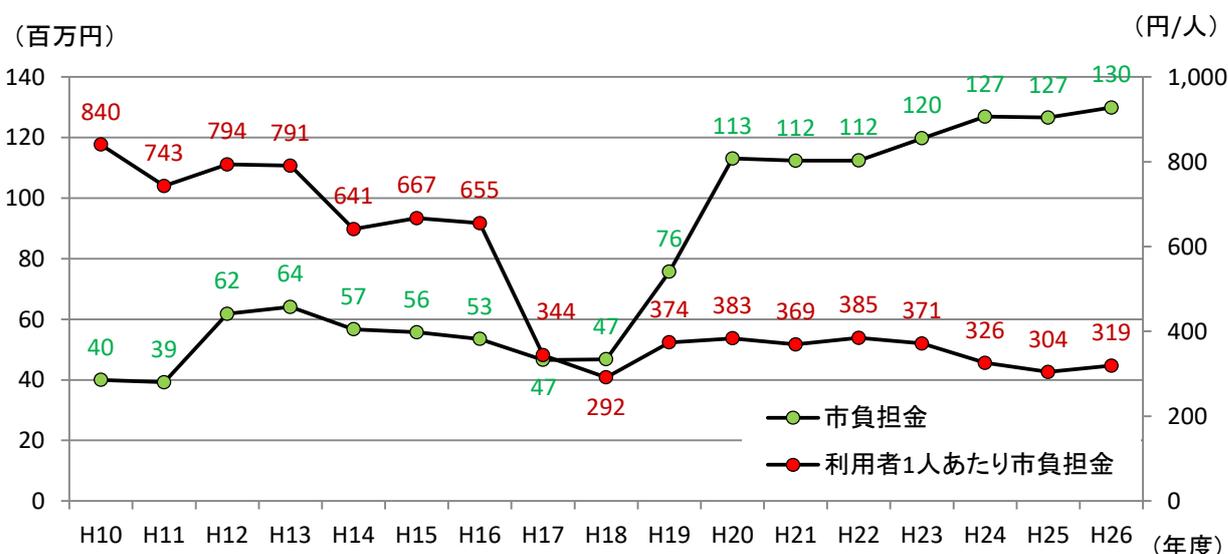
(出典：小牧市統計年鑑)

こまき巡回バスは、平成10年度（1998年度）以降、サービス水準の向上により、利用者は増加していますが、運行に係る市負担金は増大し、平成26年度（2014年度）では年間約1.3億円となっています。

一方で、利用者が増加したことにより、利用者1人あたりの市負担金は減少しており、運行当初の約840円/人が、平成26年度（2014年度）では約319円/人まで低下しています。

また、本市では、こまき巡回バスを運行するほかに、市内の路線バス（間内・岩倉線、ピーチバス）の運行を維持するために、平成24年度（2012年度）以降、年間約430～1,040万円を負担しています。

図 こまき巡回バス運行負担金※の推移



※市負担金は運行経費から運賃収入等を差し引いた額。

※利用者1人あたりの市負担金は市負担金を利用者数で割った数値。

(出典：小牧市)

図 路線バスに対する市負担金の推移

路線名	(単位:円)		
	H24	H25	H26
間内・岩倉線	-	-	3,484,000
ピーチバス	7,000,000	10,400,959	791,000
合計	7,000,000	10,400,959	4,275,000

※間内・岩倉線の市負担金については、H26はH26年8月～H26年9月の2ヶ月間。

(出典：小牧市)

#### 4 公共交通カバー率

公共交通を利用しやすい場所に居住している市民の割合を確認するため、鉄道駅及びバス停からの徒歩圏による人口カバー率を算出します。

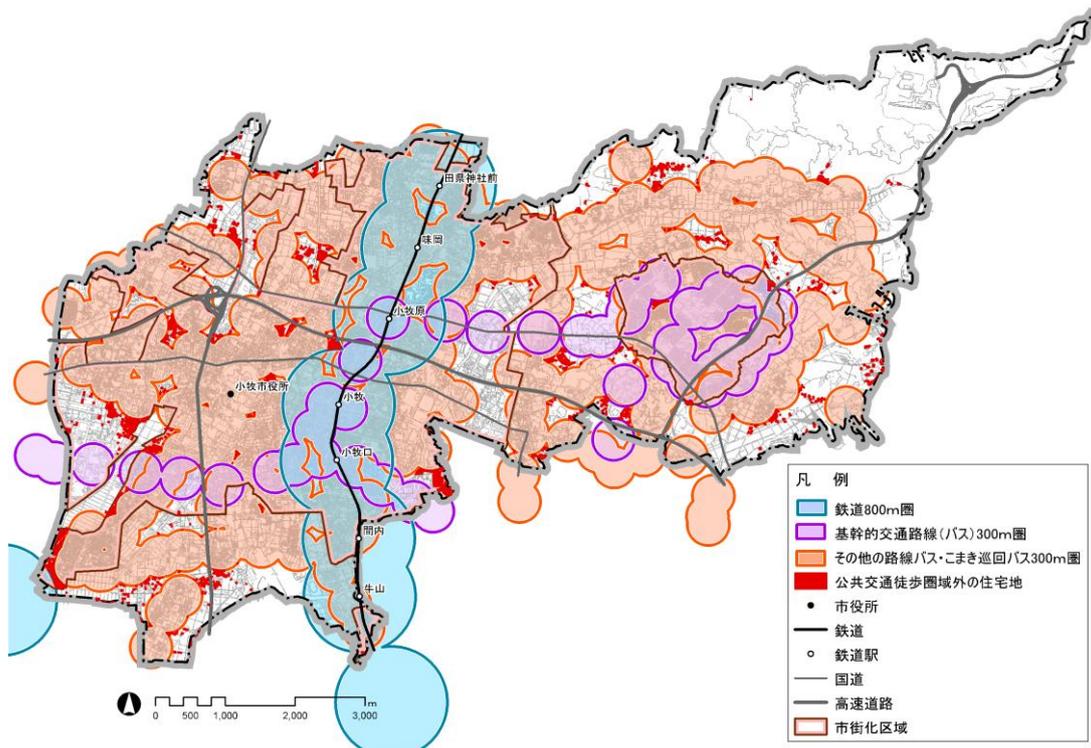
徒歩圏の範囲は、「都市構造の評価に関するハンドブック」において設定されている値を参考に、鉄道駅徒歩圏は半径 800m、バス停の徒歩圏は半径 300m とします。

徒歩圏人口カバー率は、①鉄道駅の徒歩圏人口、②基幹的公共交通路線（1日あたり片道 30 本以上の運行頻度の鉄道路線及びバス路線）の徒歩圏人口、③本市の全ての公共交通（鉄道、路線バス、こまき巡回バス）の徒歩圏人口の 3 段階に分けて算出しています。

その結果、鉄道駅の徒歩圏人口カバー率は約 33% となっています。また、基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率は約 50% となっており、「都市構造の評価に関するハンドブック」に示されている地方都市圏の概ね 30 万人都市の平均値（約 40%）を上回っています。

なお、鉄道と基幹的公共交通路線とこまき巡回バスを合計した徒歩圏人口カバー率は約 94% となっており、市街地の大半が徒歩圏に含まれています。

図 鉄道・バス徒歩圏域(H28)



※市内の移動として利用できない「近距離高速バス」は除く。

図 H22 鉄道・バス徒歩圏カバー率

(単位：人)

	H22人口	H22圏域内人口	カバー率
鉄道駅徒歩圏(800m圏)	147,132	48,395	33%
基幹的公共交通路線徒歩圏 (運行頻度が日30本以上の鉄道駅徒歩圏(800m圏)+バス停徒歩圏(300m圏))	147,132	72,956	50%
鉄道駅徒歩圏+路線バス・こまき巡回バス停徒歩圏	147,132	138,837	94%

※平成28年(2016年)4月時点

※住宅地面積(平成25年(2013年)都市計画基礎調査より)按分により圏域内人口を算出。

(出典：平成22年(2010年)国勢調査)

(参考)都市構造評価の指標

【(i)立地適正化計画等において都市機能や居住を誘導する区域を設定・検討している都市向けの指標例】

- 《留意事項》
- i. ■は各項目の代表的な指標を表し、□は、■の指標を代替し、または補完する参考指標を表す。
  - ii. ■の指標値は、将来値の推計が可能と考えられる指標を表す(Ⅲ. 2を参照)。
  - iii. ■の指標値に係る平均値は、国勢調査、国土数値情報データ等を用いたメッシュベースの概算値。  
(各都市における算定・推計にあたり必要な場合には、このデータベースの活用についてご相談ください。)
  - iv. 「-」は、市町村の全国データが存在しない等の要因から全国、都市規模別の平均値が算定できないことを表す。
  - v. 都市規模別平均値は、基本的に都市計画区域を有する全ての市町村の平均値を掲載(人口10万人以上都市限定などの例外あり)。  
また、各市町村の指標は基本的に行政区全域で算出。
  - vi. 「居住を誘導する区域」、「都市機能を誘導する区域」にかかる平均値(斜字)は、便宜上、市街化区域等における平均値を掲載。

評価分野・評価軸	評価指標	単位	都市規模別平均値							
			全国	三大都市圏	地方都市圏					
				政令市	概ね50万	概ね30万	10万以下			
① 生活利便性	◎居住機能の適切な誘導	■日常生活サービスの徒歩圏(※1)充足率	%	43	53	63	47	30	-	
		■居住を誘導する区域における人口密度	人/ha	64	79	62	48	44	-	
		■生活サービス施設(※2)の徒歩圏人口カバー率	医療 %	85	92	91	86	76	-	
		—各生活サービス施設の徒歩圏に居住する市民の比率	福祉 %	79	83	90	85	73	-	
			商業 %	75	83	82	75	65	-	
		■基幹的公共交通路線(※3)の徒歩圏人口カバー率	%	55	66	72	58	40	-	
		□公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合	%	48	52	56	50	46	46	
		◎都市機能の適正配置	■生活サービス施設の利用圏平均人口密度	医療 人/ha	39	56	37	24	20	-
			福祉 人/ha	38	56	35	22	19	-	
			商業 人/ha	42	60	43	29	24	-	
	◎公共交通の利用促進	■公共交通の機関分担率	%	14	24	14	7	8	6	
		□市民一人当たりの自動車総走行台キロ	台キロ/日	13.2	10.8	9.0	9.1	10.4	14.2	
		■公共交通沿線地域(※4)の人口密度	人/ha	35	54	31	19	16	-	

(出典：「都市構造の評価に関するハンドブック」)

## 5 公共交通による移動の利便性の整理

### (1) 最寄りの鉄道駅までのアクセス利便性

公共交通による利便性の評価を行うため、「アクセシビリティ指標<sup>※</sup>活用の手引き（案）」（平成 26 年（2014 年）6 月 国土技術政策総合研究所都市研究部）を参考に、各地域から徒歩、路線バス及びこまき巡回バスを利用し、最寄りの鉄道駅に到着するまでの時間を評価します。

※アクセシビリティ指標：自動車を利用しない人を含む多様な都市生活者にとって、都市の暮らしやすさを図る指標の一つとして、徒歩又は公共交通利用による都市生活の利便性を計量するもの。

#### 〈評価の方法〉

- ① 所要時間ごとの人口を算出するため、国勢調査における 500mメッシュ別人口をもとに、平成 25 年（2013 年）都市計画基礎調査における住宅地面積按分により、100mメッシュに人口を配分します。
- ② 徒歩の移動速度を一般的な歩行速度である分速 50m（10 分で 500m、20 分で 1 km）、バスの移動速度をこまき巡回バスの旅行速度<sup>※1</sup>より時速 16.3km（分速約 272m）と仮定し、最寄りの駅（名鉄小牧線の各駅、JR 春日井駅、JR 勝川駅、JR 高蔵寺駅及び名鉄岩倉駅）までの所要時間を計測します。

ただし、バスを乗り継がなければ鉄道を利用できない場合は、「アクセシビリティ指標活用の手引き（案）」における待ち時間の期待値の算出方法に基づき、乗り継ぎの待ち時間を算出し、移動時間に合算しました。

$$\text{待ち時間の期待値} = 60 \text{ 分} / 1 \text{ 時間あたりの運行本数}^{\text{※2}} / 2$$

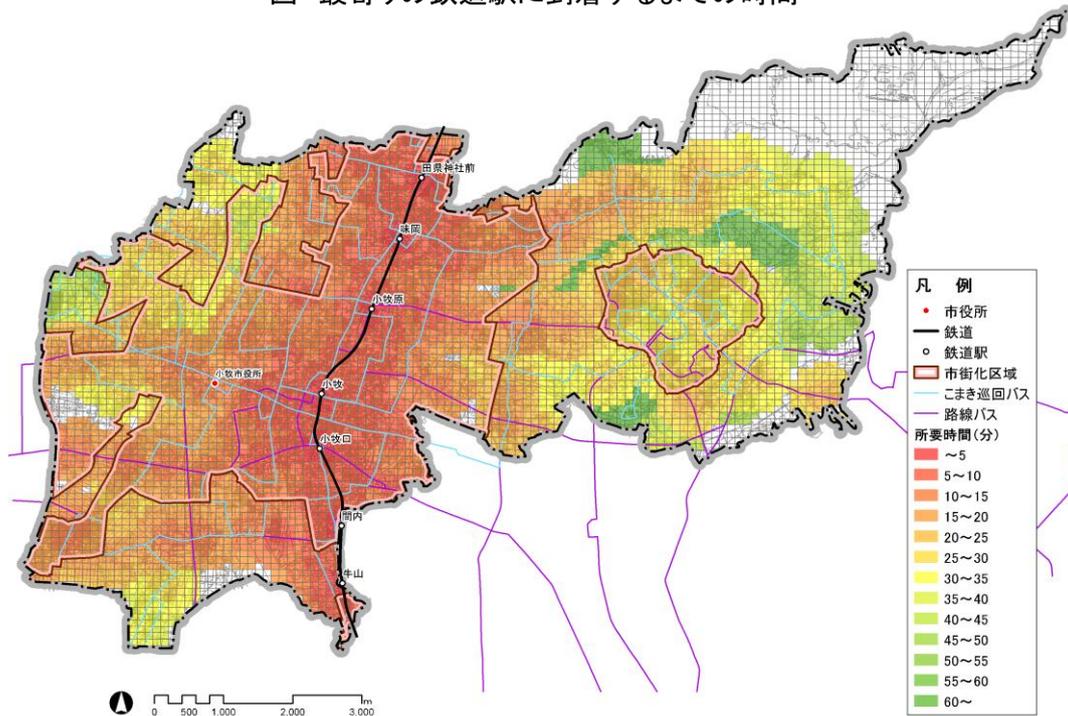
- ③ 所要時間ごとに人口及び高齢者人口を算出します。

※1 旅行速度：移動に要した時間（信号待ちや交通渋滞による停止を含む）を移動距離で除した値。

※2 1 時間当たりの運行本数：平日中間時間帯（10 時～16 時）の平均本数。

平成 22 年（2010 年）における最寄りの鉄道駅に到着するまでの時間別の人口割合をみると、約 15 分以内に到着できる人は人口の約 51%、15 分～30 分以内に到着できる人は人口の約 34%となっています。また、平成 22 年（2010 年）の最寄りの鉄道駅に到着するまでの時間別の高齢者人口割合も、総人口とほぼ同様の割合となっています。なお、令和 22 年（2040 年）の将来見通しをみると、割合に大きな変化はみられません。

図 最寄りの鉄道駅に到着するまでの時間



※平成 27 年（2015 年）4 月時点のバスルートをもとに評価を行った。

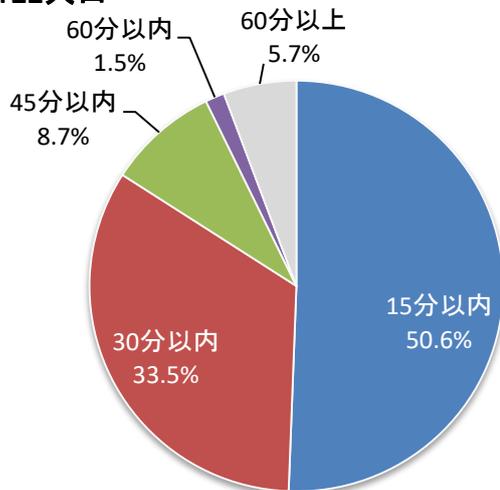
表 最寄りの鉄道駅に到着するまでの時間別の人口

(単位：人)

	H22人口	H52人口	増減数	増減割合
15分以内	78,856	68,330	-10,526	-13%
30分以内	52,248	44,765	-7,483	-14%
45分以内	13,589	11,812	-1,777	-13%
60分以内	2,340	1,909	-431	-18%
60分以上	8,917	7,032	-1,885	-21%
計	155,950	133,848	-22,102	-14%

※500mメッシュ人口をもとに作成した 100mメッシュ別の人口より人口を算出しているため、公表されている人口とは一致しない

H22人口



H52人口

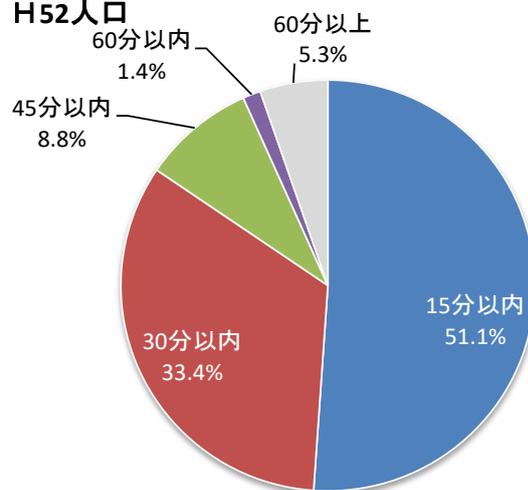


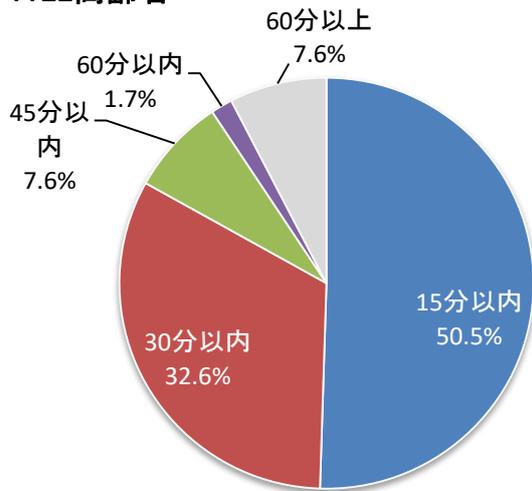
表 最寄りの鉄道駅に到着するまでの時間別の高齢者人口

(単位：人)

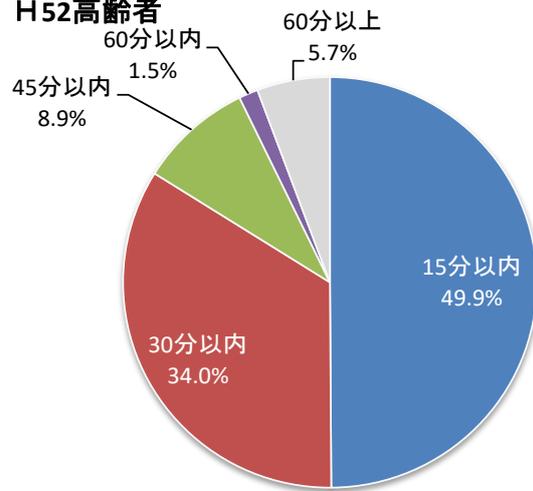
	H22高齢者	H52高齢者	増減数	増減割合
15分以内	14,850	22,297	7,447	50%
30分以内	9,602	15,180	5,578	58%
45分以内	2,236	3,997	1,761	79%
60分以内	494	673	179	36%
60分以上	2,251	2,528	277	12%
計	29,433	44,675	15,242	52%

※500mメッシュ人口をもとに作成した100mメッシュ別の人口より人口を算出しているため、公表されている人口とは一致しない

H22高齢者



H52高齢者



## (2)名古屋駅までのアクセス利便性

公共交通による名古屋駅への利便性の評価を行うため、鉄道またはバスにより、名古屋駅まで行くことができる交通手段とその利便性を整理します。

鉄道は、市内を運行するバスにより利用が可能な名鉄小牧線、名鉄犬山線、JR 中央線を対象とします。名鉄小牧線は、最もバスの乗り入れが多い小牧駅からのアクセス利便性を整理し、同様に、名鉄犬山線は岩倉駅、JR 中央線は春日井駅に着目して整理します。

バスは、市内のバス停から直接名古屋駅へ行くことができる近距離高速バスの名古屋・桃花台線と桃花台バス停（中央道）発着路線<sup>\*</sup>を対象とし、名古屋・桃花台線は、小牧駅からのアクセス利便性、桃花台バス停（中央道）発着路線は、桃花台バス停からのアクセス利便性を整理します。

出発駅から名古屋駅までの所要時間が最も短いのは、名鉄犬山線、次いで、JR 中央線となっていますが、それぞれ市外の駅が発地であるため、駅までの所要時間がかかります。仮に、小牧駅から岩倉駅までバスで移動した場合の所要時間は約 20 分、運賃は 350 円となっています。また、小牧駅から春日井駅までバスで移動した場合の所要時間は約 30 分、運賃は 460 円となっています。小牧市内の移動を含むと、名鉄犬山線では、所要時間は約 35 分で運賃は 700 円、JR 中央線では、所要時間は約 55 分で運賃は 780 円となり、他の交通手段より、所要時間が長く、運賃も高くなる場合も考えられます。

小牧駅及び桃花台バス停から名古屋駅までの所要時間は、約 40 分となっており、名古屋・桃花台線や桃花台バス停（中央道）発着路線では、乗り換えなしで名古屋駅に到着することができます。一方、名鉄小牧線では 2 回の乗り換えが必要ですが、名古屋・桃花台線や桃花台バス停（中央道）発着路線と比較して、運賃は安くなっています。

<sup>\*</sup>全系統（名古屋・多治見線（深夜バス（名鉄バスセンター発桂ヶ丘 1 丁目行き 1 本）を含む）、西可児線、可児市役所線）をまとめて記載。

表 名古屋駅までのアクセス利便性

	路線名 (着目駅・バス停)	乗り換え回数 (乗り換え先)	所要時間	運賃
鉄道	名鉄小牧線（小牧駅）	2 回 (名古屋地下鉄上飯田線・名城線⇒東山線)	約 40 分 <sup>*</sup>	570 円
	名鉄犬山線（岩倉駅）	なし	約 15 分	350 円
	JR 中央線（春日井駅）	なし	約 24 分	320 円
バス	名古屋・桃花台線（小牧駅）	なし	約 40 分	630 円
	桃花台バス停（中央道） 発着路線（桃花台バス停）	なし	約 40 分	770 円

<sup>\*</sup>乗り換え時間含む。

<sup>\*</sup>平成 28 年（2016 年）4 月 1 日現在

## 6 市民の交通行動の状況

本市では、夜間人口<sup>※1</sup>が約14万人、昼間人口<sup>※2</sup>は約16.5万人と昼間人口が上回っています。昼間人口比率<sup>※3</sup>を周辺市町と比較してみると、大口町、豊山町に次ぐ高い比率になっています。

また、今後の人口減少に伴い、令和17年(2035年)には、昼間人口が約14.7万人、夜間人口が約12.6万人まで減少する見通しとなっています。

図 昼間人口及び夜間人口の都市間比較(H23)

(単位：人)

	夜間人口	昼間人口	昼間人口比率
小牧市	139,658	165,196	118
春日井市	289,600	255,037	88
岩倉市	44,784	34,901	78
犬山市	71,776	66,466	93
豊山町	13,524	18,261	135
大口町	21,234	32,704	154

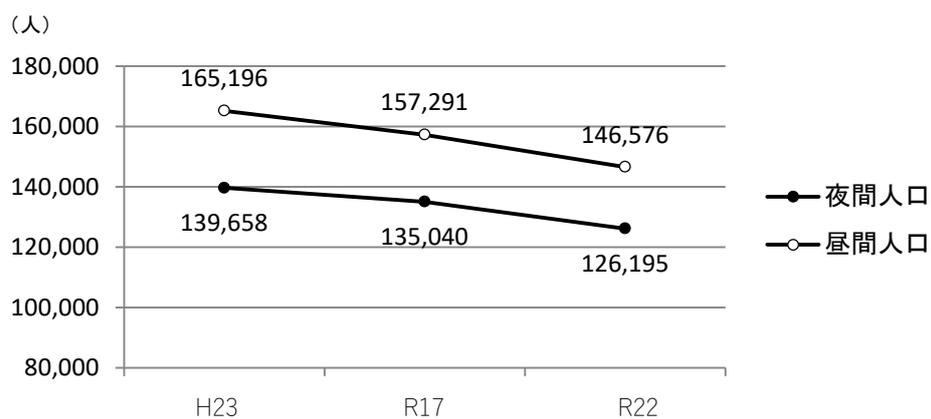
※1 夜間人口：夜間に常住する人口（第5回中京都市圏パーソントリップ調査では5歳以上の人口が対象）

※2 昼間人口：H23 ロー（就業人口＋従業人口）－（就学人口＋通学人口）

※3 昼間人口比率：夜間人口に対する昼間人口の割合

(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 昼間人口及び夜間人口の見通し



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

本市の外出率<sup>\*</sup>は83%となっており、外出人口は約11.6万人となっています。

また、外出率を年齢階層別にみると、5歳～14歳で最も高く約98%となっており、15～39歳、40～64歳でも80%以上となっていますが、65歳以上では約63%と他の年代と比較して低くなっています。なお、夜間人口と外出人口の年齢階層別構成比からも、65歳以上が夜間人口の構成比より外出人口の構成比が低くなっているため、相対的に高齢者の外出人口が少ない状況がみられます。

次に、外出率を職業別にみると、就業者、生徒・児童・園児、学生・生徒で90%以上となっていますが、専業主婦・主夫、無職・その他では、約60%程度と他の職業と比較して低い値となっています。なお、夜間人口と外出人口の職業別構成比からも、専業主婦・主夫、無職・その他が夜間人口の構成比より外出人口の構成比が低くなっているため、相対的に外出人口が少ない状況がみられます。

また、外出率と外出人口を周辺市町と比較すると、同程度となっており、職業別（就業者、就学者、主婦・無職）でも、あまり大きな変化はみられません。

※外出率：パーソントリップ調査の調査日に一度でも外出した人を対象人口で除した値。

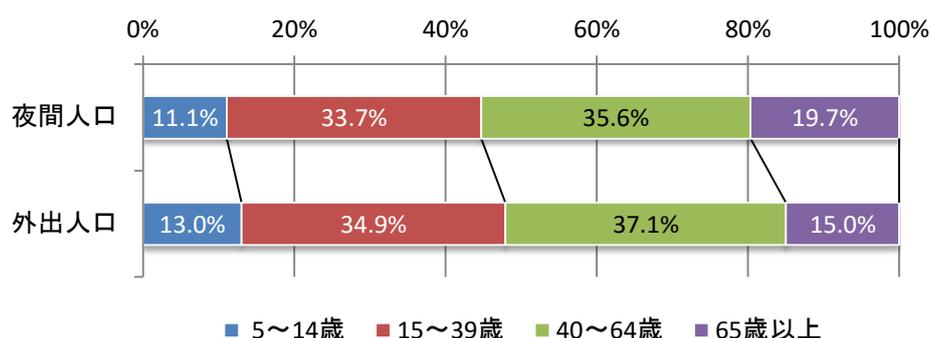
表 年齢階層別外出率

(単位:人)

	5～14歳	15～39歳	40～64歳	65歳以上	前年齢計
夜間人口	15,478	46,999	49,687	27,494	139,658
外出人口	15,156	40,557	43,131	17,413	116,257
外出率	98%	86%	87%	63%	83%

(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 年齢階層別夜間人口・外出人口の構成比



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

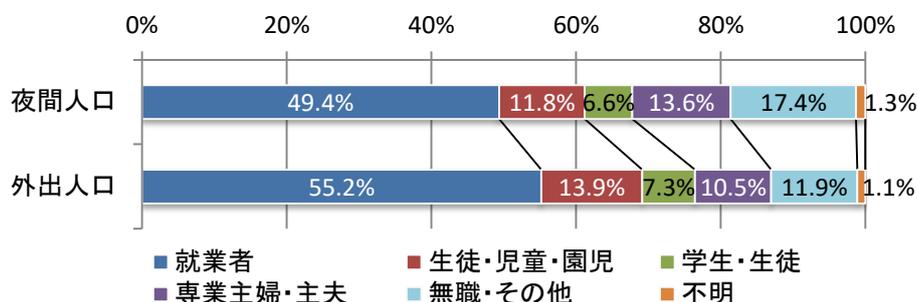
表 職業別外出率

(単位:人)

	就業者	生徒・児童・園児	学生・生徒	専業主婦・主夫	無職・その他	不明	職業計
夜間人口	68,922	16,536	9,169	18,978	24,248	1,805	139,658
外出人口	64,154	16,214	8,500	12,246	13,821	1,322	116,257
外出率	93%	98%	93%	65%	57%	73%	83%

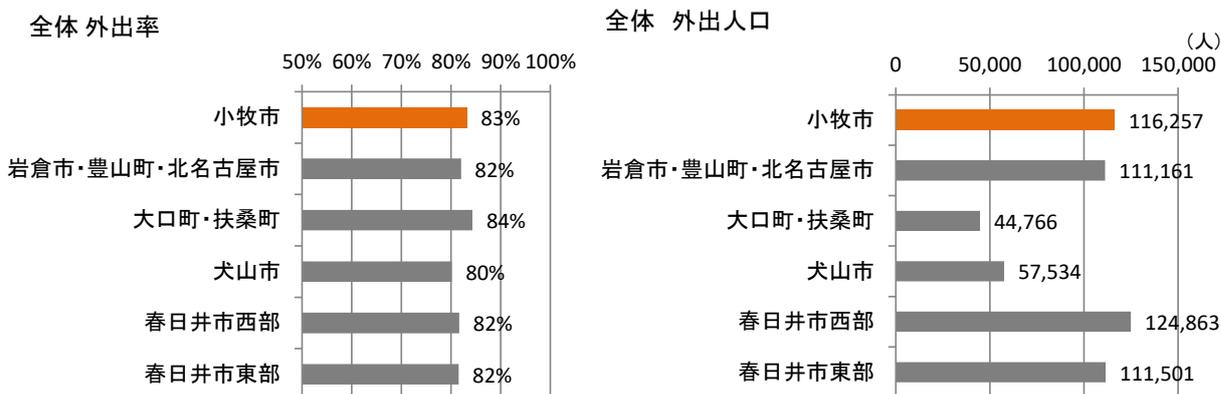
(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 職業別夜間人口・外出人口の構成比



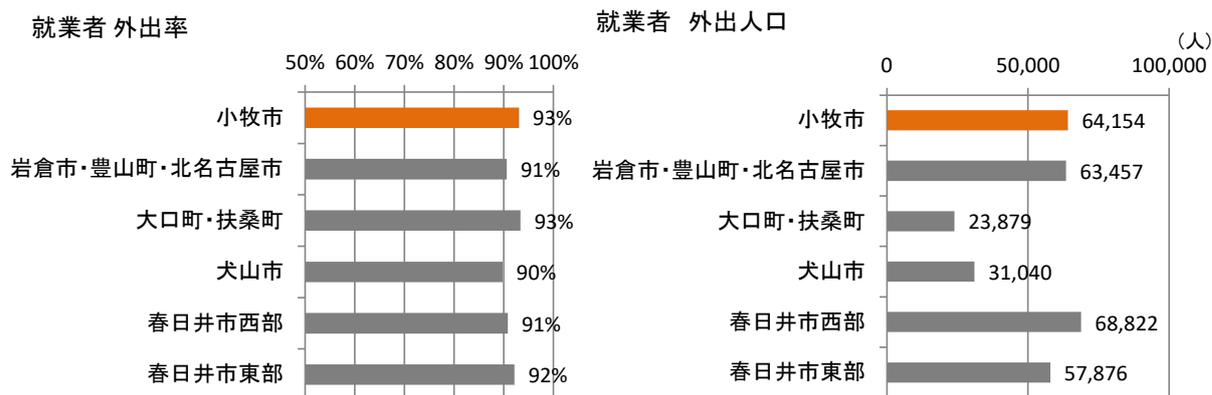
(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 全体の外出率及び外出人口



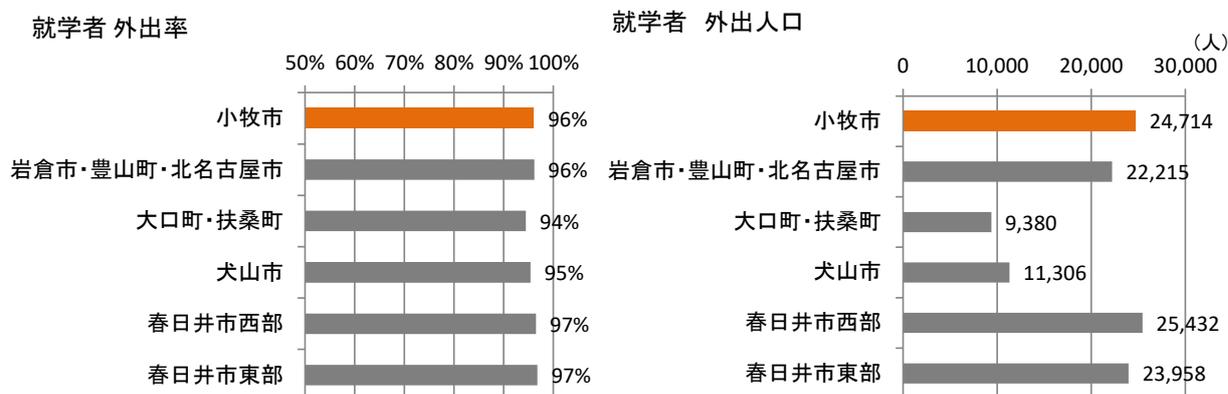
(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 就業者の外出率及び外出人口



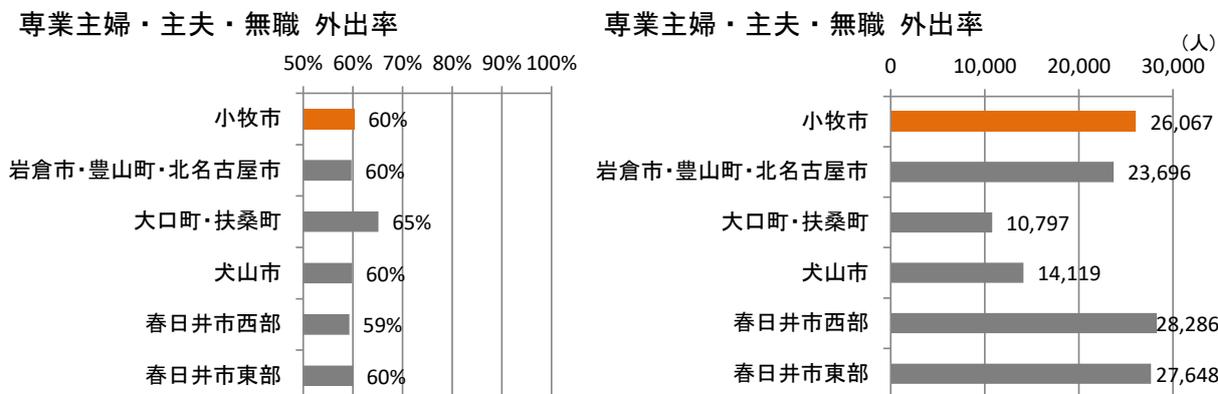
(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 就学者の外出率及び外出人口



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 専業主婦・主夫・無職の外出率及び外出人口

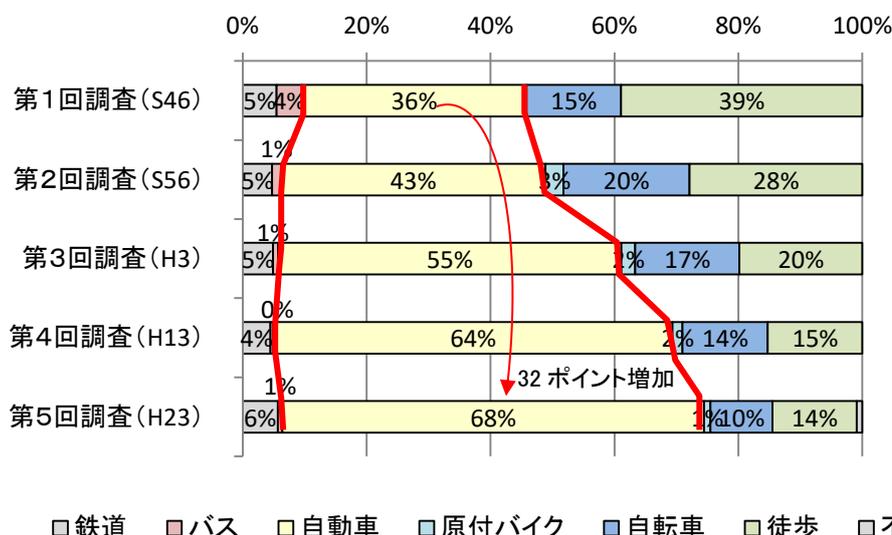


(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

外出するときの移動手段（代表交通手段）の利用割合の推移をみると、昭和46年（1971年）以降、「自動車」の占める割合は増加を続けていますが、「自転車」、「徒歩」の割合は減少してきています。

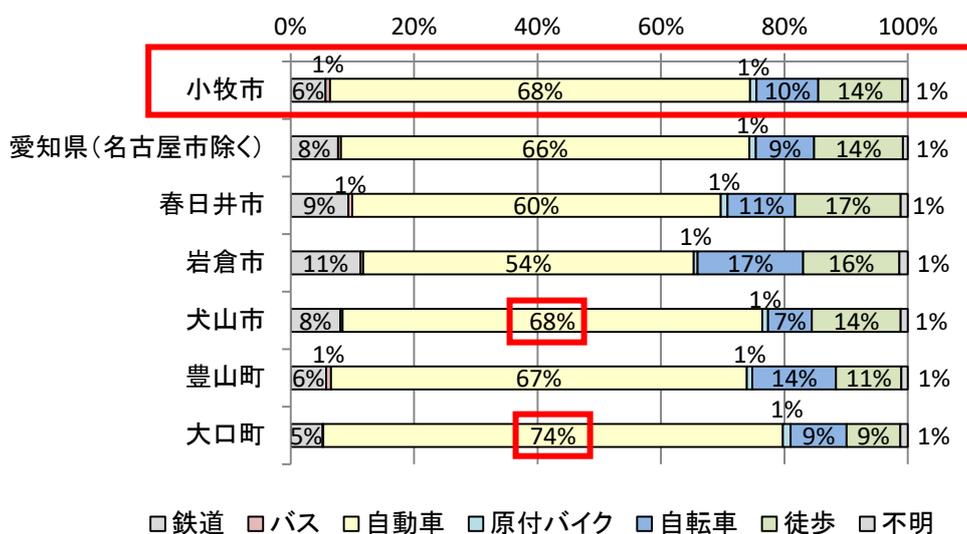
また、自動車の占める割合を周辺市町と比較すると、大口町に次いで高い値となっています。

図 代表交通手段別利用率の推移



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 代表交通手段別利用率の周辺市町との比較

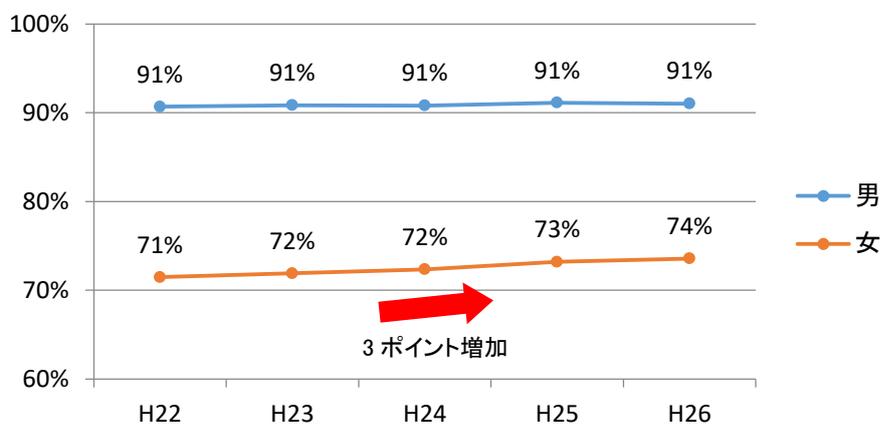


(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

免許保有者数及び免許保有率は、男性が横ばいであるのに対し、女性は増加傾向にあります。

自動車保有台数も増加傾向にあり、平成 27 年（2015 年）時点で約 8.2 万台となっています。

図 免許保有率の推移



		H22	H23	H24	H25	H26	H26-22 増減数
18歳以上人口	男	63,629	63,512	63,740	63,803	64,023	394
	女	62,211	62,395	62,425	62,426	62,602	391
免許保有者	男	57,697	57,692	57,881	58,136	58,275	578
	女	44,467	44,861	45,171	45,696	46,056	1,589
免許保有率	男	91%	91%	91%	91%	91%	-
	女	71%	72%	72%	73%	74%	-

※各年 12 月 31 日時点

(出典：小牧市統計年鑑、住民基本台帳)

図 自動車保有台数の推移



※各年 3 月 31 日時点

(出典：小牧市統計年鑑)

本市を出発地とする人の外出目的と外出先の関係（ここでは、“本市に住んでいる人が自宅から出かけるときにどのような動きをしているか”に主眼をおいているため、「出勤」、「登校」、「自由」の3カテゴリを抽出しています。）をみると、「出勤」の目的では、愛知県内(本市以外)と市内が同程度ですが、「登校」や「自由（買い物、食事、通院、レクリエーション等の生活関連）」目的では、市内の動きが多くみられます。

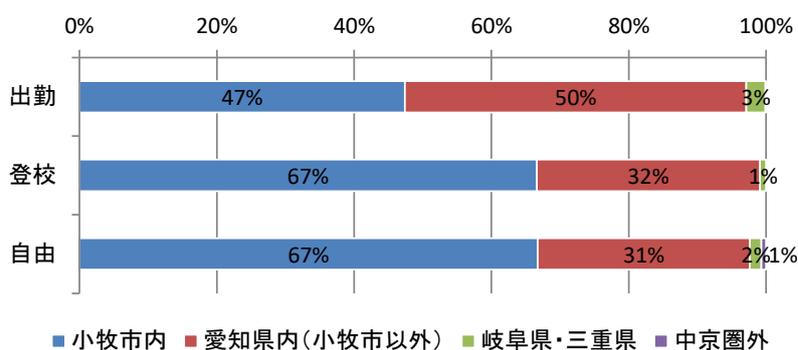
次に、本市を出発地とする人の目的別の移動手段（代表交通手段）をみると、市内の移動では、「出勤」及び「自由」目的では自動車利用が多く、「登校」目的では、徒歩が多くなっています。市外への移動では、「出勤」及び「自由」目的では依然自動車利用が多いものの、市内の移動と比較して鉄道利用が多くなっています。「通学」目的では、鉄道が最も多く、市内の移動と比較して自動車、自転車の利用も多くなっています。

目的別の移動をみると、「出勤」目的では、市内では東西方向の移動が、市外では春日井市、大口町への移動が500トリップ以上と多くなっています。また、「登校」目的では、市内の移動が300トリップ以上と多くなっています。「自由」目的では、市内東西方向の移動及び春日井市、岩倉市、大口町、豊山町への移動が300トリップ以上と多くなっています。

地区別にみると、市域東部では全ての目的で、春日井市との結びつきが強く、市域西部では、登校や自由目的で岩倉市との結びつきが強くなっています。また、市域北部では全ての目的で、大口町との結びつきが強くなっています。

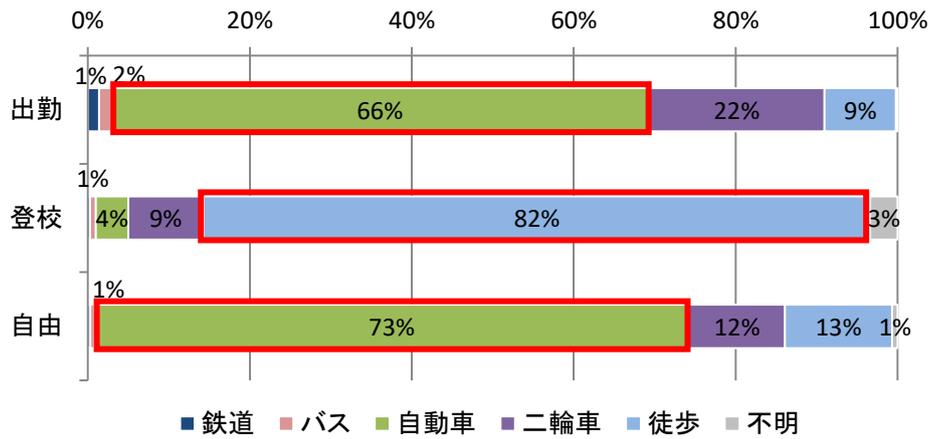
小牧市内移動の場合の、出発してから到着するまでの平均所要時間を目的別、移動手段（代表交通手段）別にみると、鉄道を利用する場合、「通勤」、「登校」目的では、50分以上となっており、「登校」目的では、バスが同様に50分以上となっています。自動車、自転車、徒歩ではいずれも10分～20分程度となっています。

図 小牧市発トリップの目的別着地先



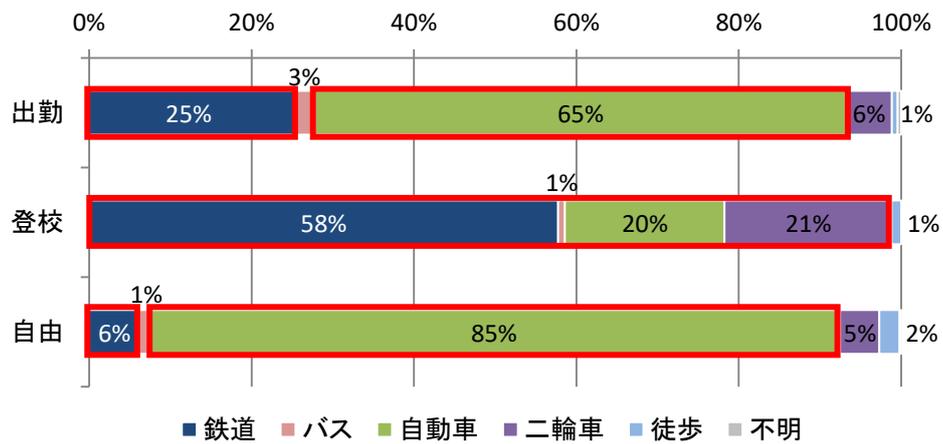
(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 小牧市発、小牧市着トリップの目的別交通手段



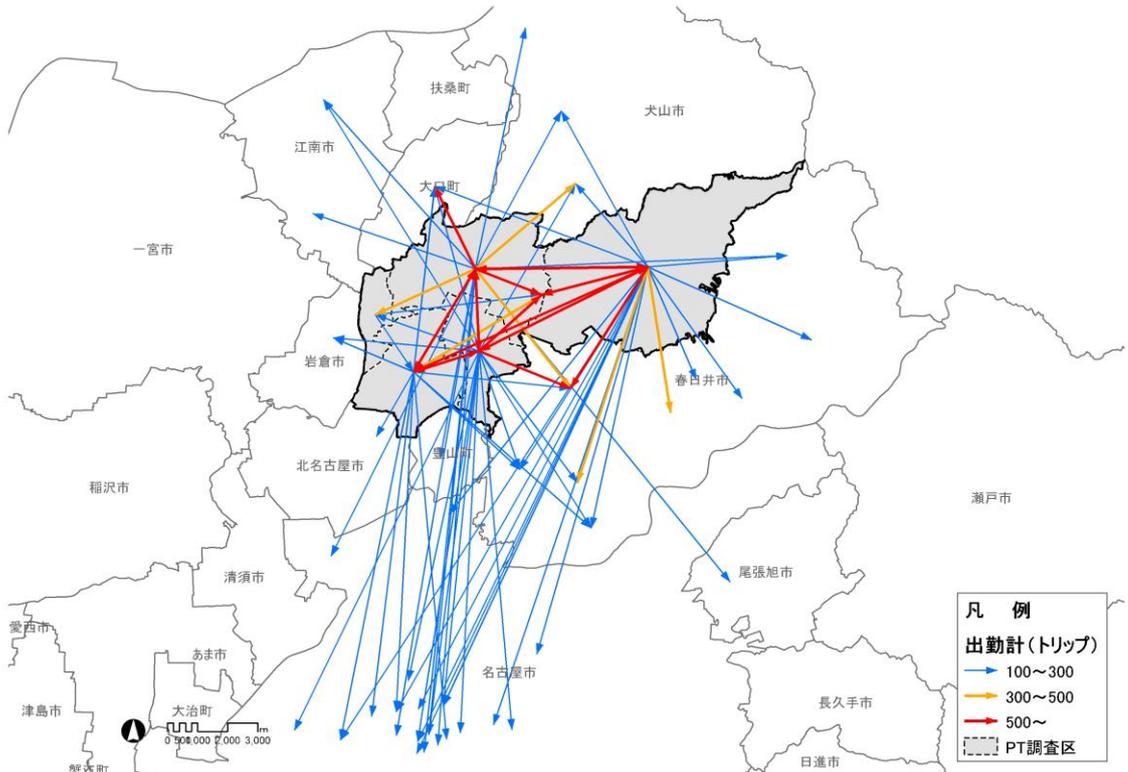
(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

図 小牧市発、小牧市外着トリップの目的別交通手段



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

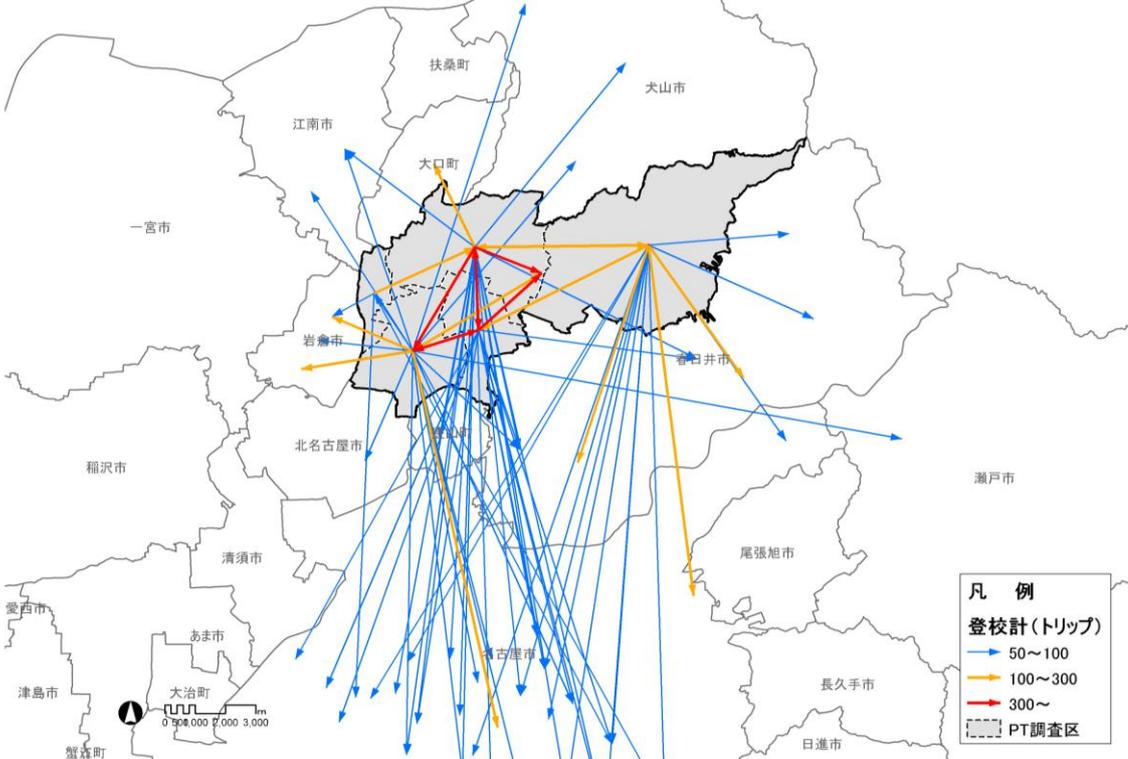
図 出勤目的の移動の行き先



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

※100トリップ未満は非表示、近隣市町との移動。

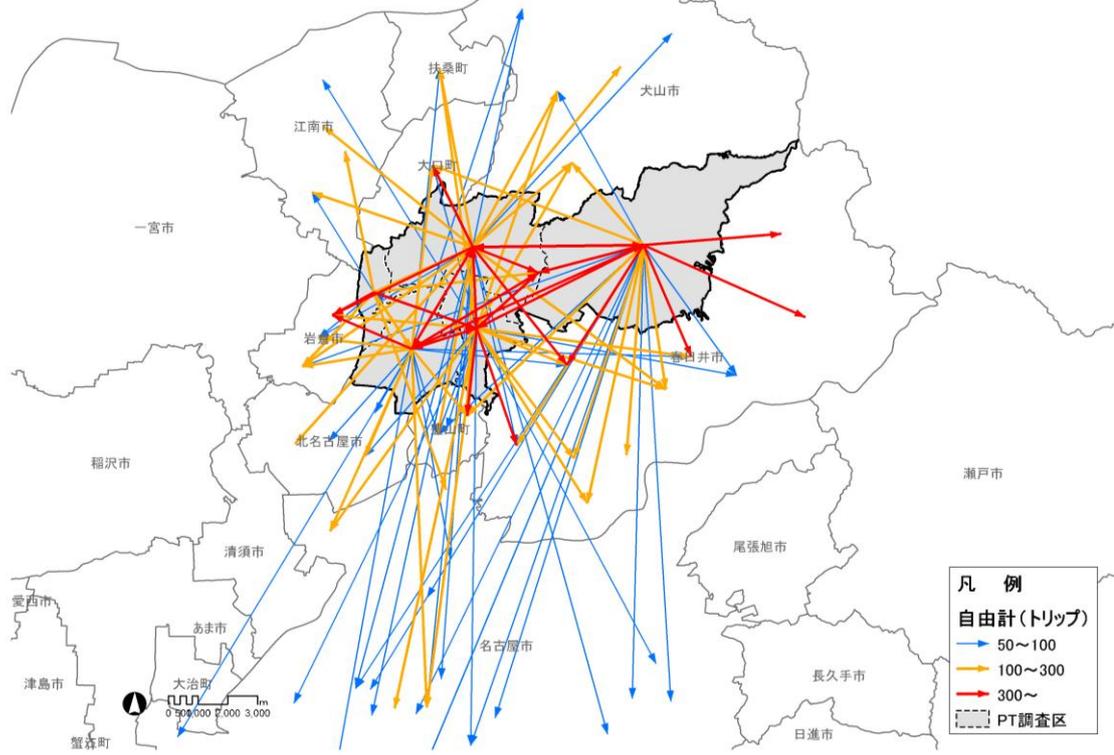
図 登校目的の移動の行き先



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

※50トリップ未満は非表示、近隣市町との移動。

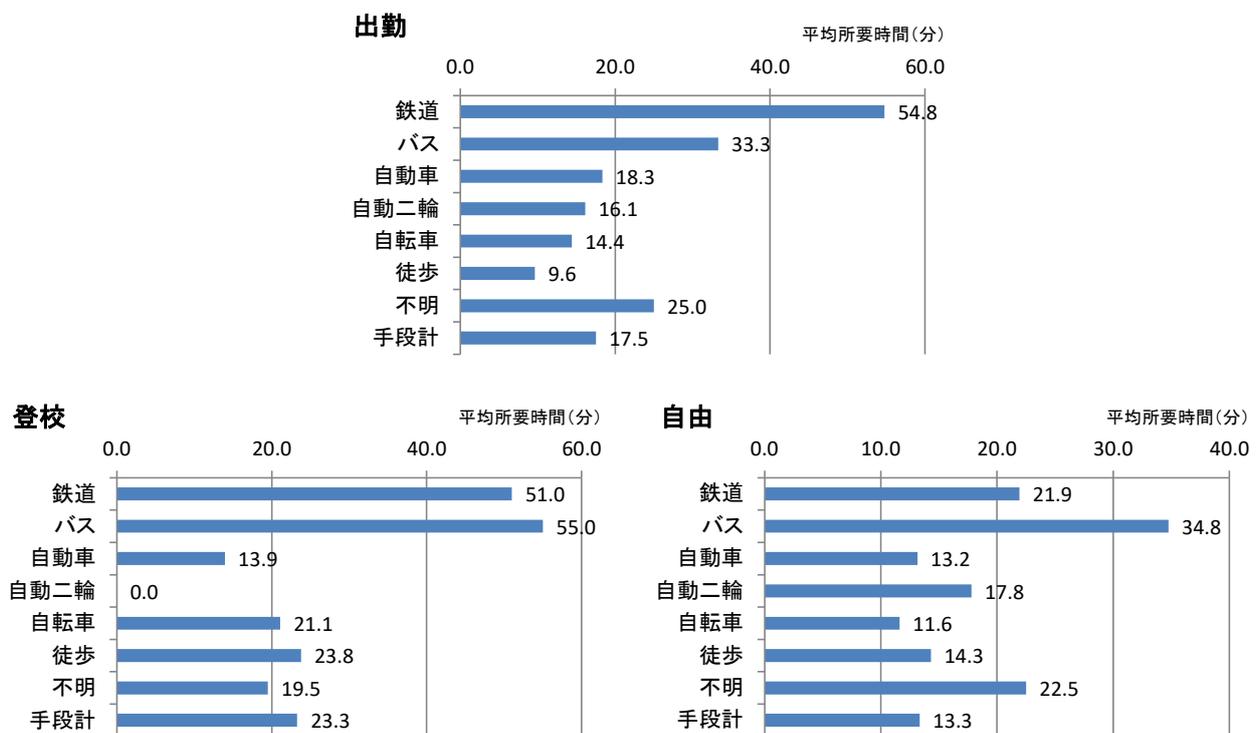
図 自由目的の移動の行き先



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

※50 トリップ未満は非表示、近隣市町との移動。

図 目的別代表交通手段別小牧市内々トリップの平均所要時間



(出典：第5回中京都市圏パーソントリップ調査)

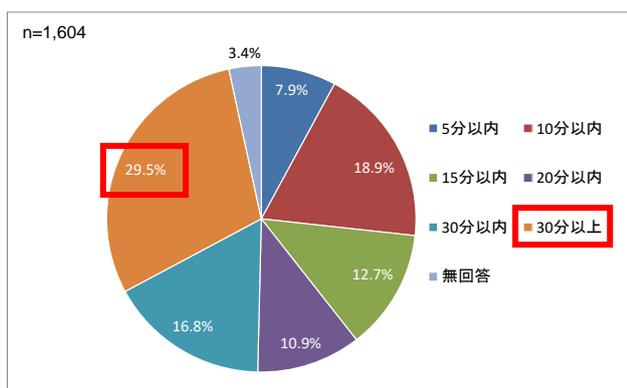
## 7 公共交通に関する市民意識

公共交通に関する市民意識を把握するため、「小牧市のまちづくりに関する市民アンケート調査（平成27年（2015年）9月実施）」をもとに以下のとおり整理しました。

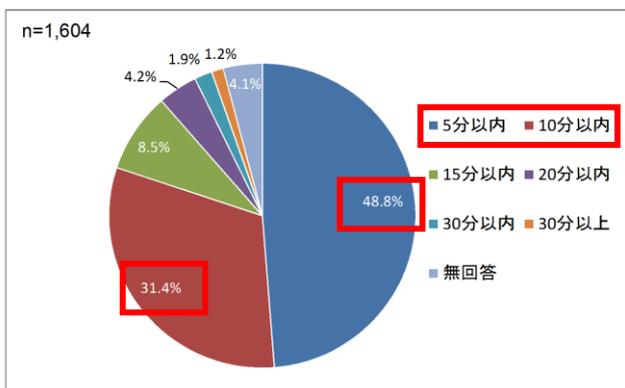
### ● 自宅から最寄りの駅やバス停までの徒歩による所要時間

- ・ 自宅から最寄りの駅までの徒歩による所要時間は、約30%の方が「30分以上」と回答しています。また、自宅から最寄りのバス停までの徒歩による所要時間は、約80%の方が「10分以内」と回答しています。

最寄りの駅までの徒歩による所要時間

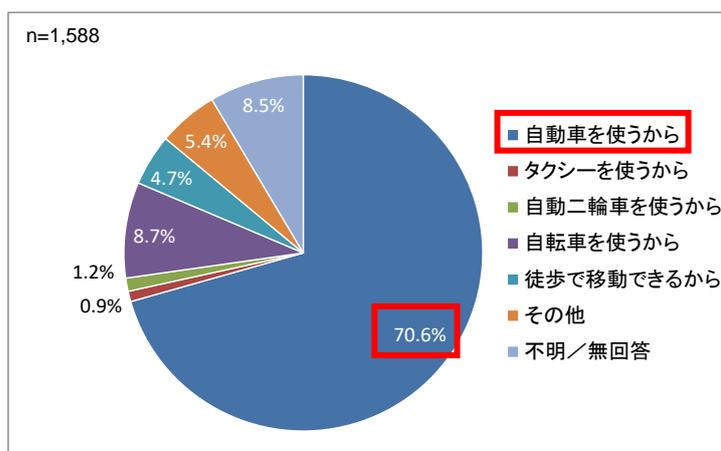


最寄りのバス停までの徒歩による所要時間



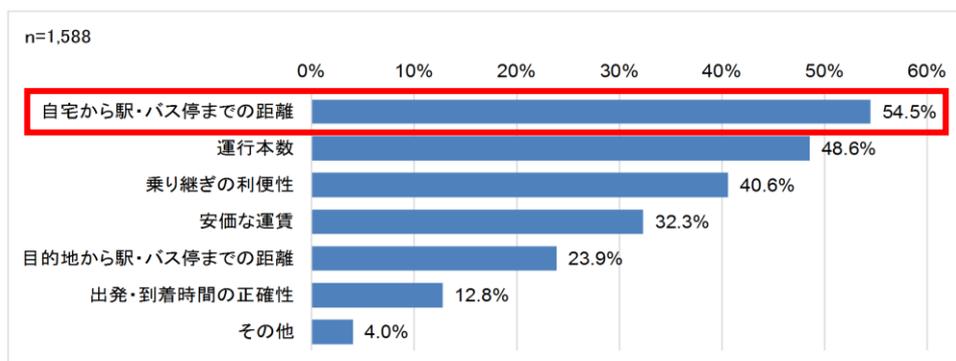
### ● 公共交通（鉄道、バス）を利用しない理由

- ・ 公共交通（鉄道、バス）を利用しない理由として、約71%の方が「自動車を使うから」と回答しています。



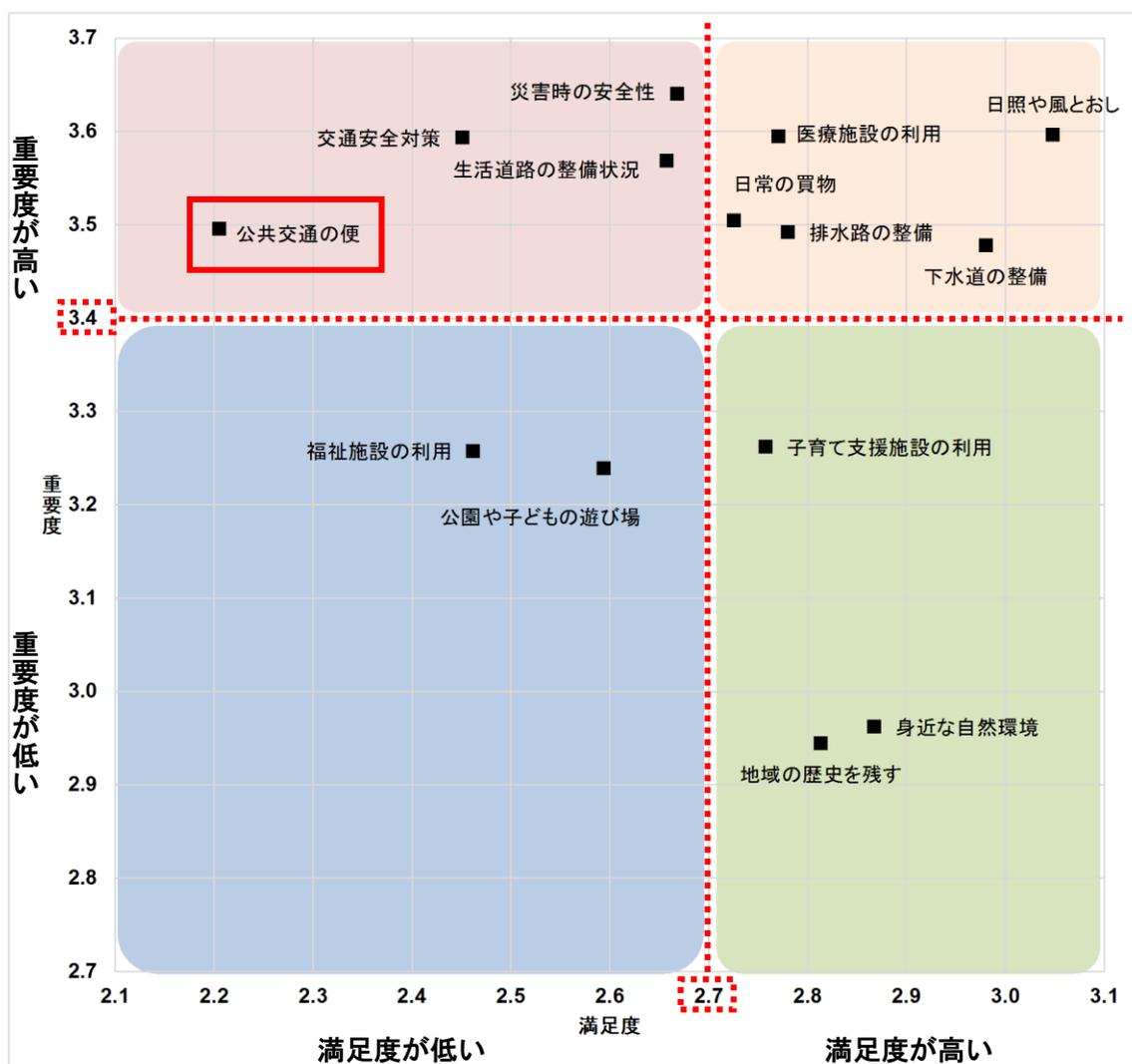
●公共交通（鉄道、バス）の利用において求めること

- ・公共交通（鉄道、バス）の利用において、約 55%の方が「自宅から駅・バス停までの距離」を近くすることと回答しています。



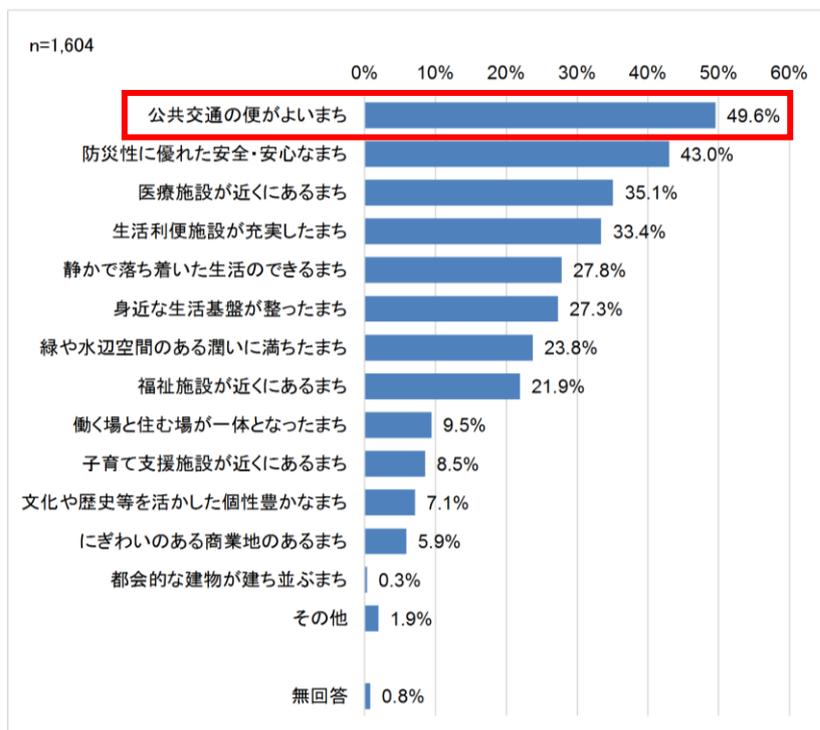
●居住している地区の環境や日常生活に関する満足度・重要度

- ・「公共交通の便」に関する居住している地区の環境や日常生活に関する満足度・重要度は、満足度が低く重要度が高くなっています。



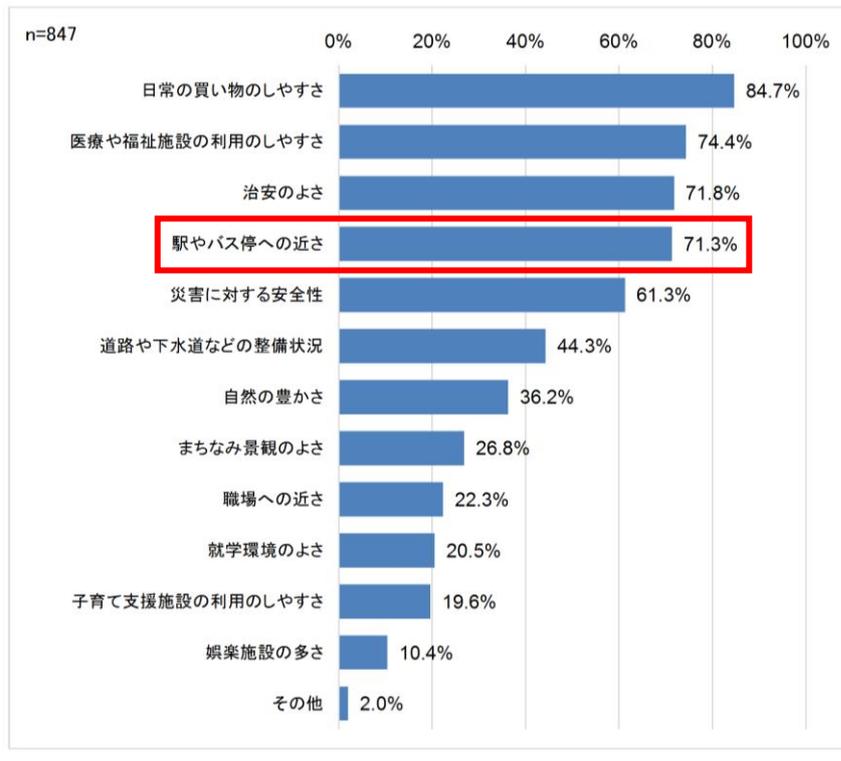
## ●居住している地区の概ね 10 年～20 年後の将来像

- ・居住している地区の概ね 10 年～20 年後の将来像に約 50%の方が「鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまち」と回答しています。



## ●重要と考えられる居住の条件

- ・居住の条件として約 71%の方が「駅やバス停への近さ」と回答しています。



## 2-4 経済活動

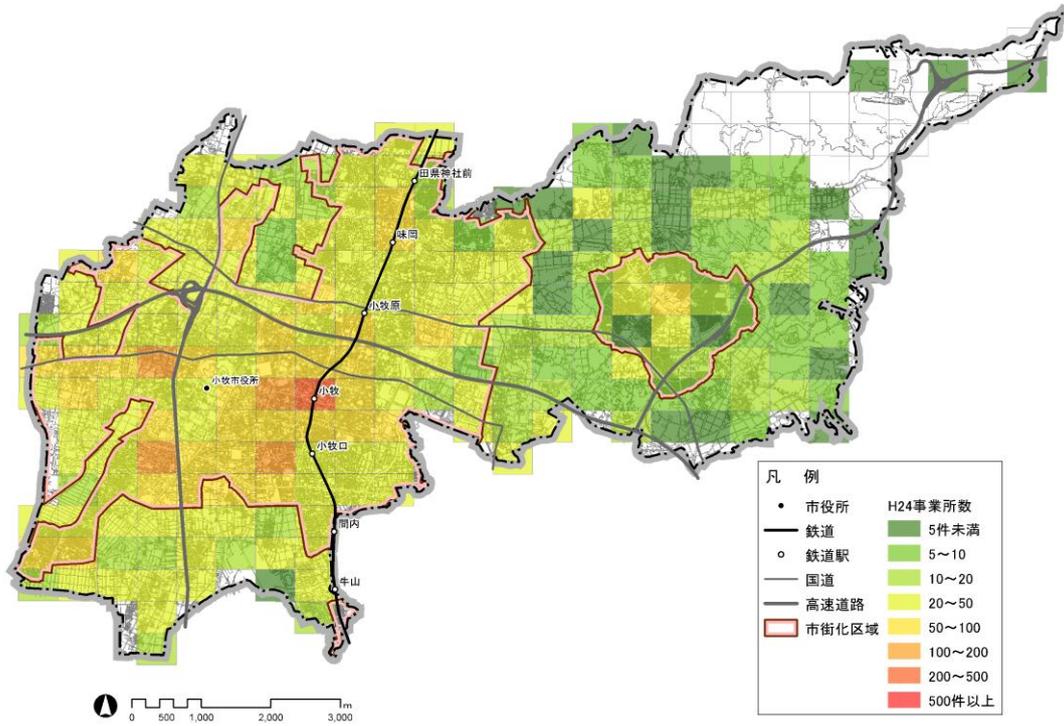
事業所<sup>※</sup>は、市内各所に立地し、特に小牧駅周辺で立地が多く見られます。また、事業所数は、平成13年（2001年）から平成24年（2012年）にかけて、市街化区域の大半で事業所数の減少が見られます。

また、従業者数は、小牧駅周辺や工業系用途地域内などに集積が多く見られますが、平成13年（2001年）から平成24年（2012年）にかけては、事業所数と同様に市街化区域の大半で減少が見られます。

※事業所： 経済活動が行われている場所ごとの単位で、原則として次の要件を備えているものをいいます。

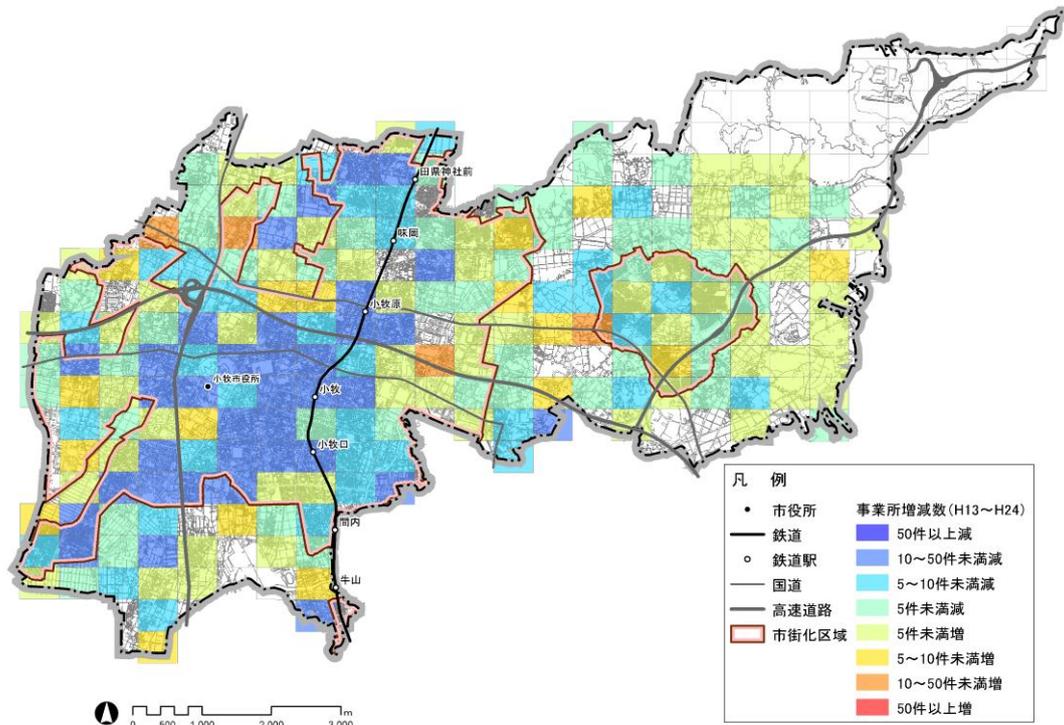
1. 一定の場所（1区画）を占めて、単一の経営主体のもとで経済活動が行われていること。
2. 従業者と設備を有して、物の生産や販売、サービスの提供が継続的に行われていること。

図 事業所数の分布(H24)



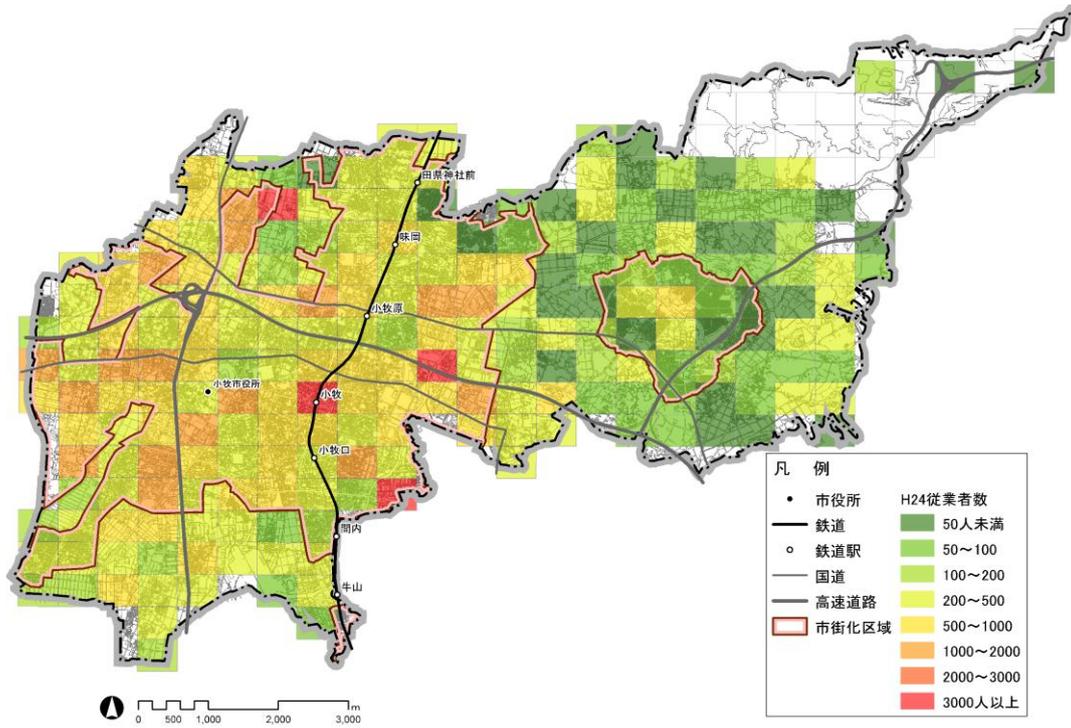
(出典：平成 24 年 (2012 年) 経済センサス)

図 事業所数の増減(H13～H24)



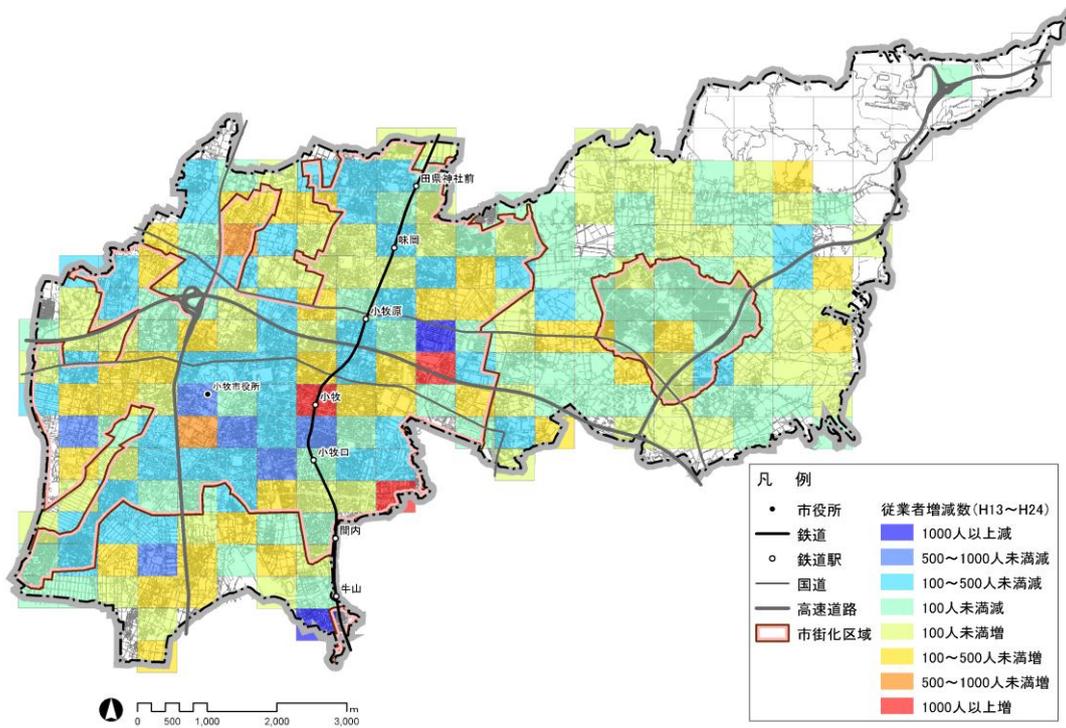
(出典：経済センサス、企業・事業所統計)

図 従業者数の分布(H24)



(出典：平成 24 年 (2012 年) 経済センサス)

図 従業者数の増減(H13～H24)

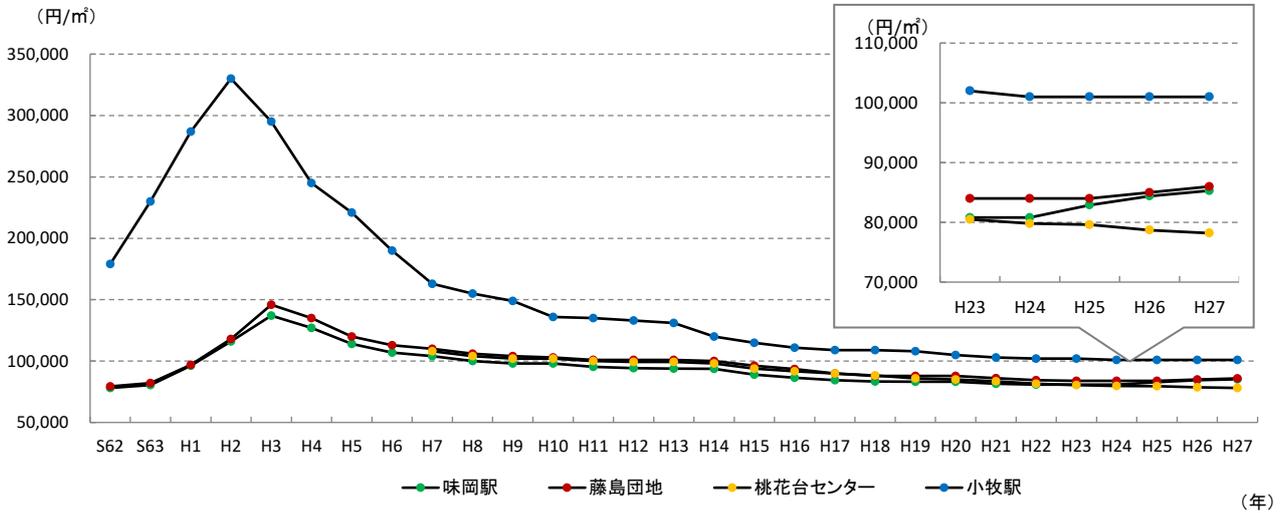


(出典：経済センサス、企業・事業所統計)

## 2-5 地価

本市の公示地価<sup>\*</sup>は平成3年（1991年）以降、下落傾向が続いていましたが、近年、味岡駅周辺、藤島団地周辺では、上昇傾向にあります。

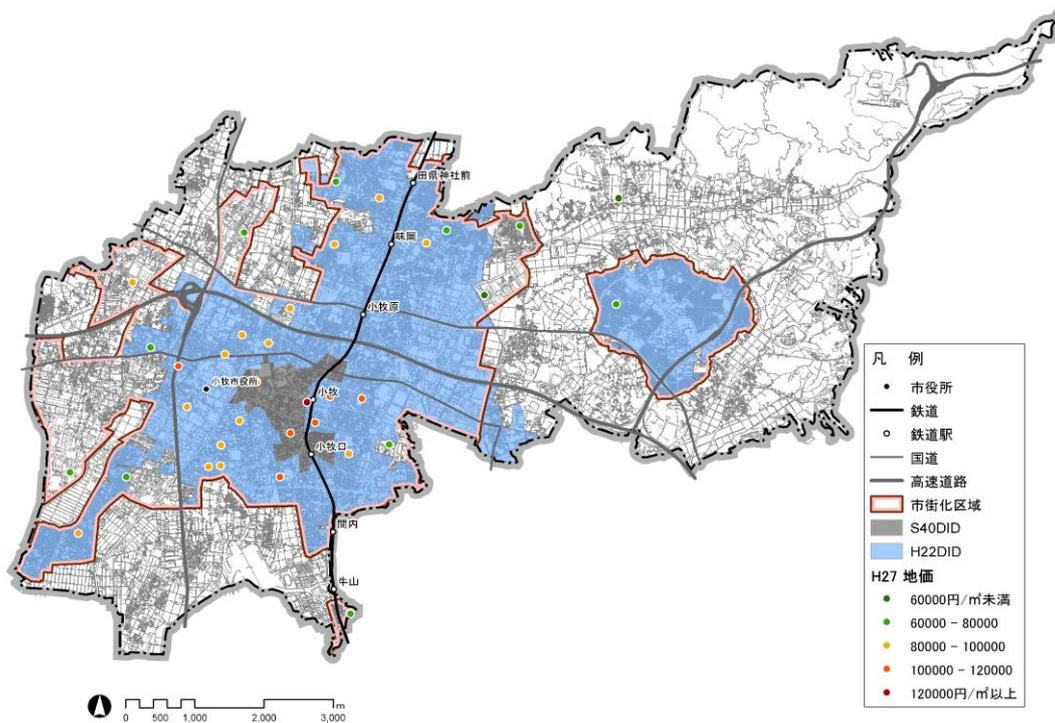
図 地域別の地価推移



(出典：地価公示)

※ 公示地価：地価公示法の規定に基づき、国土交通省が毎年1回公示する標準地の価格。(本計画では、長期的に地価の推移を追える地点を抜粋。小牧駅は商業地、その他の地域は住宅地となっている。)

図 地域別の地価公示



(出典：平成27年（2015年）地価公示、国土数値情報)

## 2-6 災害

### 1 災害ハザードの状況

#### (1)本市に存在する災害ハザードの種類

本市は、北東部が丘陵地となっていることなどから、山腹崩壊などの危険がある「山地災害ハザード」、がけ崩れなどの危険がある「土砂災害ハザード」、洪水や浸水などの危険がある「水害ハザード」、「地震災害ハザード」の4種類のハザードがあります。

本市に存在する災害ハザードは以下の通りです。

- ・ 山地災害ハザード：山腹崩壊危険地区<sup>※1</sup>、崩壊土砂流出危険地区<sup>※2</sup>
- ・ 土砂災害ハザード：土石流危険溪流<sup>※3</sup>、急傾斜地崩壊危険箇所<sup>※4</sup>  
土砂災害警戒区域<sup>※5</sup>、土砂災害特別警戒区域<sup>※6</sup>
- ・ 水害ハザード：浸水想定区域<sup>※7</sup>
- ・ 地震災害ハザード

※1 山腹崩壊危険地区：山腹崩壊により公共施設・人家等に直接被害を与えるおそれがある地区。

※2 崩壊土砂流危険地区：山腹崩壊または地すべりによって発生した土砂等が土石流（山や谷の土・砂・石などが、梅雨の長雨や台風の大雨による水と一緒に流れてくるもの。）になって流出し、災害が発生するおそれがある地区。

※3 土石流危険溪流：土石流発生の危険性があり、人家が1戸以上もしくは、公共建築物等に被害の生じる恐れのある溪流。

※4 急傾斜地崩壊危険箇所：水平面となる角度が30度以上、斜面の高さが5m以上、斜面上部または下部に人家があること（官公署、学校、病院、旅館等がある場合も対象とする。）の要件を満たす崖。

※5 土砂災害警戒区域：土砂災害のおそれがある区域。

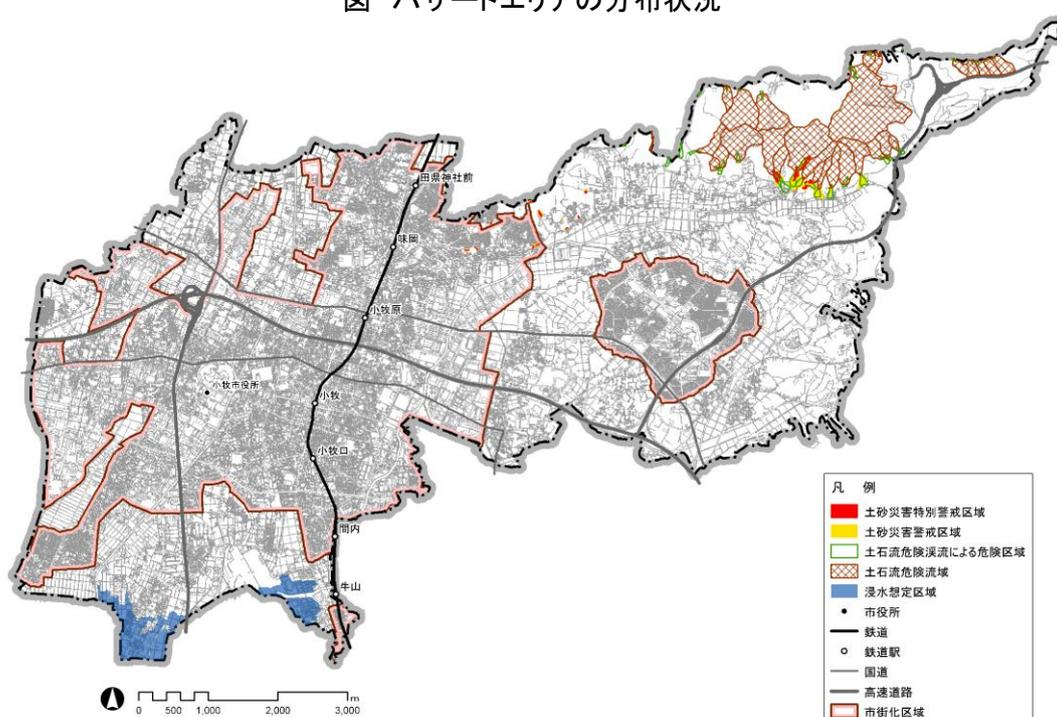
※6 土砂災害特別警戒区域：土砂災害警戒区域のうち建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域。

※7 浸水想定区域：洪水予報を行う河川、もしくは水位周知を行う河川に指定された河川について、その河川がはん濫した場合に浸水が想定される区域。

## (2)ハザードエリアの分布と災害リスク

土砂災害ハザードは、丘陵地が広がる市域北東部に集中して分布が見られるほか、市街化区域内にも分布が見られます。また、水害ハザードは、市域南部に分布が見られます。

図 ハザードエリアの分布状況



(出典：マップあいち（土砂災害情報マップ）、国土数値情報）

## 2 災害履歴と災害対策

### (1)災害履歴

本市では、平成12年（2000年）に発生した東海豪雨<sup>※1</sup>により、市内各所で浸水被害が出ています。なお、地震による被害については、明治24年（1891年）に発生した濃尾地震<sup>※2</sup>がありますが、それ以降に大きな被害が出た事例はありません。

また、本市の特徴として、活断層<sup>※3</sup>の分布が見られないことや、津波による被害もないことがあげられます。

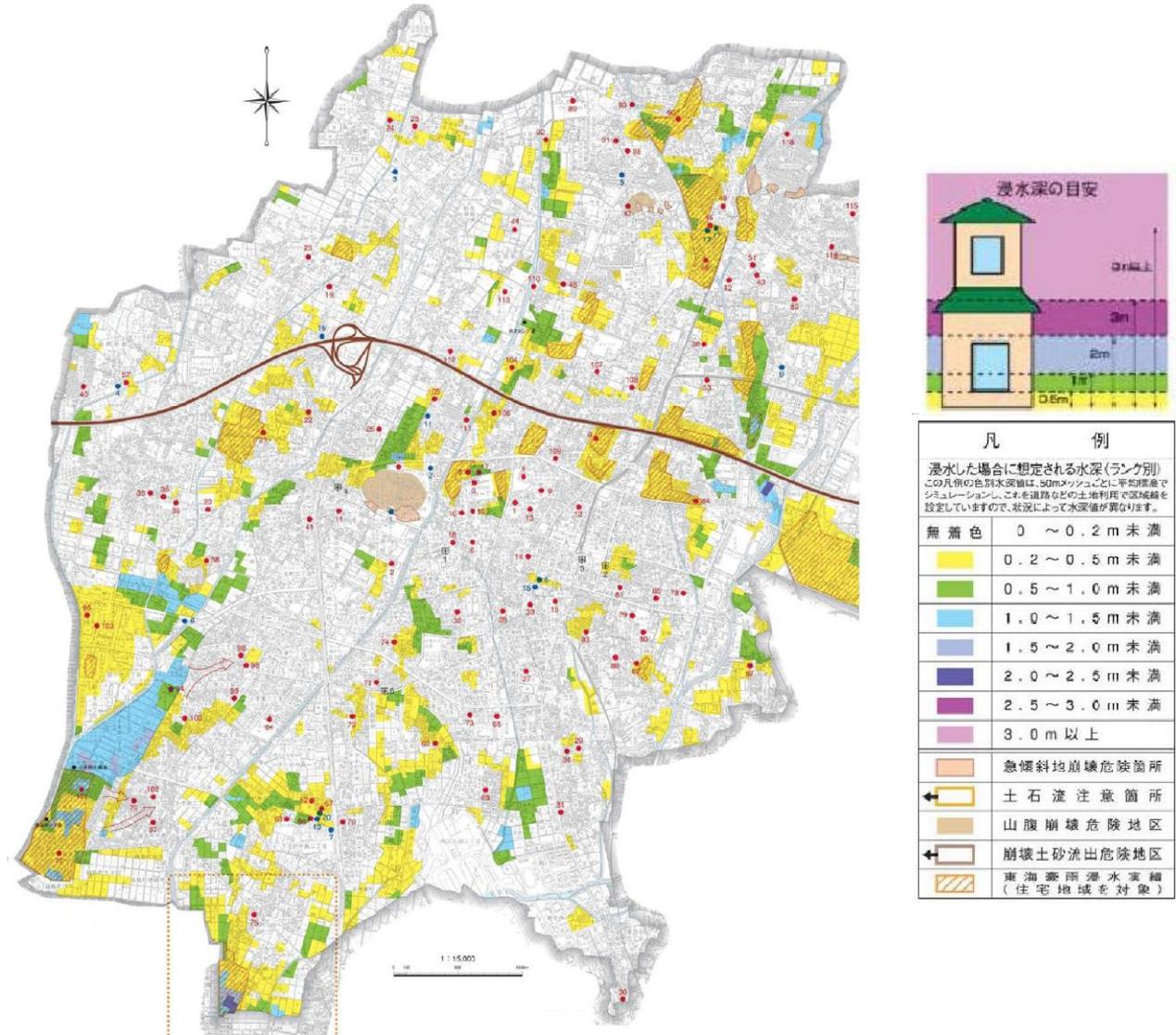
※1 東海豪雨：平成12年（2000年）9月11日から12日にかけて起こった豪雨。特に、愛知県西部から三重県北中部にかけて局地的な豪雨となり、名古屋市や東海市では日最大1時間降水量や日降水量が観測史上第1位を更新するなど猛烈な雨が降った。この豪雨で名古屋市及びその周辺の市町村では堤防の決壊、河川の越水により、広範囲で浸水害が発生したほか、各地で土砂災害も発生した。県内では死者7名、重軽傷者107名、床上浸水24,610世帯に達する甚大な災害が発生した。

※2 濃尾地震：現在の岐阜県本巣郡根尾村付近を震源とした地震で、地震の規模を示すマグニチュードは最大級の8.0だった。この地震による揺れは東北地方南部から九州地方にまでおよび、とりわけ震源地に近い岐阜県や愛知県を中心に震度6～7という激しいゆれが記録された。

※3 活断層：第四紀（約200万年前）から現在までの間に動いたとみなされ、将来も活動することが推定され

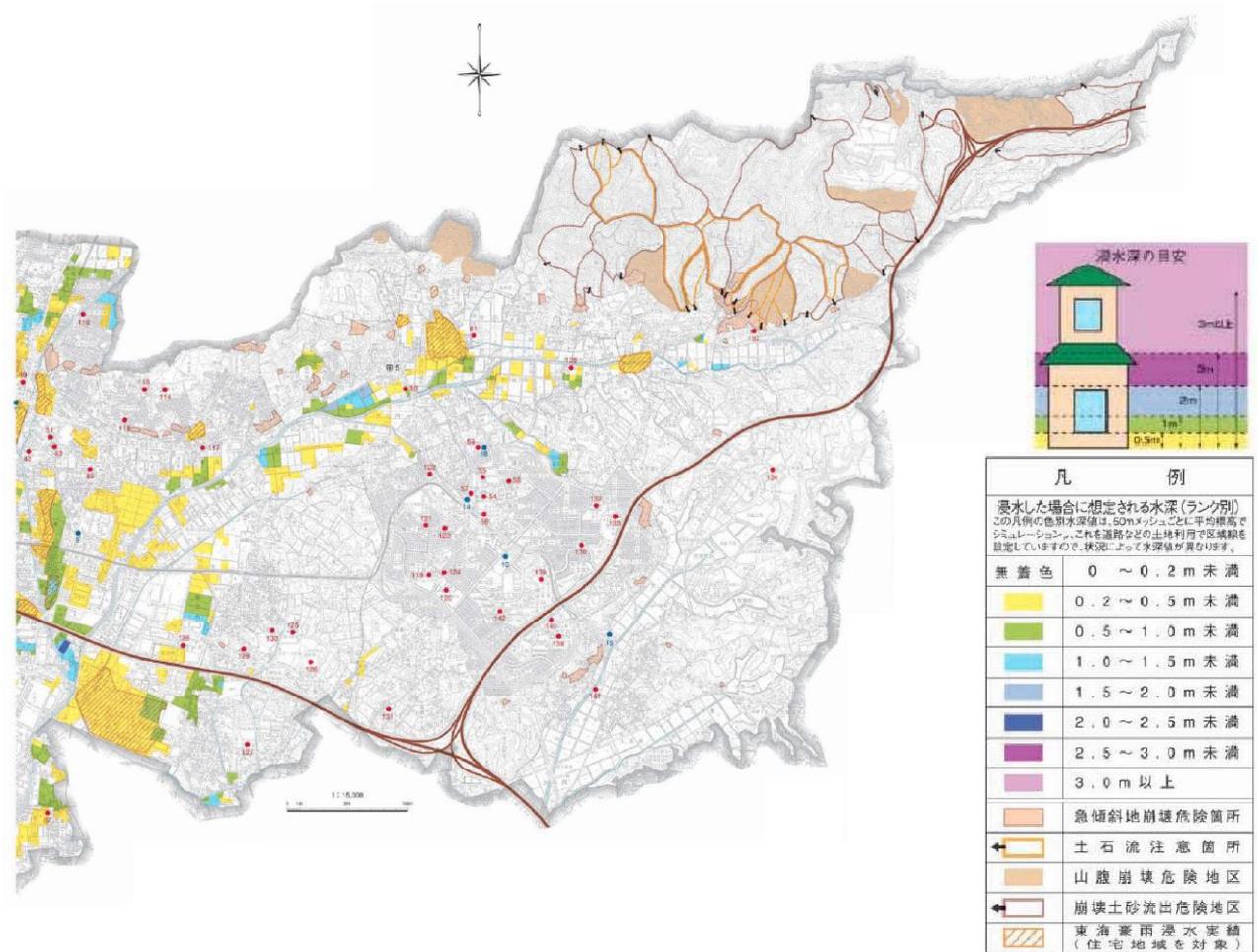
る断層のこと

図 浸水被害実績(市域西部)



(出典：小牧市洪水ハザードマップ)

図 浸水被害実績(市域東部)



(出典：小牧市洪水ハザードマップ)

表 浸水被害実績

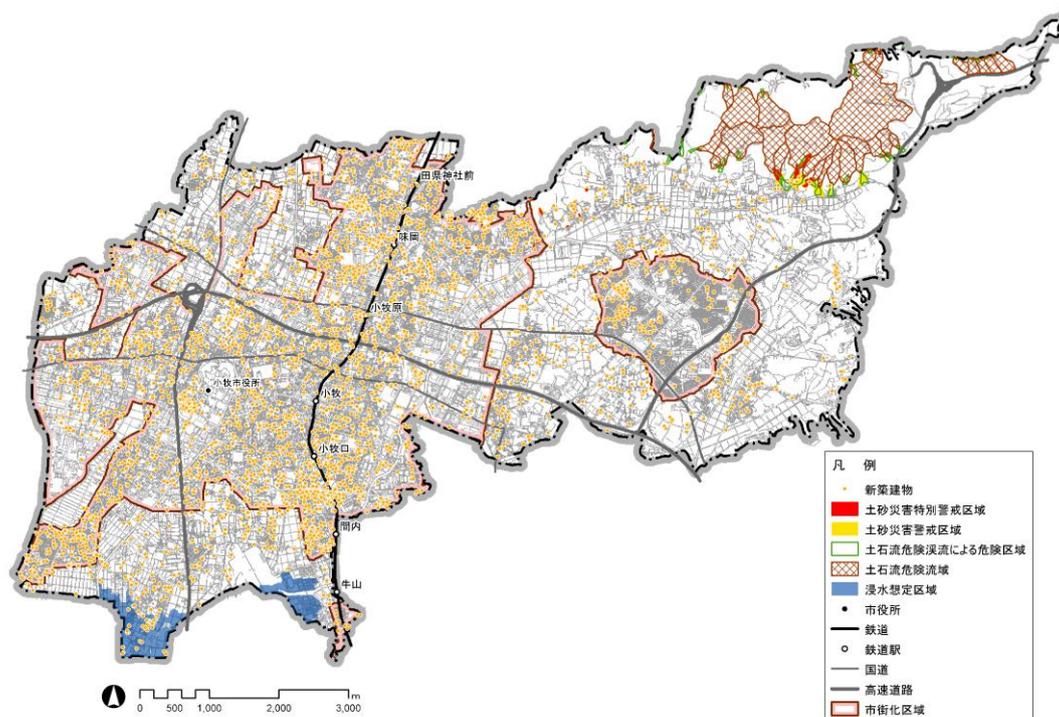
名称等	発生年月日	時間最大雨量 mm/h(観測点)	総雨量 mm(観測点)	浸水戸数		
				床上(戸)	床下(戸)	合計(戸)
東海豪雨	平成12年9月11日~12日	69(北支署)	453(東支署)	111	699	810
	平成16年7月10日	75(消防本部)	84(消防本部)	3	28	31
平成20年8月末豪雨	平成17年8月16日~17日	79(北支署)	199(北支署)	11	81	92
	平成20年8月28日~29日	71(東支署)	130(東支署)	1	25	26
台風18号	平成21年10月7日~8日	67(消防本部)	156(消防本部)	0	9	9
	平成22年7月15日~16日	74(東支署)	143(東支署)	0	22	22
台風15号	平成23年9月19日~21日	69(東支署)	272(東支署)	1	26	27
	平成24年9月豪雨	平成24年9月11日	83(消防本部)	99(消防本部)	0	22
	平成25年7月25日	74(北支署)	97(北支署)	0	6	6
	平成25年8月5日	52(北支署)	65(北支署)	0	4	4
	平成25年9月4日	73(南支署)	115(消防本部)	0	24	24

(出典：こまきの総合治水)

## (2)ハザードエリアと建物新築状況のオーバーラップ

土砂災害及び水害ハザードエリアを平成 19 年（2007 年）から平成 23 年（2011 年）かけての建物の新築状況と重ね合わせると、ハザードエリアにおいても建物の新築が見られます。

図 ハザードエリアと建物新築状況 (H19~H23)



(出典：マップあいち（土砂災害情報マップ）、国土数値情報、平成 24 年（2012 年）都市計画基礎調査)

### (3)防災・減災対策

#### ①地震への備え

地震への対策としては、地域防災計画の地震災害対策計画において、大規模な地震災害に対処すべき措置事項を定めるとともに、「職員初動体制マニュアル」、「地域防災カルテ」及び「行動計画」を作成しています。

主な対策としては、平成20年(2008年)3月に市内の住宅・建築物の耐震診断・耐震改修を促進するための取組みを定めた「小牧市耐震改修促進計画」を策定し、地震による危険性の程度を示す地図(地震防災マップ)の作成や重点的に耐震化を進める区域<sup>※1</sup>の設定などを行うほか、平成27年(2015年)7月に内陸直下型地震<sup>※2</sup>と海溝型地震<sup>※3</sup>のタイプの異なる2つの地震を想定した小牧市地震被害想定調査を行い、その調査結果に基づく避難所の指定・整備などの取組みを進めています。

なお、調査結果によると、想定濃尾地震(濃尾地震が再発した場合)では、市内の多くの地域が震度6弱以上の強い揺れに見舞われ、市域全域に大きな被害を与える可能性があり、地盤が柔らかい箇所では、震度6強の非常に大きな揺れが発生する恐れがあるとされています。

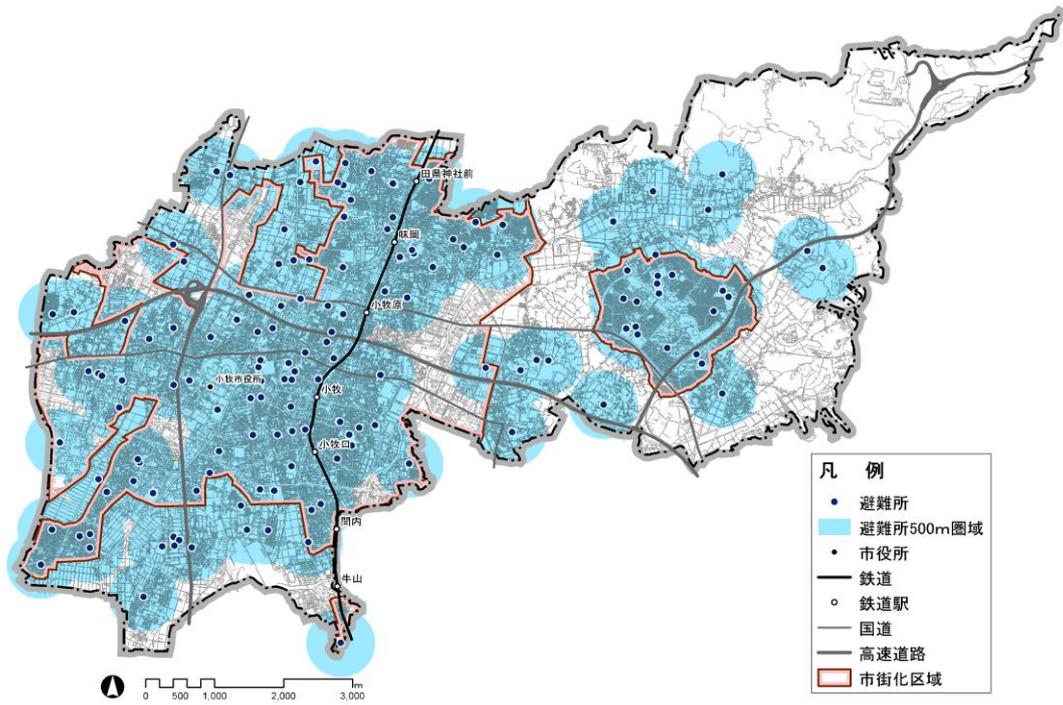
また、南海トラフ巨大地震では、市城南西部で震度6弱の強い揺れが想定されています。

※1 重点的に耐震化を進める区域：地震災害時に火災が発生する可能性が高くかつ倒壊による被害・救援活動に支障がでる区域で、かつ、想定東南海地震による揺れが大きい区域であり、小牧市防災アセスメント調査において災害危険区域と設定された区域。

※2 内陸直下型地震：陸地の真下か、かなり陸地に近いところで起きる地震。

※3 海溝型地震：陸側のプレートと海側のプレートの境界である海溝やトラフ付近で発生する地震。

図 避難場所の指定状況



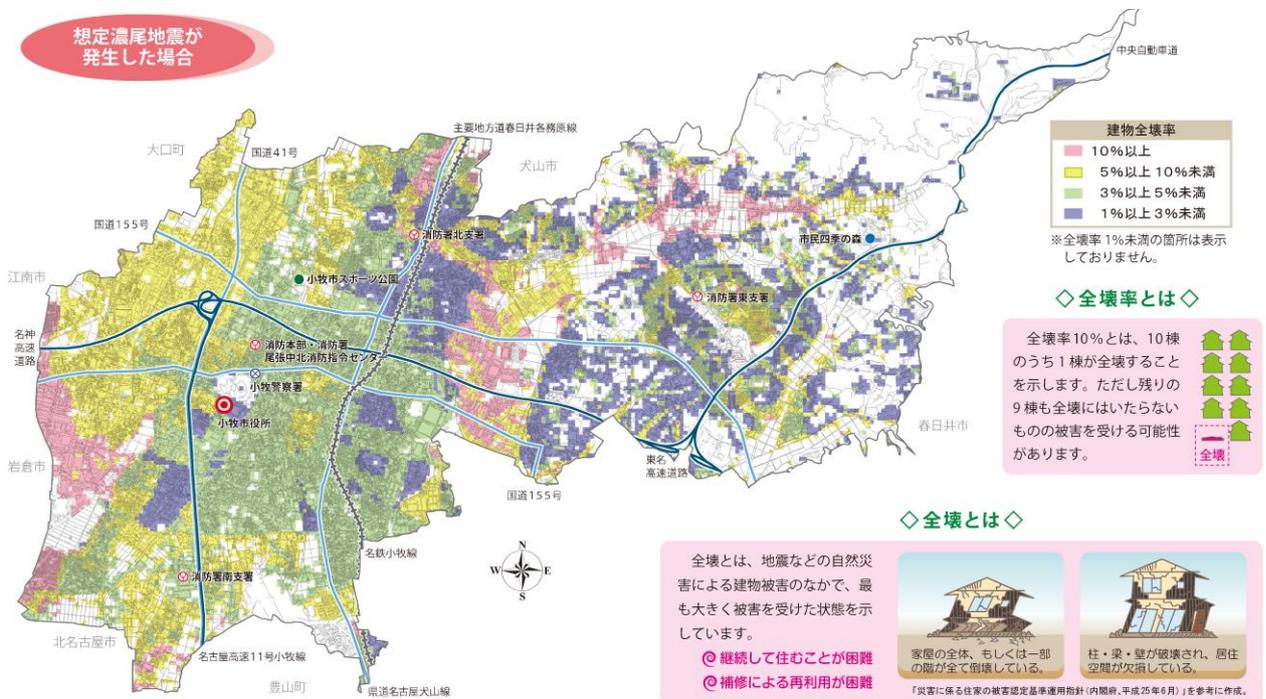
(出典：小牧市地域防災計画)

図 震度分布図(想定濃尾地震)



(出典：「小牧市防災ガイドブック」)

図 建物全壊率分布図(想定濃尾地震)



(出典：「小牧市防災ガイドブック」)

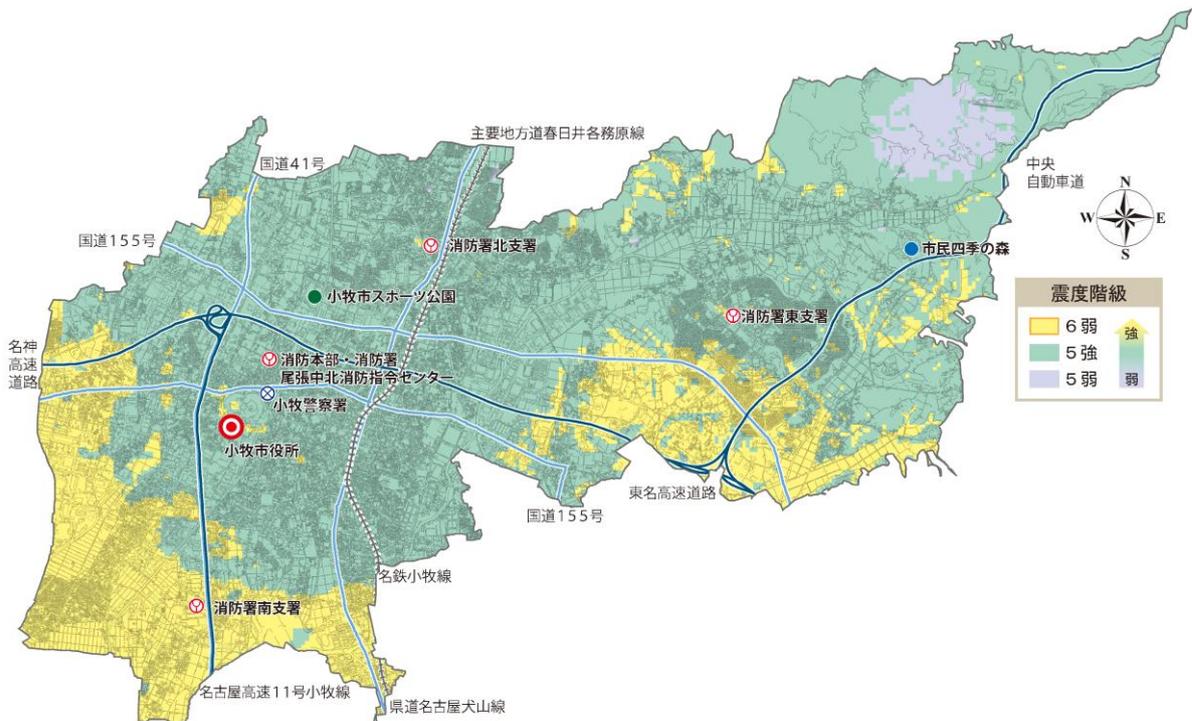
図 液状化※分布図(想定濃尾地震)



(出典：「小牧市防災ガイドブック」)

※液状化：地震発生で繰り返される振動により、地中の地下水の圧力が高くなり、砂の粒子の結びつきがバラバラとなって地下水に浮いたような状態になる現象

図 震度分布図(南海トラフ巨大地震)



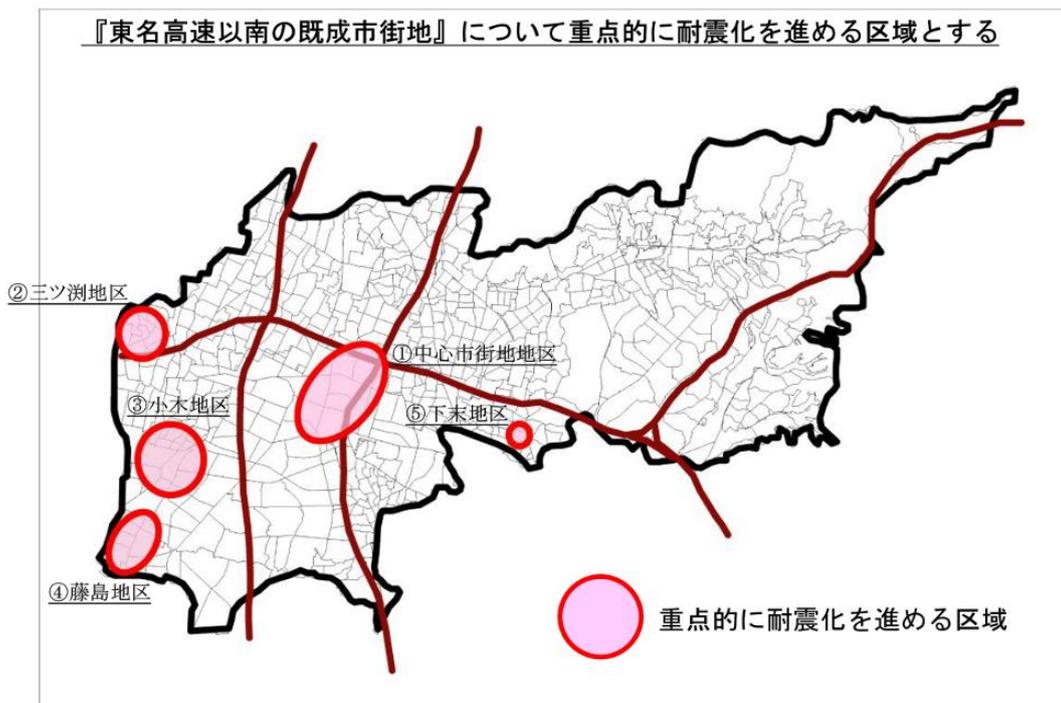
(出典：「小牧市防災ガイドブック」)

図 建物全壊率分布図(南海トラフ巨大地震)



(出典：「小牧市防災ガイドブック」)

図 重点的に耐震改修を進める区域



(出典：小牧市耐震改修促進計画)

## ②土砂災害への備え

土砂災害への対策としては、地域防災計画の地震災害対策計画と風水害・原子力等災害対策計画において、地震災害と水害の両災害に対処すべき措置事項を定めています。

主な対策としては、愛知県において「土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害警戒区域などの指定を行うとともに、区域指定後における開発行為の制限や建築物に対する移転等の勧告を行っています。

また、本市においては、近年の土石流や崖崩れ災害などの頻発に鑑み、土砂災害危険箇所についての情報提供や土砂災害警戒避難区域などに関する警戒避難体制の整備など総合的な土砂災害対策を実施しています。

具体的な対策の内容は次表のとおりです。

表 土砂災害に関する対策

砂防指定地等の管理について	
砂防指定地の管理	開発行為が行われないよう管理する。 ただし、砂防指定地については、一定の技術基準を満たす行為については許可等を行う。
地すべり防止区域の管理	
急傾斜地崩壊危険区域の管理	
土砂災害特別警戒区域の管理	
砂防指定地等の監視	許可行為や無許可行為の監視及び砂防設備や防止施設の状況の把握を行い、人的、施設の災害の防止を図る。
土砂災害対策事業について	
砂防事業	砂防指定地において、土石流を捕捉する堰堤、溪床の安定を図る床固、溪岸の浸食を防止する護岸等の砂防設備を整備する。
地すべり対策事業	地すべり防止区域において、地下水位を低下させる排水施設や地盤の滑動を抑止する杭等の地すべり防止施設を整備する
急傾斜地崩壊対策事業	急傾斜地崩壊危険区域の自然がけに対して、擁壁工、法面工等の急傾斜地崩壊防止施設を整備する。
土砂災害関連情報の提供	気象庁と共同で土砂災害発生の危険度が高まったことを知らせる「土砂災害警戒情報」の発表を行う。
土砂災害警戒区域等の基礎調査	土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定に必要な地形測量、区域設定の検討等の調査を行う。

### ③水害への備え

水害への対策としては、地域防災計画の風水害・原子力等災害対策計画において、水害に対処すべき措置事項を定めています。

主な対策としては、東海豪雨での経験をもとに、国又は都道府県において水防法に基づく浸水想定区域の指定が行われ、想定される浸水深と併せて公表を行っています。

また、平成16年（2004年）3月に小牧市洪水ハザードマップを作成し、住民に対して情報提供を行うとともに、小牧市防災ガイドブックにおいて、国が管理する庄内川と愛知県が管理する新川（大山川）の浸水想定区域図に基づき、2つの河川がはん濫した場合の、予想される浸水範囲と深さを示すとともに、愛知県が公表している基礎資料に基づき、新川流域の内水はん濫<sup>※1</sup> 想定の結果を示した地区別防災避難所マップを作成しています。

なお、新川流域では、総合治水対策<sup>※2</sup>として国、県、関係市町で構成する新川流域総合治水対策協議会<sup>※3</sup>において、平成18年（2006年）1月に特定都市河川浸水被害対策法に基づく「特定都市河川流域<sup>※4</sup>」の指定がされ、平成19年（2007年）に策定された新川流域水害対策計画に基づき、河川、下水道等が共同して浸水被害の軽減を図っています。

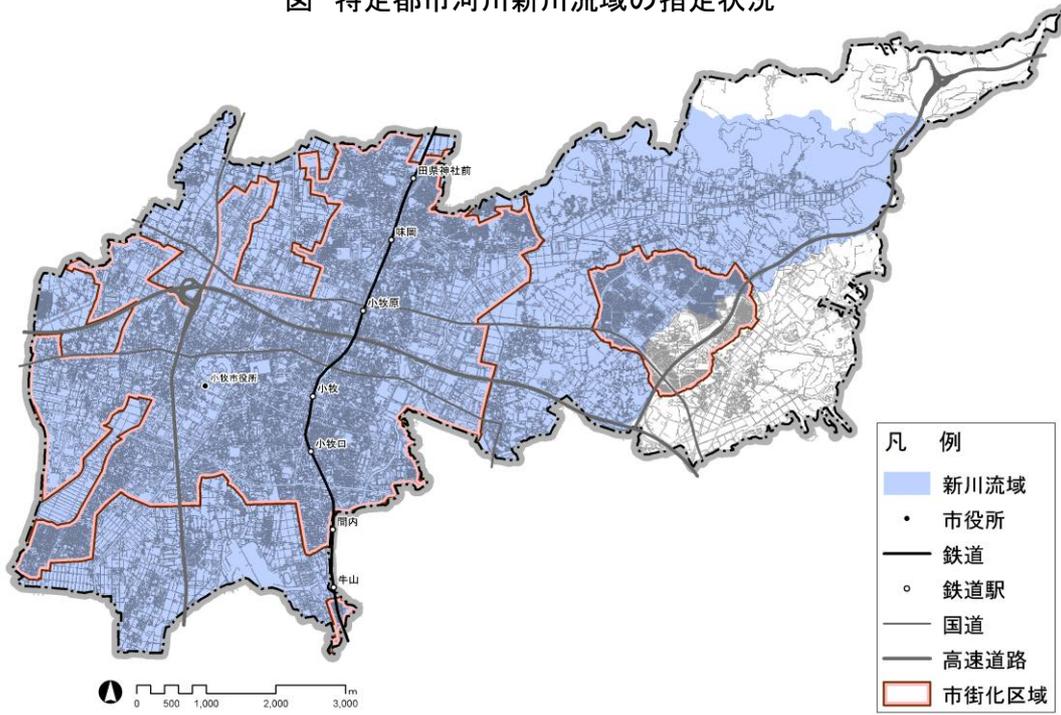
※1 内水はん濫：平坦地に強い雨が降った際に、雨水ははけきらずに地面に溜まり、排水用の水路や小河川から水が溢れ出すことによって起こる洪水。

※2 総合治水対策：「河川の改修」と「流域内での対策」、さらに洪水や浸水が起こった時の「警戒避難体制の確立」などを合わせて実施し、被害の防止を図ること。

※3 新川流域総合治水対策協議会：国、県、関係市町の連携により、新川流域における河川整備や下水道整備等を着実に実施するために作られた協議会。

※4 特定都市河川流域：特定都市河川（都市部を流れる河川であって、その流域において著しい浸水被害が発生し、又はそのおそれがあるにもかかわらず、河道又は洪水調節ダムの整備による浸水被害の防止が市街化の進展により困難なものうち、国土交通大臣又は都道府県知事が特定都市河川浸水被害対策法の規定により区間を限って指定するもの）の流域がある場合、その排水区域として国土交通大臣又は都道府県知事が同法の規定により指定するもの。

図 特定都市河川新川流域の指定状況



(出典：マップあいち (特定都市河川流域図))

## 2-7 財政

### 1 財政の状況

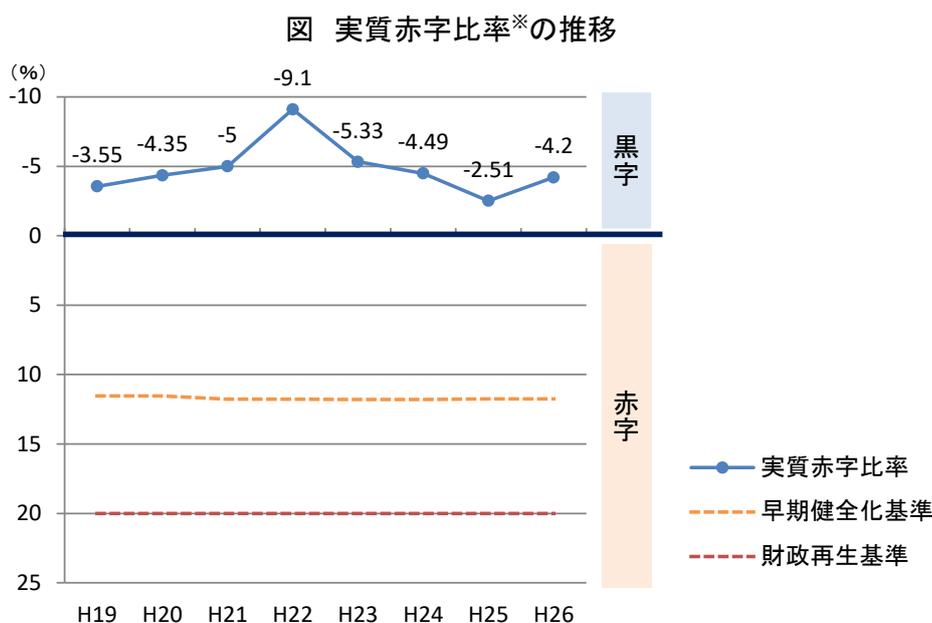
#### (1) 財政の状況

立地適正化計画においては、持続可能な都市経営を実現するという観点から、将来の人口の見通しとそれを踏まえた財政の見通しを立て、都市構造と財政支出の関係を精査することが望ましいとされています。（都市計画運用指針）

そこで、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」において、地方公共団体の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標として「健全化判断比率」に定められている4つの財政指標（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）により、本市の財政状況をみると、本市では、実質赤字比率、連結実質赤字比率は、ともに黒字で推移しており、実質公債費比率や将来負担比率についても、低負担で推移しています。

なお、法令で定められている「早期健全化基準」を超えると、自治体には健全化計画を定め健全化を行う義務が生じ、「財政再生基準」を超えると、再生計画を定め国の関与のもと厳しい財政再建に取り組むこととなりますが、本市では、いずれの指標も各基準を超えていないため、健全な財政運営を堅持しているといえます。

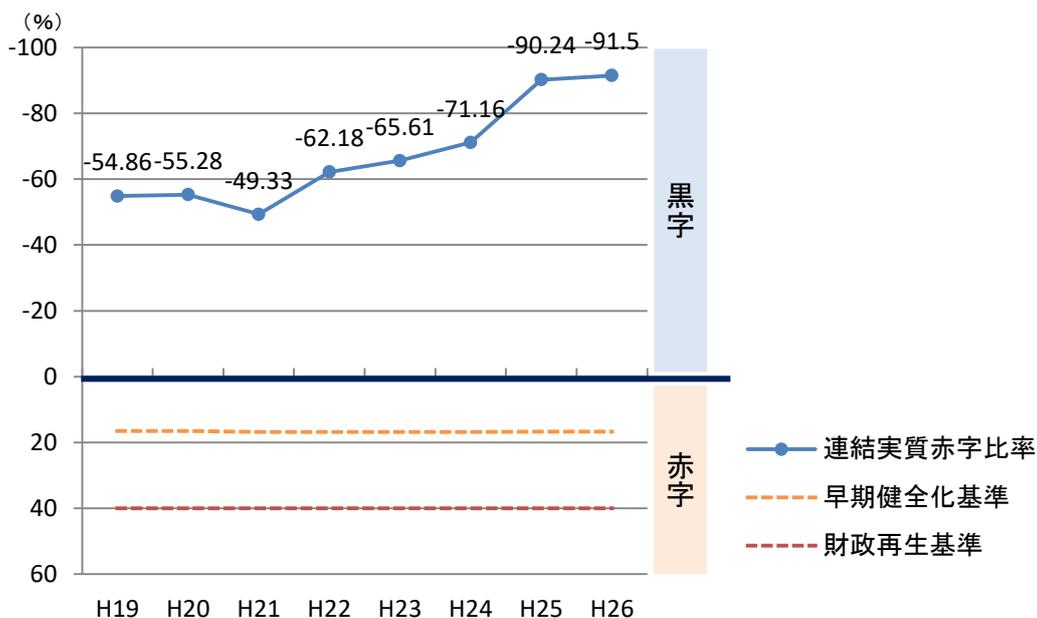
また、本市では、大規模な建設事業など金額の大きい事業に対し、負担の世代間公平性の観点から、市債（借金）の借り入れをしています。将来の財政負担となる市債残高の推移を見ると、ここ数年は減少していますが、平成26年度（2014年度）は味岡中学校校舎等改築事業などの財源をまかなったためやや増加しています。



（出典：決算カードより編集）

<sup>\*</sup>実質赤字比率：地方公共団体の最も主要な会計である「一般会計」等に生じている赤字の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。

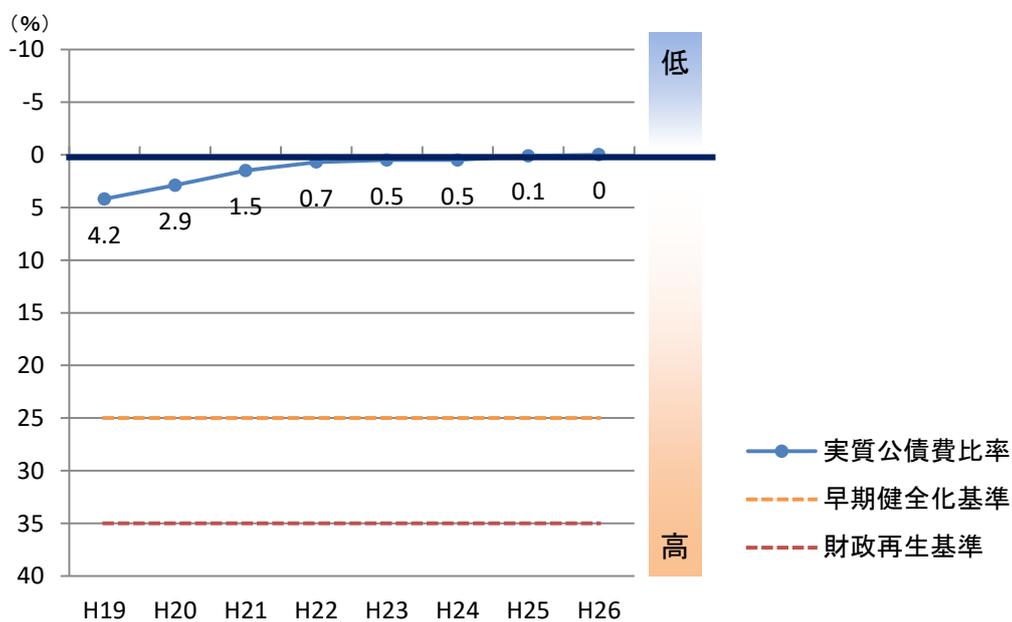
図 連結実質赤字比率<sup>※</sup>の推移



(出典：決算カードより編集)

※連結実質赤字比率：公立病院や下水道など公営企業を含む「地方公共団体の全会計」に生じている赤字の大きさを、財政規模に対する割合で表したものの。

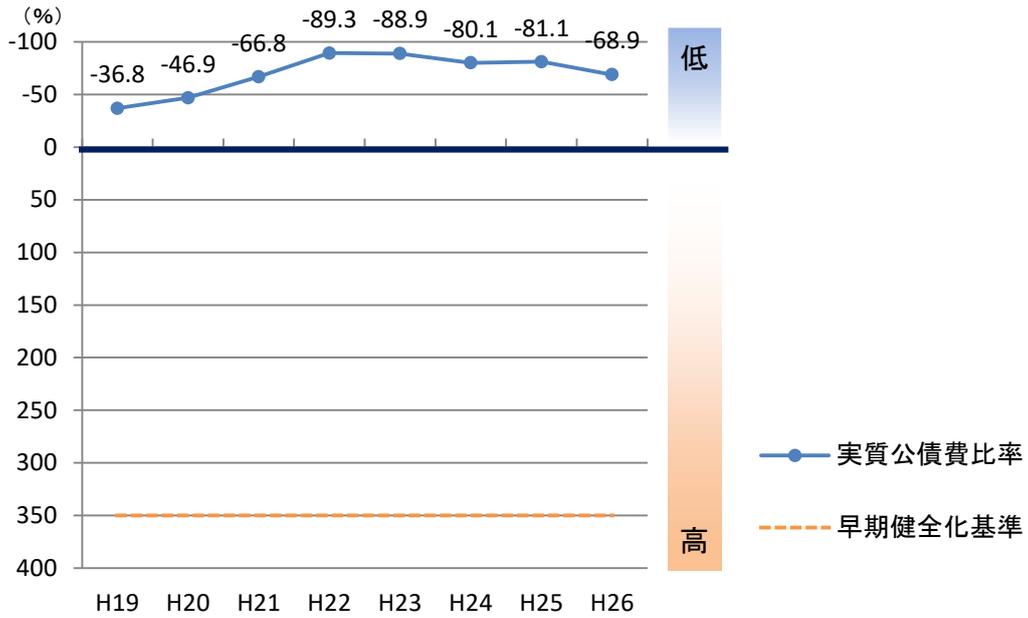
図 実質公債費比率<sup>※</sup>の推移



(出典：決算カードより編集)

※実質公債費比率：地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模等に対する割合の3ヵ年の平均値で表したものの。

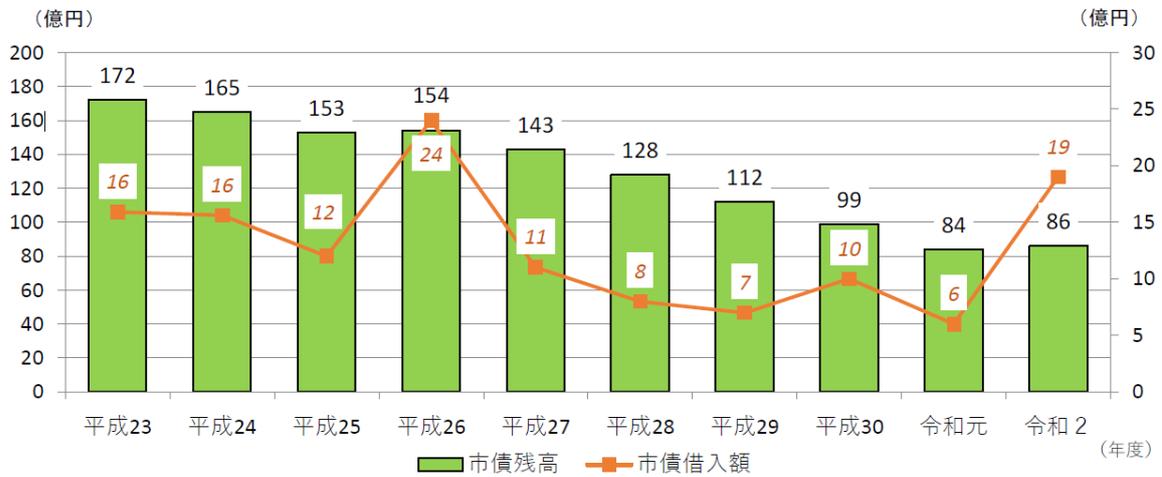
図 将来負担比率※の推移



(出典：決算カードより編集)

※将来負担比率：地方公共団体の借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模等に対する割合で表したものの。

図 市債残高(普通会計ベース)

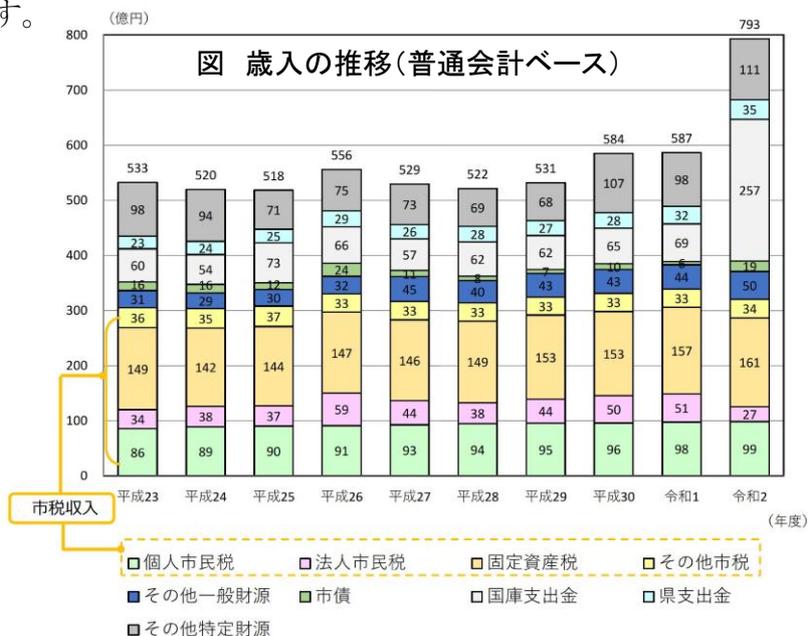


(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針 (R5.3))

## (2) 歳入・歳出の状況

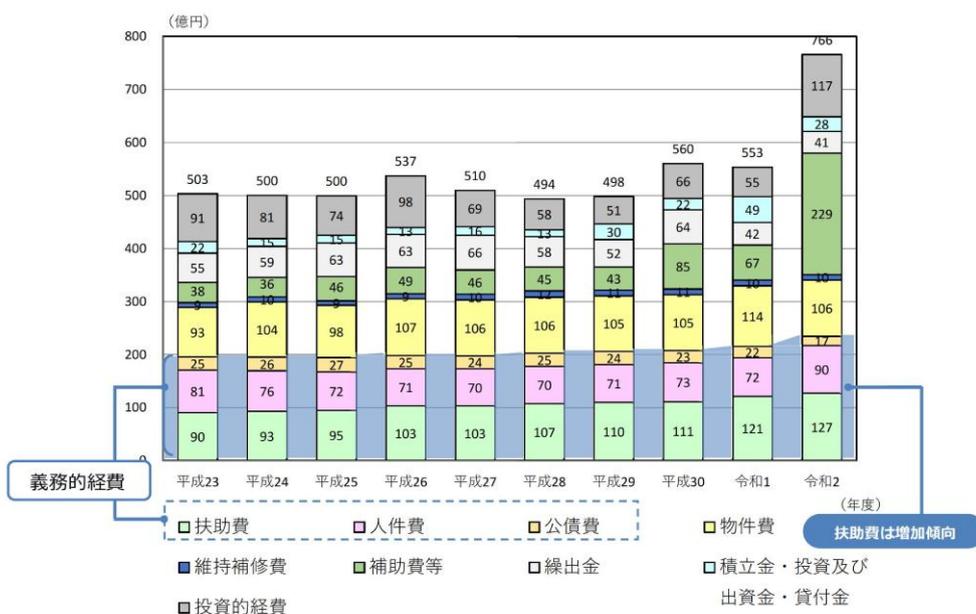
歳入については、令和2年度（2020年度）を除き、平成23年度（2011年度）以降は概ね500億円で推移しており、内訳をみると、市税収入が歳入総額の6割程度となっています。

一方、歳出については、令和2年度（2020年度）を除き、平成23年度（2011年度）以降は概ね500億円で推移しており、内訳をみると、社会保障費等の扶助費は増加傾向にあります。



(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針 (R5.3))

## 図 歳出の推移

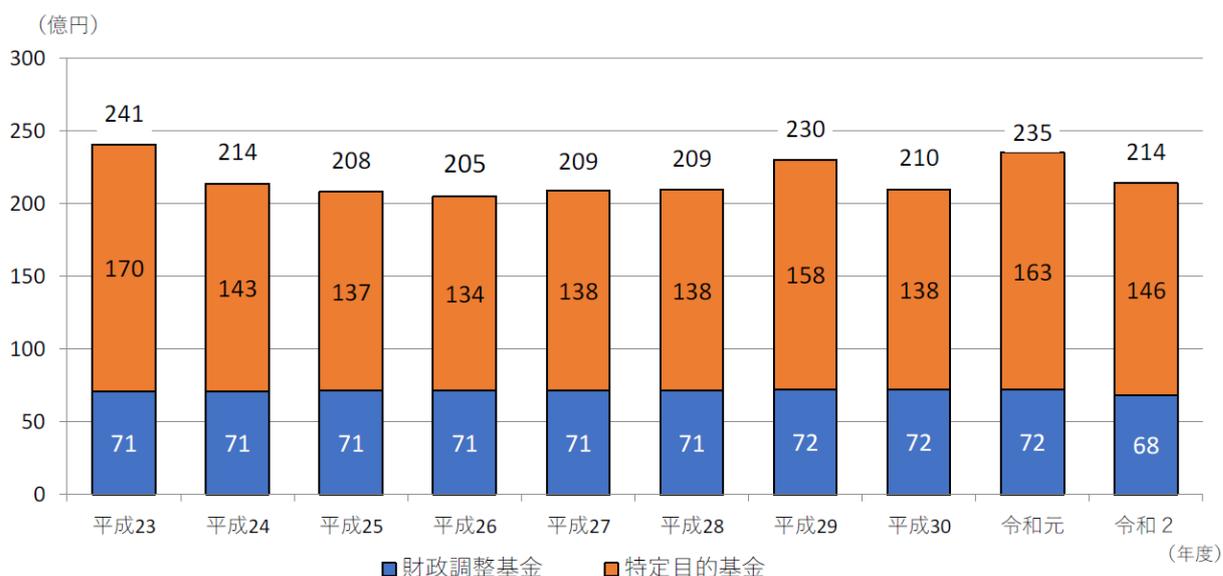


(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針 (R5.3))

### (3) 基金残高

本市では、年度間の財源調整や大規模施設整備に対し、計画的な財政運営を行うため将来の支出に備えるものとして基金（貯金）を積み立てています。基金残高の推移を見ると、平成24年度（2012年度）に市役所本庁舎や小牧小学校の改築により、平成30年度（2018年度）に小牧市民病院建設により、令和2年度（2020年度）に小牧市中央図書館やこまきこども未来館の整備によりそれぞれ基金を取り崩していますが、随時積立も行っているため、全体としては概ね横ばいで推移しています。

図 基金残高の推移



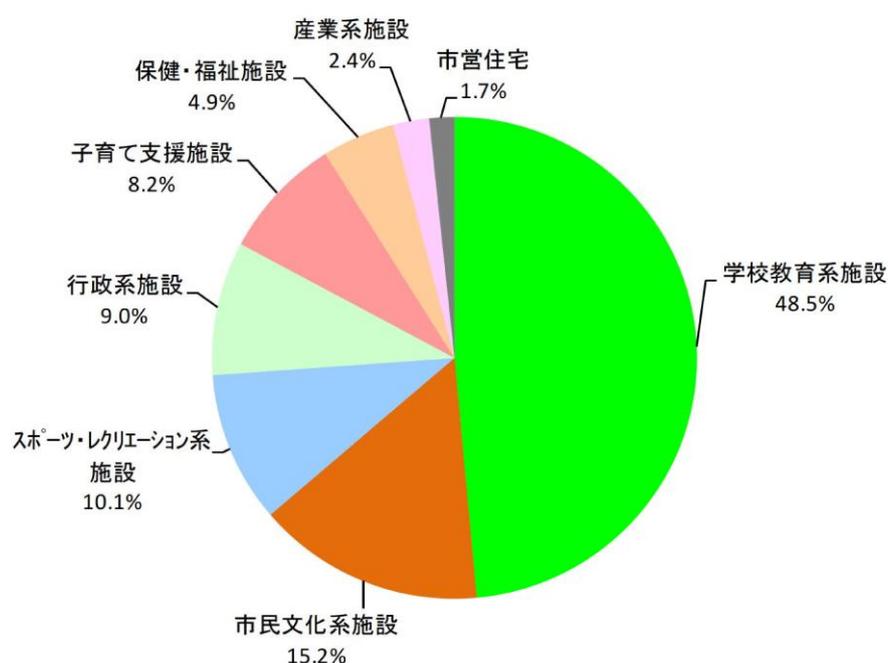
(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針 (R5.3))

#### (4) 公共施設等の保有状況

本市の公共施設等の保有状況について、用途別の建築物総延床面積をみると、学校教育系施設が最も多く、全体の48.5%を占めています。

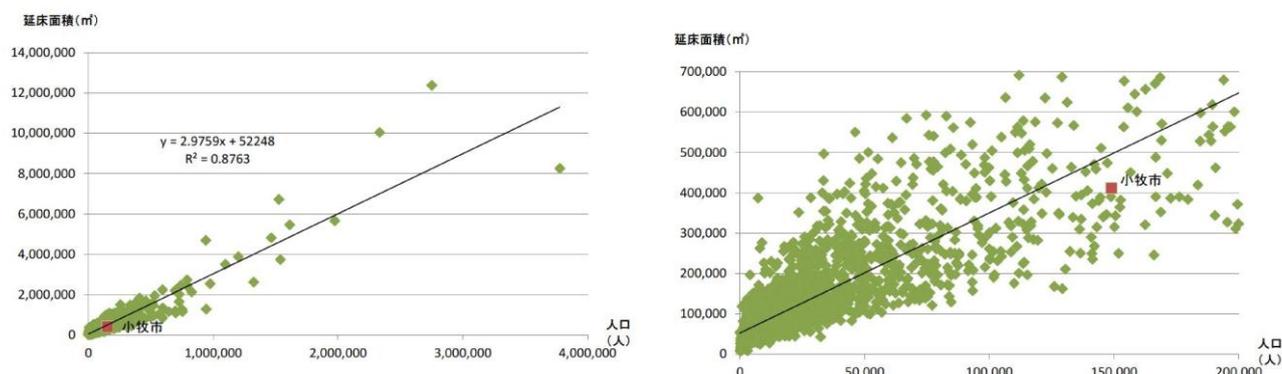
また、公共建築物の保有量と人口は、概ね比例関係にあり、本市の人口1人あたりの公共建築物の保有量は、約2.8㎡となっており、全国平均(約3.7㎡)を下回っています。

図 用途別の建築物総延床面積の保有割合 (R4.3)



(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針 (R5.3))

図 自治体別の公共施設保有量と人口(左:全国、右:拡大)

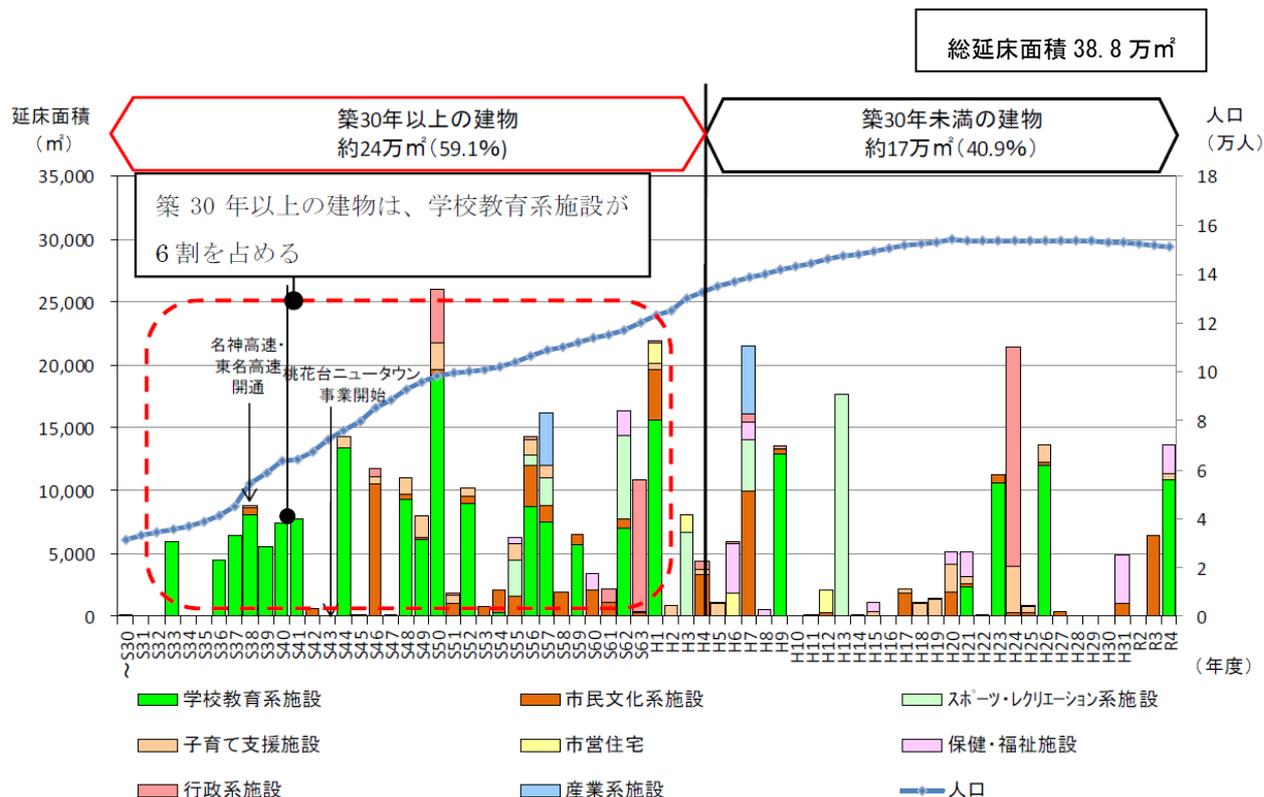


(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針 (R5.3))

## (5) 公共建築物の築年別整備状況

本市の人口増加に併せて整備してきた公共建築物のうち、築30年以上の建物は、総延床面積の59.1%を占めています。その内、学校教育系施設は、6割を占めており集中的に施設整備を行ってきたため老朽化が進んでいるものが多く、今後、建替え、大規模改修などの必要性が高まってくるものが予測されます。

図 築年別整備状況(令和4年(2022年)3月末時点)



※ 人口については、昭和30年(1955年)は国勢調査人口(10月1日現在)、昭和35年(1960年)以降は住民基本台帳(10月1日現在)を用いています。なお、昭和31年(1956年)から昭和34年(1959年)については、線形補間により推定(数字と数字の間が直線的であると考えて、近似値を算出)しています。

(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針(R5.3))

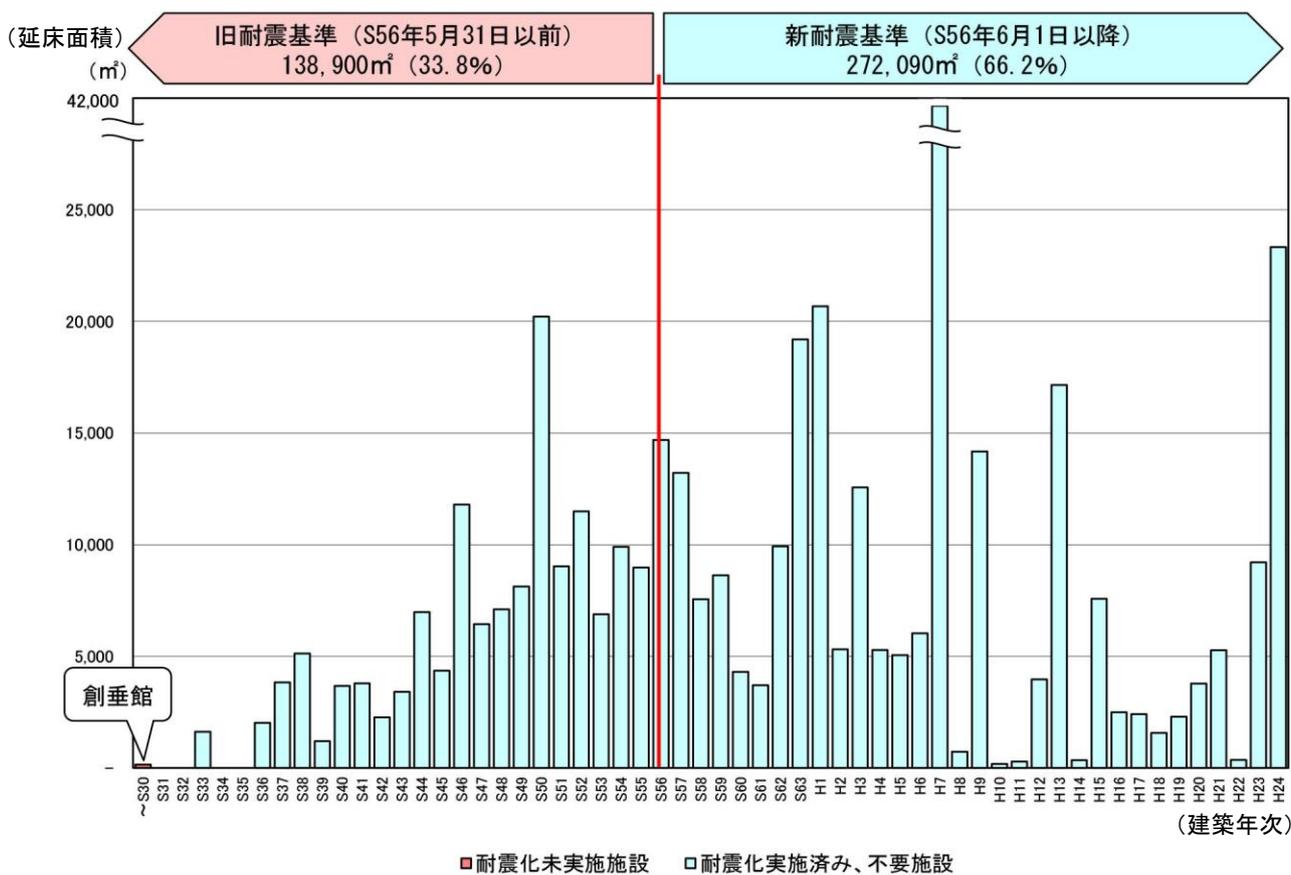
## (6) 公共建築物の耐震化状況

本市が所有する公共施設の総延床面積のうち旧耐震基準（昭和56年（1981年）5月31日以前）施設の延床面積の割合は、約3割となっています。

耐震化の状況は、建物の柱、梁、耐力壁などの構造体について、耐震診断を行い、耐震改修が必要と診断された施設は、創垂館を除きすべて耐震補強済みです。

また、壁や天井、照明器具などの非構造部材の耐震化については、小中学校で実施し、保育園・幼稚園についてもガラスの飛散防止や家具の転倒防止などの対策を実施しました。

図 耐震化状況



※原則 100 m<sup>2</sup>以上の公共建築物を対象  
(出典：小牧市公共施設白書)

## (7) 将来の公共建築物の建替え・大規模改修にかかる費用推計

### ① 公共建築物の将来更新費用

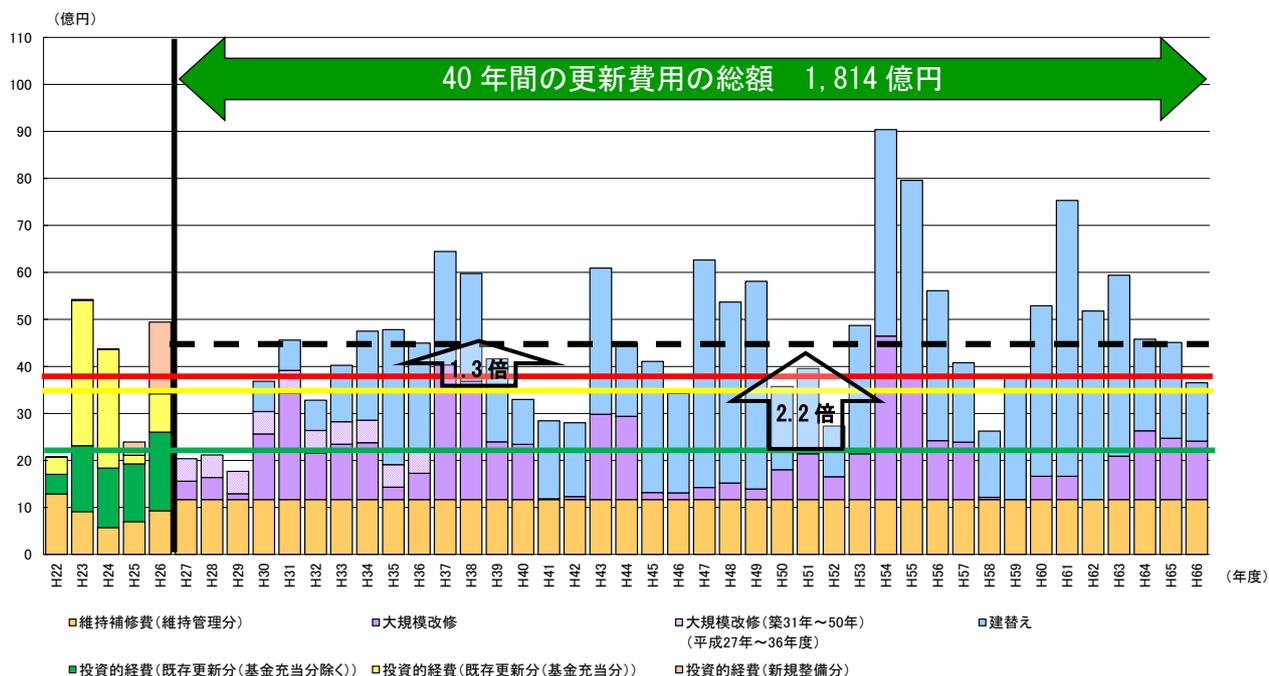
本市が保有する公共建築物にかかる今後 40 年間の建替え・大規模改修の費用を（一財）自治総合センターが作成したソフトの考えを用いて試算したところ、平成 27 年度（2015 年度）から令和 36 年度（2054 年度）までの 40 年間に、年度平均で 45.4 億円（下図表 黒破線）が必要となる結果となりました。

これは直近 5 か年の公共建築物にかかる投資的経費の年度平均の 34.7 億円（下図表黄のライン）の支出の概ね 1.3 倍となり、今後公共建築物にかかる経費により財政負担が増大していくものと予測されます。

また、仮に直近 5 か年の投資的経費\*から基金を充当した分を差し引いて試算をした場合、年度平均は、20.7 億円（下図表 緑のライン）となり、今後見込まれる 45.4 億円と約 2.2 倍もの差が生じることになります。

※ 投資的経費：道路、橋梁、公園、学校、府営住宅の建設等社会資本の整備に要するものであり、支出の効果がストックとして将来に残るものに支出される経費のこと地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模等に対する割合の 3 か年の平均値で表したもの。

図 将来の更新費用の推計（公共建築物のみ）



(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針)

表 直近5か年度平均投資的経費との比較

投資的経費の範囲	直近5か年度平均 投資的経費	単年度当たり 将来更新費用	比率
既存更新分（基金充当分除く）【緑のライン】	20.7 億円	45.4 億円	2.2 倍
既存更新分【黄のライン】	34.7 億円		1.3 倍
既存更新分+新規整備分【赤のライン】	38.4 億円		1.2 倍

(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針)

【将来の更新費用試算の前提条件】

将来の更新費用試算の前提条件は、(一財)自治総合センターが作成したソフトにより試算しています。

前提条件の主な内容は以下のとおりです。

- ・建築物の耐用年数は、60年と仮定する。
- ・建物付属設備及び配管の耐用年数が概ね15年であることから、2回目の改修時期である建設後30年で建築物の大規模改修を行い、さらにその後30年で建替えると仮定する。
- ・試算時点で、建設時からの経過年数が31年以上50年までの施設（大規模改修実施済み施設を除く）については、直近の10年間で均等に大規模改修を行うと仮定し、建設時より51年以上経過している施設については、建替えの時期が近いことから、大規模改修は行わずに60年を経過した年度に建替えることとする。
- ・建替え及び大規模改修費用は、年度ごとのばらつきを軽減させるため、工事期間を建替えは3年、大規模改修は2年とし、経費を均等に振り分けて計上する。
- ・学校は、棟別ではなく、学校単位での更新を基本とする。
- ・1㎡当たりの更新単価は、下表のとおりとする。

図表：更新単価

<b>❖ 建替え</b>	
市民文化系施設・行政系施設等	40 万円/㎡
スポーツ・レクリエーション系施設、保健・福祉施設等	36 万円/㎡
学校教育系施設、子育て支援施設等	33 万円/㎡
市営住宅	28 万円/㎡
<b>❖ 大規模改修</b>	
市民文化系施設・行政系施設等	25 万円/㎡
スポーツ・レクリエーション系施設、保健・福祉施設等	20 万円/㎡
学校教育系施設、子育て支援施設等	17 万円/㎡
市営住宅	17 万円/㎡

## ②今後の財政推計

「(2) 歳入・歳出の状況」で検討したとおり、今後は扶助費の増嵩や市税収入の減少により、徐々に投資的経費の確保が厳しくなっていくことが予測されます。

「小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針（小牧市公共施設等総合管理計画）」では、人口減少、少子高齢化の進展等による本市の財政への影響や、今後の公共施設の建替え（更新）や改修、修繕にかかる経費の推計などを加味して、今後 40 年間の財政予測のシミュレーションを行っています。

### 【歳入の主な前提条件】

- ・平成 23 年度から平成 26 年度の普通会計決算額を基礎とする
- ・個人市民税は、生産年齢人口の減少に伴い減少させる
- ・法人市民税、地方消費税交付金等は、税制改正の影響を見込む
- ・国庫支出金・県支出金・市債は歳出のシミュレーションにおける投資と連動させる
- ・基金繰入金と繰越金は、年度ごとの財源過不足額を把握するため対象外とする

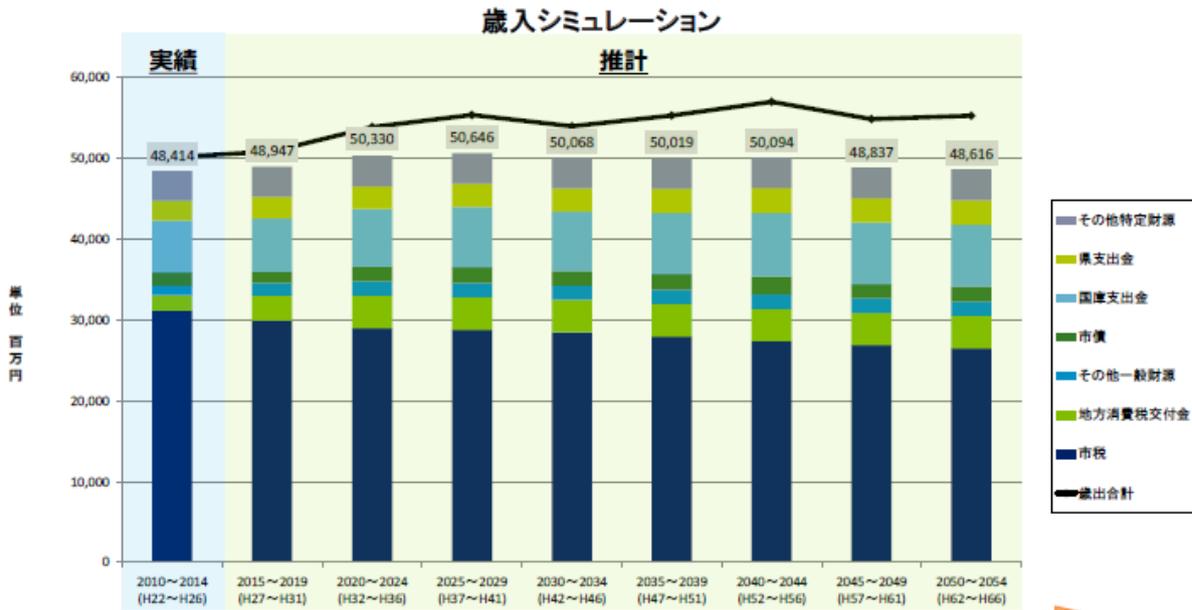
### 【歳出の主な前提条件】

- ・平成 23 年度から平成 26 年度の普通会計決算額を基礎とする
- ・扶助費は、年代別の人口増減に対応して見込む
- ・公債費は、歳入のシミュレーションで増加した市債の償還分についても反映させる
- ・公共施設への投資の前提は、原則全ての公共施設を維持・建替え（更新）すると仮定してシミュレーションを行う（公共建築物、道路、橋梁を対象としている）。ただし、普通会計を対象とした推計であるため、上水道・下水道・病院施設の更新費用は含まない。
- ・基金積立金と前年度繰上充用金は、年度ごとの財源過不足額を把握するため対象外とする
- ・物件費、維持補修費については、消費税率引き上げの影響を見込む

※ この推計は、公共施設の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針を定めるために実施するものであり、本市の財政運営をこの推計どおりに行っていくことを示すものではありません。

推計の結果、今後 40 年間（平成 27 年度（2015 年度）から令和 36 年度（2054 年度））で、歳入では税制改正による影響や生産年齢人口の減少に伴う市税収入の減少が、歳出では高齢者人口の増加に伴う扶助費の増嵩や、公共施設の老朽化に伴う投資的経費の増加が見られます。

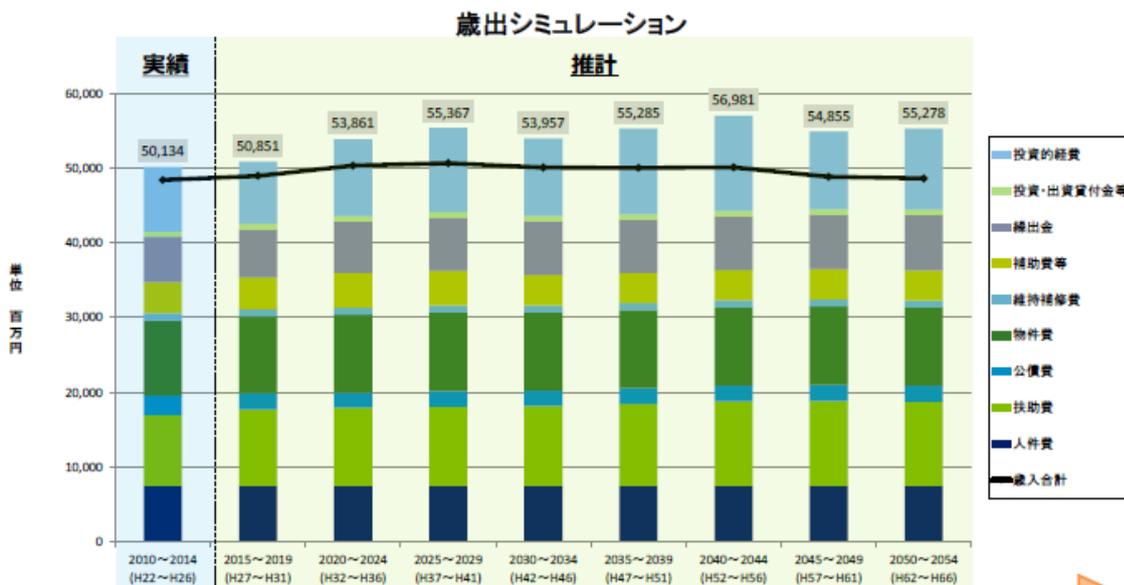
図 財政推計(歳入内訳表示)



●市税：40年後には現在の水準より約48億円減少

(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針)

図 財政推計(歳出内訳表示)



●扶助費：40年後には現在の水準より約17億円増加

●投資的経費：今後40年間の1年あたり平均は現在の水準より約21億円増加

(出典：小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針)

## (8) 土地(市有地)の現状

本市が保有する土地について、行政財産と普通財産に分けると下表のような状況にあります。なお、普通財産のうち、「500 m<sup>2</sup>以上で利用可能」としているのは、市街化区域内にある土地で、1カ所の敷地面積が500 m<sup>2</sup>（附置義務駐車場を備えたコンビニエンスストア程度）以上で、かつ現況が遊休状態かまたは、本市で暫定的に使用しており、今後、利用可能となり得る土地となっています。

これらの土地は、立地や規模などが条件に合致すれば、都市機能を誘導する際の建設用地として利用できる可能性があるものです。

表 公有財産の状況(H27)

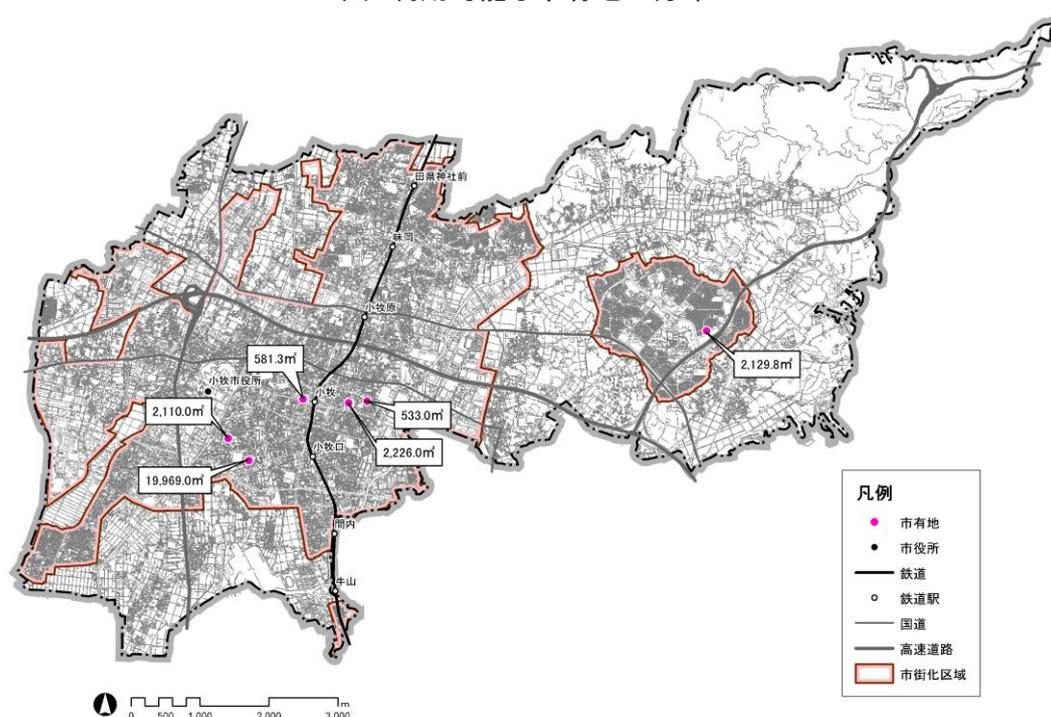
行政財産	普通財産	
敷地面積(m <sup>2</sup> )	敷地面積(m <sup>2</sup> ) (全体)	うち、500m <sup>2</sup> 以上で利用可能な敷地面積(m <sup>2</sup> )
3,140,796.18	208,825.41	27,549.09

※行政財産：市役所等に使用している公用財産、または公園、道路等に使用している公共用財産のこと。

※普通財産：行政財産以外の市役所が所有している公有財産のこと。

(出典：小牧市財産報告書)

図 利用可能な市有地の分布



(出典：小牧市財産報告書より編集)

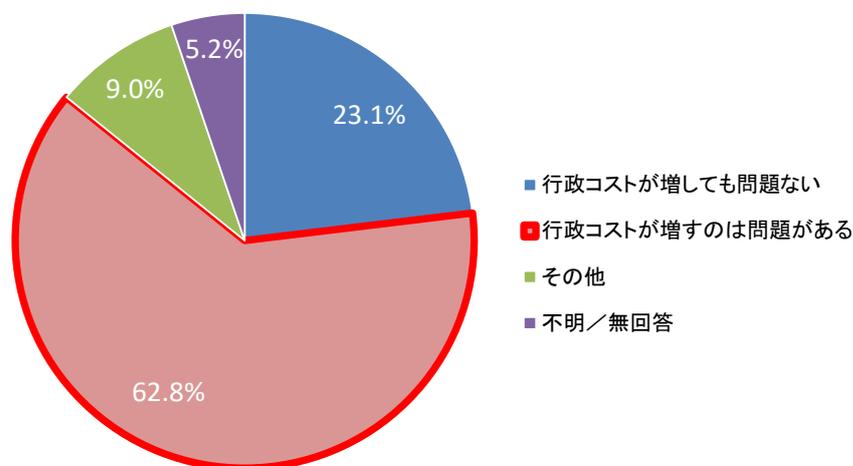
## 2 行政コスト及び公共施設等に係る市民意識

行政コスト及び公共施設等に係る市民意識について、「小牧市のまちづくりに関する市民アンケート調査」及び「小牧市公共施設に関するアンケート調査（平成 27 年（2015 年）9 月）」をもとに以下のとおり整理しました。

### (1) まちづくりと市民 1 人あたりに係る行政コストの関係

- ・約 63%の方が「現状の公共サービス（公共施設や公共交通等）の水準を維持するために、市民 1 人あたりの行政コストが増すのは問題がある」と回答しています。

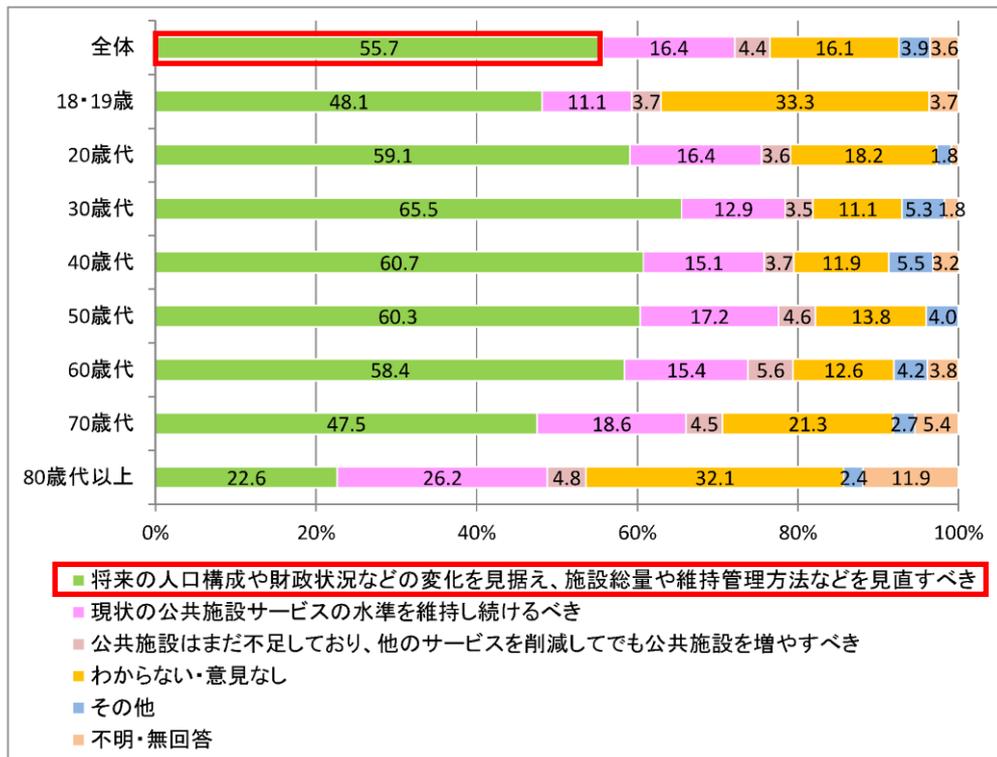
n=1,604



(出典：小牧市のまちづくりに関する市民アンケート調査)

### (2) 今後の公共施設の考え方について

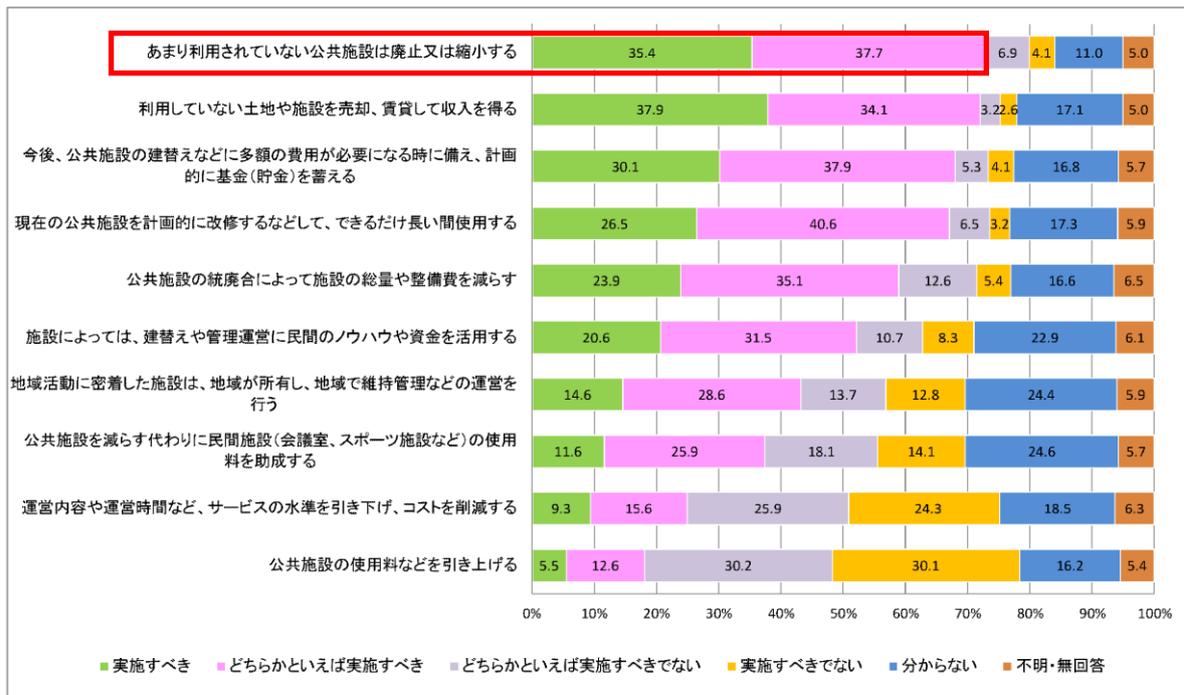
- ・今後の公共施設の考え方については、約 56%の方が「将来の人口構成や財政状況などの変化を見据え、施設総量や維持管理方法などを見直すべき」と回答しています。



(出典：小牧市公共施設に関するアンケート調査)

### (3) 今後の公共施設の整備や施設の考え方について

- ・今後の公共施設の整備や施設の考え方については、約 73%の方が「あまり利用されていない公共施設は廃止又は縮小する」と回答しています。



(出典：小牧市公共施設に関するアンケート調査)